

### Ⅲ 学校評価自己評価

## 1. 学園小中一貫教育報告一覧

学園名	「目指す子ども像」、教育目標
1 峰山学園	「教育目標」 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成 「目指す子ども像」 意欲を持って自ら学ぶ子ども（知） 思いやりのある子ども（徳） 進んで心と体を鍛える子ども（体）
2 大宮学園	(1) 教育目標 自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成 (2) 目指す子ども像 ○ 意欲的に学び、チャレンジする子ども（知） ○ 自他を大切にし、思いやりのある子ども（徳） ○ 心身を鍛え、活動的な子ども（体）
3 網野学園	「目指す子ども像」 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】 意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子 【徳】 規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子 【体】 粘り強く心身を鍛え、やり抜く子ども 「学校教育目標」 将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進
4 丹後学園	「目指す子ども像」 ①ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子 【知】 ②自分を大切にし、人を思いやれる子 【徳】 ③ねばり強く身体をきたえる子 【体】 「教育目標」 夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成
5 弥栄学園	「目指す子ども像」 (知)知識と技を磨き、活用する子 (徳)自他の良さを知り、共に伸びる子 (体)心身をきたえ、何事もやり抜く子 「教育目標」 故郷を愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く児童生徒の育成
6 久美浜学園	「教育目標」 ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心を持ち、根気強く努力する子どもの育成 「目指す子ども像」 (知) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子ども (徳) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子ども (体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども

## 2. 京丹後市立幼稚園・こども園、学校評価自己評価報告一覧

学校名	学校・園教育目標
1 峰山こども園	“笑顔でつながろう。みんなの てとて!!” —はなそう・つたえよう・みんなのおもい— (1) 生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 (2) 主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 (3) 身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。
2 大宮こども園	“笑顔と元気でつながる仲間!!” ～かんじて かんがえ ぐんぐんのぼそう 心の根～ (1) 生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育む。 (2) 身近な生活に主体的に関わり、言葉によるコミュニケーションを育む。
3 網野幼稚園	(1) 幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 (2) 自分の思いや考えを表現し、行動できる力を養う。 (3) 幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を育てる。 (4) 常に園内外の安全指導、安全対策に留意する。 (5) 地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。
4 丹後こども園	一人一人が生き生きと活動し、「楽しんで広がれ！つなぐれ！みんなえがお！」をテーマに、人とのかかわりや様々な体験を通して心豊かでたくましく、やさしさがあふれ、「生きる力」をもつ幼児を育成する。
5 弥栄こども園	「自然に親しみ 丈夫な体と 豊かな心を持った 明るい子どもの育成」 ○健康で生き生きと活動する子どもの育成 ○友達と関わり合って遊びを創り出す子どもの育成 ○人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えが言える子どもの育成 ○素直で思いやりのある子どもの育成
6 かぶと山こども園	こども園教育・保育目標「元気な体と豊かな心、生きる力を持ったたくましい子ども」 《元気 勇気 笑顔 つながれ仲間》「いっぱい遊ぼう！夢中になって」～身近な人とのかかわりを通してつながる喜びを感じよう～ 1 園児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。 2 人とのかかわりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。 3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現できる力を育てる。

学校名	学校・園教育目標
7 峰山小学校	社会の中で自立し、多様な人々と協働し、個性や能力を生かしながらよりよく創造的に生きることが出来る力を育てる。 1 将来に生きて働く質の高い学力を育てる。 2 ものごとの本質や価値、生き方・在り方を深く考える力を育てる。 3 自分の力と時間を使い、社会に貢献しようとする態度を育てる。
8 いさなご小学校	峰山学園の教育目標である「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」を目指して教育活動を展開する。 峰山学園小中一貫教育により本校の教育活動を充実させ、京都府小学校教育研究会研究協力校として、算数科の研究を進めていく。
9 しんざん小学校	1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】
10 長岡小学校	「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に努める。 <目指す子ども像> ・意欲を持って自ら学ぶ子ども ・思いやりのある子ども ・進んで心と体を鍛える子ども
11 大宮第一小学校	1 意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 2 自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 3 心身を鍛え、活動的な子どもの育成 4 組織的・効率的・機能的な学校経営による信頼される学校づくりの推進 5 大宮学園経営計画に基づく小中一貫教育の充実
12 大宮南小学校	大宮学園 教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成」 ・学級づくりを基盤にして確かな学力をつける。 ・人権意識の育成を図る。 ・体験活動の充実を図る。
13 網野北小学校	1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
14 網野南小学校	網野学園小中一貫教育の目標から 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」 目指す子ども像 ・ あかるく元気に進んで学ぶ子 ・ みんななかよく支え合う子 ・ のびのび生き生きやりぬく子
15 島津小学校	1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
16 橋小学校	【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子 【知】 意欲的に学習に取り組む子ども み：みんななかよく支え合う子 【徳】 規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども の：のびのび生き生きやりぬく子 【体】 粘り強く心身を鍛え、やり抜く子ども 「毎日元気に登校したくなる学校」を目指す。
17 豊栄小学校	○学校教育目標 『夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成』 ○めざす児童像 (1) ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子 (知) (2) 自分を大切にし、人を思いやれる子 (徳) (3) ねばり強く身体をきたえる子 (体) ○めざす学校像 (1) 仲良く関わり合い、心やからだをきたえ、学び意欲にあふれる楽しい学校 (2) 地域の自然や文化の良さを知り学び、児童・地域・保護者から信頼させる学校
18 間人小学校	教育目標 (丹後学園共通) 「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 <目指す学校像> 1 よく考え学ぶ学校 2 友だちと仲良くする学校 3 最後まで粘り強く努力する学校 4 家庭・地域のつながりを生かした学校
19 宇川小学校	「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 ・ 将来を展望し、未来を拓くために充実した学校生活を送る学校【児童】 ・ 目指す子ども像を基に、全教職員が連携を図り、責任を持つ学校【教職員】 ・ 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】

学校名	学校・園教育目標
20 吉野小学校	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を基に主体的・対話的で深い学びの授業改善を通し、学力向上を図る。 2 小中一貫教育モデルカリキュラムを活用し地域の特色を生かした教育課程の編成を行う。 3 保護者・地域、関係機関との連携を深め、保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。
21 弥栄小学校	「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く児童生徒の育成」 ・知識と技を磨き、活用する子 ・自他の良さを知り、共に伸びる子 ・心身をきたえ、何事もやりぬく子
22 久美浜小学校	学校教育目標の達成に向け、校訓「一生懸命」を取り入れた教育活動を推進する。 1 質の高い学力をつけるための学習指導及び学習環境整備を進める。 2 質の高い学力を培う基盤として、児童同士の好ましい友人関係の構築を一層進めるとともに、社会的なマナーの確立や規範意識の醸成を図る。 3 上記1・2を進めるために、中学校卒業時の生徒像を常に意識し、学園教職員として互いに理解し合い、学園経営と学校経営の連携を図りながら進める。
23 高龍小学校	意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成 — 子どもの実態や系統性を踏まえた指導 — 1 基礎基本の徹底 2 言語活動の充実 3 家庭学習時間の確保
24 かぶと山小学校	久美浜学園教育目標 ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心を持ち、根気強く努力する子どもの育成 めざす児童像 (知) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子 (徳) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 (体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで協力して取り組む子
25 峰山中学校	<b>【教育目標】</b> 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 <b>【めざす生徒像】</b> ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 <b>【重点課題】</b> ・小中一貫教育の手法を用いた授業改善と学力の向上 ・豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止 ・学校業務の見直しと改善
26 大宮中学校	1 夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成 2 学習意欲を高める授業の充実と家庭学習の定着 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 4 信頼される学校づくり 5 教職員の資質能力の向上
27 網野中学校	将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。
28 丹後中学校	開校5年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。 生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。
29 弥栄中学校	習得すべき内容を確実に身につけさせること。また、人権意識を高め、周囲を思いやる豊かな心の育成をめざし、不安や悩みを解消する力を身につけさせ、希望の進路を実現する。
30 久美浜中学校	○規範意識の醸成を基盤とし、当たり前が当たり前でできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にする学校を目指す。 ○久美浜学園小中一貫教育の利点を最大限に生かし、教職員間の共通理解を丁寧に図りながら系統的に実践を積み上げる。 1 生徒の自尊感情を高め、好ましい人間関係を構築する。 2 学力の充実・向上方策を共有し、全教職員で実践を進める。 ◇学ぶ意欲の向上、基礎基本の徹底 ◇「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善、言語活動の充実 3 「久美浜学園学校地域連携推進協議会」や「地域学校協働本部」等と連携し、新たな仕組みを機能化させ地域とともにある学校づくりを目指す。

## 1 「目指す子ども像」、教育目標

教育目標	自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成
目指す子ども像	
	意欲を持って自ら学ぶ子ども (知)
	思いやりのある子ども (徳)
	進んで心と体を鍛える子ども (体)

## 2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

(1) 確かな学力の育成	言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を行い、自己肯定感を高めるため、学園で共通させる指導の目標と視点を踏まえて、小学校から中学校まで一貫した実践を進める。(授業研究)
ア	生徒指導の3機能を生かした授業を進める
イ	目標と指導と評価の一体化を進める
(2) コミュニケーション能力の育成	確かな学力を育成する授業実践と連動し、言葉の力の育成を土台として生徒指導の3機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫する積極的な生徒指導を進める。(生徒指導・特別活動)
ア	生徒指導の3機能を生かした教育活動(積極的な生徒指導)
イ	自己肯定感を高める取組(特別活動)
(3) 評価を見通した取組の充実	
ア	学園評価・学校評価の結果に基づく学園経営の充実
イ	教育評価・指導評価の結果に基づく教育実践の改善

## 3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	1 学園内の全ての学校が、年度当初から目指す子ども像・教育目標を共通化 2 学園内の全ての学校が、学園経営方針を各学校の経営方針へ位置付け 3 学園内の全ての学校が、学園経営の課題・重点について各学校の経営方針へ位置付け	年度当初、峰山学園の教育目標及び目指す子ども像を全教職員で共有化した。 1 児童・生徒アンケート、教職員アンケート結果児童生徒アンケートによると、概ね肯定的な評価をしている児童生徒が多い状況である。小中一貫教育を推進する柱の一つに中一ギャップの改善があるが、「自分にはよいところがあると思いますか」に対して肯定的な評価をする生徒が少なくなっていることは今後も注意していく必要がある。この改善には、学力向上が大きな要因になると考えられるので、今後も、重点として取組を進めていく必要がある。 また、教職員アンケートによると、「本時の目標を明確にし、「わかる」授業づくりに努めた。」「主体的で活動する場面を設定した授業づくりに努めた。」「学びを深める多様な学習形態を取り入れた授業づくりに努めた。」などの授業づくりにおいて、「努力してきた」「できた」などの肯定的な評価を行う教員が増えた。特に、中学校教員の肯定的な評価が大変増えた。

		<p>峰山学園の授業づくりに関する意識の高揚を感じる。今後も、授業づくりについては小中学校教職員が、協働的に取り組む。</p> <p>2 重点目標の確かな学力の育成・コミュニケーション能力の育成・評価を見通した取組の充実に向けて、各担当分掌で実践を進めることができた。</p>
就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	<p>1 自己肯定感を育てる授業づくり・生活づくり</p> <p>2 汽水域を中心とした教育課程の編成と一貫した指導</p> <p>3 単元総括テストの作成と交流</p> <p>4 京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用</p> <p>5 学力充実期間等の設定</p> <p>6 中1ふりスタ (中学校1年生集中振り返り学習)</p> <p>7 全ての学年でのふりスタ</p> <p>8 中学校体験授業</p> <p>9 「5年生・6年生の心得」</p> <p>10 二分の一成人式(小学校4年生)、立志式(中学校2年生)</p> <p>11 保幼小の接続を中心とし教育課程の編成と一貫した指導</p> <p>12 小1アプローチプログラム・スタートカリキュラムの実践と検証と改善</p>	<p>1 年間4回校園所長会を実施し、連携を深め、10年間を見通した指導について取組を進めることができた。また、教育支援部会への園・所の参加、1年担任会(園所の参加)・教育課程会議の取組で、園児・児童の連携した支援や小1アプローチプログラム・スタートカリキュラムを改善し、実践することができた。</p> <p>2 「目標と指導と評価の一体化」を具体化するための実践を担当会に位置付け学習指導部と連携しながら(言葉の力の育成:思考する力・判断する力・表現する力)に焦点を当てた評価テストの作成等に取り組むことが出来た。</p> <p>3 生徒指導の3機能を育む授業の推進に向けて、学習指導部会と生徒指導部会が連携し、授業研究会等での実践交流を通して、授業改善を図ることが出来た。</p> <p>4 1中学校4小学校だから実施する必要性があること「中学校体験授業」「中学校出前授業」「小学校合同校外学習」等に取り組むことができた。</p> <p>5 児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、小4ふりスタ・6年生春季宿題の共通化・中1ふりスタ等の取組を継続・充実させるとともに小1～小5までの各学年の学習の振り返りにも取組を広げることができた。</p> <p>6 各校で積極的な生徒指導の取組として児童会・生徒会活動等だけでなく授業にも生徒指導の3機能を生かそうとすることで、コミュニケーション能力を高めることができてきている。また、「二分の一成人式」「立志式」にも取り組み、自分の将来を展望する子どもたちを育てることができてきている。</p>
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	<p>1 目指す子ども像の実現・目指す教師像の意識化に向けた教職員の協働及び教職員の交流</p> <p>(1) 教職員の合同研修会・実践交流の実施</p> <p>(2) 授業を通じた研修会</p> <p>(3) 担任会を通じた研修</p>	<p>1 「自己肯定感を高め、『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」「生徒指導の3機能を生かした授業」について小中学校ともに授業研究に取り組むことができ、授業改善を前進させることができた。</p> <p>2 年4回の全教職員の職員会議及び研修会で</p>

	<p>2 「集団の中で豊かに人とかかわる力」や「コミュニケーション能力」を高めることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施</p> <p>(1) 峰山中学校合唱祭</p> <p>(2) 部活動体験</p> <p>(3) 合同授業・学びの交流等</p> <p>(4) 体育祭・オータムコンサート等</p> <p>(5) 生徒指導の3機能を生かした「わかる・できる」授業実践</p> <p>(6) 学校や地域の一員として主体的に参加する取組</p>	<p>の実践研究及び各部会での実践交流を通して、教職員の交流を図ることができた。</p> <p>3 峰山中学校合唱祭・クリーンキャンペーン・部活動体験・体育祭・ふれあい交流会等、児童生徒は交流を通して中学校への不安を解消したり、自己肯定感を高めたりすることができた。</p> <p>4 小学校合同校外学習・合同授業等を通して小小の交流を深め、コミュニケーション能力を高めたり、豊かな学習を創り上げたりすることができている。</p> <p>5 夏季研修会等への峰山高等学校教員の参加など、高等学校との連携が進んだ。</p>
--	---	--

#### 4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
<p>《成果》</p> <p>1 丹後教育局実施アンケート結果より峰山学園の小中一貫教育の成果は顕著に現れ、峰山学園の児童生徒の課題解消や軽減は着実に進んでいる。</p> <p>2 峰山学園の教職員、児童生徒等のアンケートによって確実に小中一貫教育で目指している指導が浸透しつつあることが分かった。</p> <p>3 学園経営及び進行管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営会議が運営会議、教育課程会議及び生徒指導部、学習指導部などを統括する必要があり、組織改編を行った。</li> <li>・しんざん小の開校に伴い、組織体制を一部変更した。</li> <li>・担任会の実践を進めるためにより機能的な組織体制にして、担任会がより授業づくりの実践推進を担うよう学習指導部と連携できるようにした。</li> <li>・担任会の活動内容（総括テスト、学習の振り返り）を明らかにし、授業改善や学力向上に繋がる実践に取り組むことが出来た。</li> <li>・学園が標榜している授業改善の3つの柱（授業を見る視点、生徒指導の3機能、目標と指導と評価の一体化）に焦点化した実践を進めることが出来た。</li> </ul> <p>4 10年間を見通して一貫した取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「目標と指導と評価の一体化」を具体化するための実践を担任会に位置付け学習指導部と連携しながら（言葉の力の育成：思考する力・判断する力・表現する力）に焦点を当てた評</li> </ul>	<p>○平成31年度は、現体制（1中学校4小学校2子ども園の組織図及び組織体制）で運営していく。</p> <p>○担任会の取組の継続・発展</p> <p>担任会…今年度の体制を維持し次の内容に取り組む</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学年の学習内容の復習のための課題づくり</li> <li>②目標と指導と評価の一体化を具体化する総括テストづくり</li> <li>③学年独自の指導課題（教材の理解や指導方法等）の交流</li> <li>④0期～Ⅲ期の指導目標を踏まえた指導の充実を図る。</li> </ol> <p>○小中学校教員の研修会</p> <p>各校の実践の交流の機会となる研修会とする。</p> <p>○平成31年度の教育目標・目指す子ども像・目指す教師像</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育目標 「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」</li> <li>2 目指す子ども像 意欲を持って自ら学ぶ子ども（知） 思いやりのある子ども（徳） 進んで心と体を鍛える子ども（体）</li> <li>3 目指す教師像 教育的愛情と、使命感・情熱に満ちている教師 人間的魅力にあふれている教師 高い「専門性」と「授業力」を持ち、確かな学力をつけることができる教師 児童生徒、保護者、同僚、地域の人から信頼される教師「京丹後」への理解と愛情と、国際的な視点に立った教育を進めることができる教師</li> </ol>

<p>価テストの作成等に取り組むことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の3機能を育む授業の推進に向けて、学習指導部会と生徒指導部会が連携し、授業研究会等での実践交流を通して、授業改善を図ることができた</li> <li>・1中学校4小学校だから実施する必要性があること「中学校体験授業」「中学校出前授業」等に取り組むことができた。また、「乗り入れ授業(小中連携加配・小中一貫教育支援加配)」「音楽専科による小学校一部教科担任制」にも取り組むことができた。</li> <li>・児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、小4ふりスタ・6年生春季宿題の共通化・中1ふりスタ等の取組を継続・充実させるとともに小1～小5までの各学年の学習の振り返りにも取組を広げることができた。</li> <li>・「5年生・6年生の心得」「共通した学校のきまり」の取組だけでなく、各校で積極的な生徒指導の取組として児童会・生徒会活動等だけでなく授業にも生徒指導の3機能を生かそうとすることで、コミュニケーション能力を高めることができてきている。また、「二分の一人式」「立志式」にも取り組み、自分の将来を展望する子どもたちを育てることができてきている。</li> <li>・「自己肯定感を高め、『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」「生徒指導の3機能を生かした授業」について小中学校ともに授業研究に取り組むことができ、授業改善を大きく前進させることができた。</li> <li>・小中一貫教育コーディネーターの役割を明確にし、学園日より・ホームページ・リーフレットの作成を運営会議と分担したことで、学園の教育活動を保護者・地域に丁寧に広報することができた。また、各会議の記録を担当して、会議運営が充実することができた。</li> </ul> <p>《課題》</p> <p>1 平成31年度学園経営に向けて</p> <p>(1) 組織体制及び運営上の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も10年間を見通した連携・一貫した指導となるよう分掌や分掌の任務の改善を進める。</li> <li>特に、0期～Ⅲ期に目指す児童生徒像を具体化してその指導を行う。</li> </ul>	<p>4 学園経営方針</p> <p>(1) 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学園【児童・生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 自分の将来を展望し、意欲を持って学ぶことができる取組を進める。</li> <li>イ 自分の思いや考えが表現でき、共に学び、思いやることのできる取組を進める。</li> <li>ウ 粘り強く挑戦し、自らの心や体を鍛えることのできる取組を進める。</li> </ul> <p>(2) 「中学校卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学園【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 児童生徒の願い・希望・悩みに正面から向き合い、共感的理解と指導に努める。</li> <li>イ 「わかる」「できる」授業・生活の創造に取り組む、専門性の向上を図る。</li> <li>ウ 10年間を見通して一貫性・系統性のある指導導を行う。</li> <li>エ 互いに学び合い、協働的な教育活動を展開する組織を構築する。</li> <li>オ 保護者や地域の人達と連携して児童生徒の社会的自立を図る指導を進める。</li> </ul> <p>(3) 保護者・地域に信頼される学園【保護者・地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア PTA・地域と連携した自己肯定感を高める取組を進める。</li> <li>イ 保護者・地域へ双方向の情報発信を行う。</li> <li>ウ 峰山町民が学校の教育活動を積極的に支援する取組を進める。</li> </ul> <p>○学園指導の重点</p> <p>指導の重点「確かな学力の育成(授業研究)」「コミュニケーション能力の育成(生徒指導・特別活動)」「評価を見通した取組の充実」を各小・中学校の教育活動や校内研究・研修に位置付ける。</p> <p><u>また、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのそれぞれの指導区分の指導目標を踏まえ指導を行う。</u></p> <p>(1) 確かな学力の育成</p> <p>言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を行い、自己肯定感を高めるため、学園で共通させる指導の目標と視点を踏まえて、小学校から中学校まで一貫した実践を進める。(授業研究)</p> <p>※「確かな学力」を、峰山学園では、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を総合したものと捉える。</p> <p>ア 生徒指導の3機能を生かした授業を進める授業の中で目指す児童生徒の姿 (3目標)</p>
--	---

<p>(2) 平成31年度に向けての重点的な課題・取組方向</p> <p><b>【教育目標・目指す子ども像・学園経営方針】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成31年度についても、学園として教育目標「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子」の実現に向けて、PDCAサイクルで、学園経営を行っていく。</li> </ul> <p><b>【学園指導の重点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特に「確かな学力の育成」に関する取組では、「目標と指導と評価の一体化」を進めて行く。小小連携で、単元末総括テストの作成・実施・評価・改善に力を入れて取組を更に進める。</li> <li>「目標と指導と評価の一体化」について、中学校での実践の分かる化を進める。</li> <li>夏季研修については、教職員の指導力量を高めていく取組の大きな節としていく。特に授業づくりを重点として取組を行う。</li> <li>授業研究については、学習指導部会が中心となって「自己肯定感を高め、『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」「目標と指導と評価の一体化」「生徒指導の3機能を生かした授業」を基に行う。小中全教職員が授業研究にかかわるためにも、各校で視点を明確にした実践を積み上げる。</li> <li>「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力の育成」では、「言葉の力の育成」に焦点を当てた実践を進める。</li> <li>生徒指導部会では、各校で取り組まれている積極的な生徒指導の取組を交流し、自己指導能力・人間関係力を身に付ける指導方法・取組について実践を積み上げていく。その中で、中学校卒業時に付けるコミュニケーション能力を明らかにしていく。同時に、指導者として各学年・発達段階に応じてそのためにもどのような手立てが必要か検討していく。</li> <li>学園評価について、これまでと同様に早い段階から、学校評価の計画・見直しを持ち、学校評価から学園経営を実践していく。また、教育評価（総括テスト等）から、教育指導を実践していく。ゴールや出口を明らかにすることでより質の高い取組を行う。保護者、地域の方々への評価については変更を加える。</li> </ul> <p><b>【小中一貫教育の具体的な内容】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自己決定をしている</li> <li>②自己存在感を感じている</li> <li>③共感的な人間関係をはぐくんでいる</li> </ul> <p>そのための指導方法（3視点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①主体的に活動する場面が設定された授業</li> <li>②本時の目標が明確で「わかる」授業</li> <li>③学びを深める多様な学習形態を取り入れた授業</li> </ul> <p>イ 目標と指導と評価の一体化を進める</p> <p>(ア) 目標から単元総括テスト作成し、それを踏まえた指導計画と授業設計</p> <p>(イ) 単元総括テストの蓄積と検証</p> <p>(2) コミュニケーション能力の育成</p> <p>確かな学力を育成する授業実践と連動し、言葉の力の育成を土台として生徒指導の3機能を踏まえた就学前から中学校まで一貫する積極的な生徒指導を進める。(生徒指導・特別活動)</p> <p>ア 生徒指導の3機能を生かした教育活動(積極的な生徒指導)</p> <p>イ 自己肯定感を高める取組(特別活動)</p> <p>(ア) 学校や地域社会の一員として主体的に参加する取組</p> <p>(イ) 集団の中で豊かに人とかかわることが出来る取組</p> <p>(3) 評価を見通した取組の充実</p> <p>ア 学園評価・学校評価の結果に基づく学園経営の充実</p> <p>イ 教育評価・指導評価の結果に基づく教育実践の改善</p> <p>○小中一貫教育の具体的な内容</p> <p>1 児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標方針の共有に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学園内の全ての学校が、目指す子ども像・教育目標を共通化</li> <li>(2) 学園内の全ての学校が、学園経営方針を各学校の経営方針へ位置付け</li> <li>(3) 学園内の全ての学校が、学園経営の課題・重点について各学校の経営方針へ位置付け</li> </ul> <p>2 就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 峰山学園の目指す子ども像を見通した指導と教育課程の作成</li> <li>ア 自己肯定感を育てる授業づくり・生活づくり</li> <li>イ 汽水域を中心とした教育課程の編成と一貫した指導</li> </ul> <p>・小6児童の不安感や中1生徒の困り感の再検</p>
--	---

<p>0期・Ⅰ期～Ⅲ期の実践を明確にし、小中一貫教育の姿を確認する。</p> <p>(3) 平成31年度に向けての年間計画・行事の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学園の行事の日程を調整し、同じ曜日が重ならないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>証、中1ギャップの捉え直し</li> <li>・単元総括テストの作成と交流と検証</li> <li>・京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用</li> <li>・学力充実期間等</li> <li>・乗り入れ授業</li> <li>・小学校高学年での一部教科担任制(音楽科)</li> <li>・中1生集中振り返り学習</li> <li>・全ての学年でのふりスタ</li> <li>・中学校体験授業(年2回)</li> <li>・二分の一成人式(小4生)、立志式(中2生)</li> </ul> <p>ウ Ⅰ期～Ⅲ期の実践を明らかにしていく。</p> <p>エ 保幼小の接続を中心とし教育課程の編成と一貫した指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小1アプローチプログラム・スタートカリキュラムの実践と検証</li> </ul> <p>3 子ども、教職員の交流と協働</p> <p>(1) 「目指す子ども像」の実現・「目指す教師像」の意識化⇒教職員の協働及び教職員の交流</p> <p>ア 教職員の合同研修会・実践交流の実施</p> <p>イ 授業を通じた研修会</p> <p>ウ 担任会を通じた研修</p> <p>(2) 「集団の中で豊かに人とかかわる力」や「コミュニケーション能力」を高めることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施</p> <p>ア 峰山中学校合唱祭</p> <p>イ 部活動体験・作品展</p> <p>ウ 合同授業・学びの交流等</p> <p>エ 体育祭等</p> <p>オ 生徒指導の3機能を生かした授業実践</p> <p>カ 学校や地域の一員として主体的に参加する取組</p> <p>キ クリーンキャンペーン</p> <p>4 家庭、地域社会への積極的な情報発信</p> <p>(1) 中学校区の家庭教育の課題(基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立、ほめて育てる家庭教育等)を踏まえた「峰山学園」PTA統一目標の設定</p> <p>(2) 「峰山学園」PTA統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組の計画・実施</p> <p>(3) 「峰山学園」学校評価に基づく学校関係者評価委員による評価の実施と学園の目標、教育活動の保護者・地域住民への積極的な情報発信</p> <p>(4) 峰山町民が学園の教育活動に積極的に参加し、支援できる仕組み(学校支援ボランティア・峰山学園教育支援協議会等)の機能化と充実</p>
---	--

## 1 「目指す子ども像」、教育目標

<p>(1) 教育目標 自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成</p> <p>(2) 目指す子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 意欲的に学び、チャレンジする子ども (知)</li> <li>○ 自他を大切にし、思いやりのある子ども (徳)</li> <li>○ 心身を鍛え、活動的な子ども (体)</li> </ul>
--

## 2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

<p>(1) 確かな学力の育成：「言語活用カリキュラム」の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎学力の向上を目指した「主体的・対話的で深い学び」による授業づくり</li> <li>②小中接続を充実させるための授業づくり、授業計画の策定</li> <li>③「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を目指した授業づくり</li> <li>④保幼小の接続のためのアプローチプログラム・小1スタートカリキュラム</li> </ul> <p>(2) 人権意識の育成：「人権教育カリキュラム」の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①人権教育の理念に基づく「自他を大切に作る心」を育成するための教育活動の充実 全ての教育活動で「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成</li> <li>②人権意識を育成するための人権学習の充実</li> </ul> <p>(3) 連携・体験活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①5歳児1年生・汽水域を中心にした効率的・効果的な連携教育活動、体験活動の充実</li> <li>②体験活動を通して「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成</li> <li>③効率的・効果的な共通した学校のきまり（学習・生徒指導・家庭連携）</li> <li>④夢・未来式（4年生・中3年生）</li> </ul> <p>(4) 目指す子ども像の実現を見通した教職員の交流と協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①教職員の授業研究（主体的・対話的で深い学び）</li> <li>②合同研修会・実践交流会の実施</li> </ul> <p>(5) 家庭、地域社会への啓発、情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①中学校区の家庭教育の課題を踏まえた「大宮学園」PTA統一目標の策定</li> <li>②大宮学園PTAによる「家庭のやくそく」の継続、親のための応援塾の継続</li> <li>③大宮学園PTA統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的取組の計画・実施</li> <li>④大宮学園教育支援協議会による大宮学園教育環境づくりの推進</li> <li>⑤「大宮学園」学校評価の実施と保護者・地域住民への啓発</li> </ul>
---

## 3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	<p>(1) 学園内の全ての学校が、教育目標、目指す子ども像を共通化する。</p> <p>(2) 学園内の全ての学校が、学園経営計画を各校の経営計画へ位置づける。</p> <p>(3) 学園内の全ての学校が、学園児童実態・課題、学園重点方針等</p>	<p>(1) 学園経営の手續きに基づき、教育目標、目指す子ども像について、学園3校での共通化に取り組んだ。</p> <p>(2) 学園経営の手續きに基づき、策定した学園経営計画を各校の経営計画に位置づけ、各校学校経営の充実に取り組んだ。</p> <p>(3) 学園経営の手續きに基づき、学園全体会で最終確認した学園児童生徒実態・課題、学</p>

	<p>を各校の経営計画へ位置づける。</p> <p>(4) 学園小中一貫教育推進部会による理論・実践研究成果を各校に波及させる。</p>	<p>園重点方針等を各校の経営計画へ位置づけ、各校学校経営の充実に向けて取り組んだ。</p> <p>(4) 学園小中一貫教育推進3部会での実践研修成果を、各校学校運営へ波及することができた。</p>
<p>就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程</p>	<p>(1) 大中校区小中一貫校教育課程の編成</p> <p>① 汽水域指導プログラムの推進等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校での乗り入れ授業の計画・実施(加配の活用)</li> <li>・56年生での一部教科担任制</li> <li>・中学校授業体験(年2回)</li> </ul> <p>② I期・II期・III期の学習への円滑な接続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アプローチプログラム、小1スタートカリキュラム(5歳児担任・1年担任)</li> <li>・夢・未来式の実施(小4年生・中3年生)</li> <li>・小4・中1ふりスタ</li> <li>・春季休業中の共通宿題(6年生)</li> </ul> <p>③ 家庭学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の統一手引き</li> <li>・家庭学習がんびり旬間</li> </ul> <p>(2) 学力充実向上に関する取組の進行管理</p> <p>① 学力調査と分析</p> <p>② 授業充実・授業力向上</p> <p>(3) 生徒指導・教育相談の一貫・接続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 5・6年生の心得</li> <li>② 共通の生活の決まり</li> <li>③ 情報モラル教室</li> <li>④ 保育所、こども園、小中連携シート</li> </ul> <p>(4) モデルカリキュラムに係る推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① モデルカリキュラムの研修</li> <li>② モデルカリキュラムの年間指導計画への位置付け</li> </ul>	<p>(1) 大中校区小中一貫校教育課程の編成について</p> <p>① 汽水域指導プログラムの推進等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加配による乗り入れ授業を実施したが、進捗等、組織的に統括するには至らなかった。(小学校から中学校への乗り入れは未実施)</li> <li>・56年生での一部教科担任制について、校内体制で可能な限り実施した。</li> <li>・中学校での授業体験に取り組み、中学校に向け、ギャップ解消につながった。</li> </ul> <p>② I期、II期、III期の学習への円滑な接続について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生担任と5歳児担任の共同により、小1スタートプログラム、アプローチプログラム見直しの基、プロブレム解消実践に取り組んだ。</li> <li>・小4と中3で夢・未来式に取り組んだ。</li> <li>・中1・小4ふりスタ、6年生春季休業中の共通宿題に取り組んだ。</li> </ul> <p>③ 家庭学習の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の手引き、家庭学習がんびり旬間により、家庭学習習慣の向上に取り組んだ。</li> </ul> <p>(2) 学力充実向上に関する取組の進行管理について</p> <p>① 学力充実部の統括により、合同で学力分析を行い、年2回の授業研に取り組んだ。</p> <p>② 教科指導の連携・接続を目指し、担任会、小中合同による教科指導研究に取り組んだ。</p> <p>(3) 生徒指導・教育相談の一貫・接続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 小中で「情報モラル授業」に取り組んだ。</li> <li>② 事例研修、引継シート等の充実に取り組んだ。</li> </ul> <p>(4) モデルカリキュラムに係る推進について</p> <p>① モデルカリキュラムに留意して授業研究に取り組めた。</p>
<p>幼児児童生徒、教職員の交流と協働</p>	<p>(1) 連携・体験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 人権意見発表会(学校毎)</li> <li>② 合唱祭 ③ 体育祭(招待状)</li> </ul>	<p>(1) 連携、体験活動、幼児・児童・生徒交流について</p> <p>① 人権意見発表会(学校毎)・合唱祭・体育</p>

	<p>④部活動体験 ⑤体験授業 ⑥花いっぱい運動（学校毎）</p> <p>(2) 幼児・児童・生徒交流活動 ①児童会・生徒会交流活動 ②挨拶運動 ③生徒会アドバイス ④児童会・生徒会スローガン</p> <p>(3) 教職員の交流と協働 ①担任会（小小担任会、1年担任と5歳児担任、6年担任と中1担任） ②授業研究 ③合同研修・実践交流会</p>	<p>祭（招待状）・花いっぱい運動（学校毎）に取り組んだ。</p> <p>②計画通り、児童会・生徒会交流活動・挨拶運動・合同会議・部活動体験に取り組んだ。</p> <p>③十分に協議を行い、早期にスローガン作成に取り組めた。</p> <p>(2) 目指す子ども像の実現を見通した教職員の交流と協働について ①定例で担任会を実施できた。 ②計画通り、合同授業研究に取り組んだ。 ③学力充実部会、人権・生指部会、教育支援部会等で、合同研修・実践交流に取り組んだ。</p>
家庭、地域社会との連携、情報発信	<p>(1) 中学校区の家庭教育課題を踏まえた「大宮学園」PTA統一目標の策定</p> <p>(2) 大宮学園PTAによる「家庭のやくそく」の取組</p> <p>(3) 大宮学園PTA統一目標に沿った校区全体及び各学校での具体的な取組の計画・実施</p> <p>(4) 大宮学園教育支援協議会運営と大宮学園教育環境づくり</p> <p>(5) 「大宮学園」学校評価の実施と保護者・地域住民への啓発</p>	<p>(1) 計画通り、中学校区の家庭教育課題を踏まえた「大宮学園」PTA統一目標を策定した。</p> <p>(2) 「家庭のやくそく」を配布した。</p> <p>(3) PTA統一目標に沿い、挨拶運動（警報中止）、各PTA活動に取り組んだ。</p> <p>(4) 学園教育支援協議会運営により、地域連携・教育環境づくりの仕組みが整った。</p> <p>(5) 「大宮学園」学校評価は、取り組み毎の評価、年度末評価等、丁寧に実施した。年間を通して大宮学園だより・ホームページにより、大宮学園教育活動の発信に取り組んだ。</p>

#### 4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
<p><b>【成果】</b></p> <p>(1) 本市が目指す小中一貫教育の6つの重要な視点を踏まえて策定した小中一貫教育計画に基づく小中一貫校教育目標、目指す児童像、経営方針により学園経営を充実させることができた。</p> <p>(2) 学園経営的3会議、学園教育課程推進3部会を中心とした学園組織体制により、年間を通して計画的に安定した組織推進ができた。</p> <p>(3) 確かな学力の育成、人権意識の育成、連携・体験教育活動の充実を目標にした学園教育活動、研修活動を計画的・組織的に推進することができた。</p> <p>(4) 「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を目標に、学園経営、学園研修・教育活動を組織的に推進することができた。</p>	<p>(1) 課題1に対して</p> <p>①年度当初、経営会議で、本市が目指す小中一貫教育の6つの重要な視点、それを踏まえた学園経営についての共通理解を図るための十分な協議を行う。経営会議での共通確認に基づき、各校の職員へ十分に説明し共通理解を図る。</p> <p>②共通理解を踏まえ、市が目指す小中一貫教育の6つの重要な視点に基づき、その具現化のための具体的連携・体験教育活動、研修活動を充実させる。</p> <p>(2) 課題2に対して</p> <p>①経営会議は学園を統括し、運営会議は連携・体験教育活動、教育課程会議は学園教育課程を企画・運営するという任務を強化する。</p> <p>②各部会の実践交流・合同研修等の成果を各校へ波及させるという任務を強化する。</p> <p>③施設分離型の小中一貫校のめざす一貫性・連続性と各校経営を担保するための学園組織の仕</p>

<p><b>【課題】</b></p> <p>(1) 全職員で、本市が目指す小中一貫教育の6つの重要な視点、それを踏まえた学園経営についての共通理解と、さらにその具現化のための具体的連携・体験教育活動、研修活動の充実を図る。</p> <p>(2) 3校により、施設分離型の小中一貫校をめざす。一貫性と連続性と、各校経営を担保するための学園組織運営の在り方を追求する。</p> <p>(3) さらに、学習指導の一貫性と連続性、生徒指導の一貫性と連続性、保育所、こども園、小・中学校の連続性の確保、学ぶ意欲と自尊感情の醸成を図るための研修と連携・体験教育活動の充実を図る。</p> <p>(4) 保護者連携、地域連携を充実させるための連携組織である「大宮学園教育支援協議会」の充実推進を図る。</p>	<p>組と、学園分掌と各校校務分掌の接続のための各校一貫教育推進部推進を充実させ、年間を通して機能させる。</p> <p>(3) 課題3に対して</p> <p>①一貫性と連続性を具現化するため、「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を図るための授業研究を充実させる。特に「ことばの力」は、全教科・教科外指導での育成をめざした学園経営を行う。</p> <p>②さらに、一貫性と連続性（接続）を具現化するため、学習指導・生徒指導・人権教育・特別支援教育・教育相談等の実践的研修の充実を図る。</p> <p>③さらに、より効果的で実効性の高い保育所、こども園、小・中学校接続のための連携・体験教育活動を追究する。</p> <p>(4) 課題4に対して</p> <p>①大宮学園教育支援協議会の趣旨に基づき、組織的に運営し、協議内容を学園経営に反映させる。</p>
---	---

1 「目指す子ども像」、教育目標

目指す子ども像

あ：明るく元気に進んで学ぶ子

み：みんななかよく支え合う子

の：のびのび生き生きやりぬく子

【知】意欲的に学習に取り組む子ども

【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども

【体】粘り強く心身を鍛え、やり抜く子ども

学校教育目標

将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進

2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

1 重点的な取組内容

(1) 規範意識の醸成

ア 学習規律の確立

(ア) 人の話を聴く (イ) 時間を守る (ウ) 服装・姿勢を正す

イ 生活習慣の確立

(ア) テレビ・ゲーム・インターネット・SNSなどのルールを決める

(2) 確かな学力の育成

ア 主体的・対話的で深い学びの実現

イ 学びのスタイルの確立と活用能力の向上

(ア) 本時の『めあて』を児童生徒に分かりやすい言葉で提示する

(イ) 思考をくぐらす (ウ) 考えを交流する

ウ 家庭学習の習慣化

(ア) 低 : 20分以上 (イ) 中 : 40分以上

(ウ) 高 : 60分以上 (エ) 中学 : 90分以上

(3) 豊かな人間性

ア 積極的な生徒指導

イ コミュニケーション能力の育成

ウ ボランティア活動

エ 自立的に生きる基礎の確立

(ア) 切れ目のない組織的な支援 (イ) 保護者との連携

2 行動連携

どの学校も目指し、やりきる「これだけは！」

学びスタイルの確立と活用能力の向上

(1) 授業の最初に、本時のねらいをきちっと提示します。

(2) 本時の内容の振り返りを必ず行います。(できる時は自己評価、相互評価)

(3) 言語を通して「理解する」「考える」「表現する」力を育成します。

◇基礎・基本と活用のバランスを考え、授業内容を工夫します。

授業規律の確立と規範意識の醸成

(1) 人の話を聴く

①前を向く ②話し手の顔を見る ③話し手の話をしっかり聴く

(2) 時間を守る(時間のけじめを意識する)

①チャイムが鳴るまでに授業の準備をする。 ②チャイムで始まりチャイムで終わる。

③授業時間と休み時間のけじめをつける。(トイレや保健室利用は休み時間に)

(3) 服装・姿勢を正す。

①靴のかかとを踏まない。 ②机にひじをつかない。 ③机の幅から足を出さない。

しっかり考え学力をのばす「これだけは！」(授業編)

学びスタイルの確立と活用能力の向上

- (1) (2) (3) の具体化として
- ①本時の「めあて」を児童生徒に分かりやすい言葉で提示します。  
 そのために ◇単元のねらいを理解し、本時の目標を明確にとらえる。  
 ◇「何」を「どのように」学ばせるか想起する。
- ②「思考をくぐらせる」場面をつくります。  
 そのために ◇「何」について「どのように」考えさせるのかを想起する。  
 ◇思考させるための「発問」「方法」「支援」を具体的に考える。  
 ◇「書く」「話し合う」など、活動を組み立てる。
- ③「考えを交流する」場面(ペア・グループ学習)をつくります。  
 目的：知恵を集め知恵を創り出す。  
 (学習面から) 考えを交流したり検討したりして内容の理解につなげる。  
 (仲間づくりの面から) 相談したり協力したりして、児童生徒のかかわりあいをつくる。  
 そのために ◇本時のねらいにせまるために意図と配慮をもって活動を考える。  
 ◇目的や方法、ルール、話し合いの進め方など具体的な指導をする。  
 ◇評価や価値付けをする。

どの家庭でも、幼児から大切にす「これだけは！」(家庭編)

基本的な生活習慣の確立

- (1) 早寝・早起きをする。  
 早寝 保幼小(低)9:00 小(中)9:30 小(高)10:00 中学11:30 まで  
 早起き 7:00 まで
- (2) 朝ごはんをしっかりと食べる。(ご飯・味噌汁・おかずなど)

規範意識の基礎の確立

～おあしす を大切に！～

- (1) 挨拶をする。(おはよう ありがとう しつれいします すみません)
- (2) 約束を決める。テレビ・ゲーム・インターネット・SNSなどのルールを決める。  
 家族の一員として「仕事」を決め、責任をもって行う。

家庭学習の習慣化

- (1) 保・幼・小学校低学年の保護者は子どもに読み聞かせをしよう。
- (2) 「家庭学習の手引き」の学習時間を守る。  
 低：20分以上 中：40分以上 高：60分以上 中学：90分以上
- (3) 自主学習に挑戦する。(小1～中3)

3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	(1) 学園内の全ての学校が、目指す子ども像・教育目標を共通化  (2) 学園内の全ての学校が、学園経営方針・目指す教師像の経営方針へ位置付け  (3) 学園内の全ての学校が、「これだけは！」の各学校の経営方針へ位置付け	○ 経営会議で確認したことを各校・各部会で取り組み、目指す子ども像の実現に向けて実践を積み上げることができた。  ○ 年3回の学園全体研修会を研究の節目として位置付け、「一貫した指導」について年間を通して共有化することができた。教職員アンケート肯定率82%  ○ 行動連携「これだけは」に基づいて各校・各会議・各担当部会で実践を積み上げることができた。

<p>就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程</p>	<p>(1)規範意識を醸成し、落ち着いた環境をつくる取組  ア 「これだけは!」・「これだけは!」(授業編)の取組  イ 6年生持久走合同練習会  ウ 6年生中学校授業体験  エ 6年生部活動体験  オ 乗り入れ授業・小小連携授業の取組・小中連携授業等の取組  カ アプローチプログラム・スタートカリキュラムの検証</p> <p>(2)未来を展望し、将来を切り拓く力を育成する取組  ア 家庭学習の手引き・家庭学習頑張り週間の取組  イ 6年生学年末テスト・6年生春季休業中の課題  ウ 中1ふりかえり集中学習・小4ふりかえり学習  エ 京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラムの積極的な活用</p> <p>(3)思いやりをもち仲間と共に生きる人間関係を築く取組  ア アルミ缶回収・ボランティア活動  イ 挨拶運動</p>	<p>○ 年間5回、学園校園所長会議を実施し、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を共有しながら連携を深め、スタートカリキュラム・アプローチプログラムを実践したり、検証したりすることができた。</p> <p>○ 行動連携「これだけは」を基に一貫した指導を行い、どの学校、どの園所でも落ち着いた環境を創り出すことができた。 教職員アンケート肯定率90%以上</p> <p>○ 小学校から中学校へ段差なく接続するために、「6年生持久走合同練習会」「6年生中学校授業体験」「6年生部活動体験」「乗り入れ授業・小小連携授業・小中連携授業」等に取り組むことができた。また、そのことにより規範意識を醸成することができた。  ※小中一貫教育関連事業が6年生に集中していることに対する改善が必要  6年生持久走合同練習会を見直し、次年度は実施しない。</p> <p>○ 児童生徒に基礎基本の力を身に付けさせるため、家庭学習頑張り週間、小4ふりかえり学習・中1ふりかえり集中学習・6年生春季休業中課題・6年生学年末テスト(定期テスト対策)等に取り組むことができた。</p> <p>○ 思いやりを持ち、仲間と共に生きる人間関係を築くために、アルミ缶回収・ボランティア活動、挨拶運動に取り組むことができた。</p>
<p>幼児児童生徒、教職員の交流と協働</p>	<p>(1)目指す子ども像の実現に向けた教職員の協働及び教職員の交流  ア 教職員の合同研修会・実践交流の実施  イ 授業研究会、6年生授業研究グループ等を通じた研修会  ウ 保幼小連携を通じた研修会  エ 学年部会・教科領域部会を通じた研修  オ 小中間の他校種研修</p> <p>(2)落ち着いた学校・授業をつくることを目的とした子どもの交流を図る行事等の計画・実施  ア 6年生網野中学校合唱祭参加  イ 6年生体育祭見学  ウ 合同校外学習及び学びの交流  エ 小中合同交流事業(友だち交流会等)</p>	<p>○ 行動連携【しっかり考え学力をのばす「これだけは!」(授業編)】を基にして、各校で授業研究を進めることができた。</p> <p>○ 京丹後市小中一貫教育授業研究会で、「これだけは!」(授業編)も大切に取り組んできた実践・研究を発表することで、網野学園の授業づくりについて発信することができた。</p> <p>○ 年4回の学年部会を通して授業研究、学力充実の取組の交流、共通の校外学習・合同交流学習に取り組むことができた。合同学年部会を開催し、外国語活動についても研修することができた。</p> <p>○ 小1学年部会(園所の参加)の中で、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を共有しながら、アプローチプログラム・スタートカリキュラムの検証をしたり、研修したりすることで、保幼小の協働意識を高めることができた。</p> <p>○ 他校種体験研修を実施し、他校種についての理解を深めることができた。  ※中堅教諭等資質向上研修との関連はなくなったが、今年度は実施した。有意義ではあったが、次年度は「働き方改革の視点」において見直し、実施しない。</p> <p>○ 落ち着いた学校・授業をつくることを目的とした子どもの交流を図る行事、網野中学校合唱祭参加、授業体験、部活動体験等、児童生徒交流を通して6</p>

		<p>年生は中学校への不安を解消したり、中学生は自己有用感を高めたりすることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 網野高校教職員の授業研究会等への参加、小中教職員の網野高校授業公開への参加等により、網野高校との交流を深めることができた。</li> </ul>
家庭、地域社会との連携、情報発信	<p>(1) 網野学園教育応援会の取組</p> <p>ア 網野学園の教育や子育て環境について学校・家庭・地域が一体となり、必要な教育支援を協議し、具体的な取組を推進して、教育力のある地域社会を目指す。</p> <p>イ 網野学園小中(保・幼)一貫教育の推進に向け、学校(PTA)、家庭、地域社会が連携して取り組む。</p> <p>(2) 京丹後市PTA協議会網野小中一貫校PTAの取組</p> <p>ア 網野学園PTAとして「学園合同交通安全運動」等、一体となって取り組み、学園「目指す子ども像」の実現に向けて連携して取り組む。</p> <p>イ どの家庭でも、幼児から大切に「これだけは！」(家庭編)の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的生活習慣の確立</li> <li>・ 規範意識の基礎の確立</li> <li>・ 家庭学習の習慣化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 網野学園教育応援会の取組を通して、学校・家庭・地域が一体となり、挨拶運動等、必要な教育支援を行うことができた。</li> <li>○ 網野学園PTAとして、「学園合同交通安全運動」等に一体となり取り組み、「目指す子ども像」の実現を目指すことができた。</li> <li>○ 網野学園教育応援会により「下校時巡回パトロール」の取組が、10月より実施された。</li> <li>○ 学園運営協議会に係るモデル指定(市教育委員会)を受けた。教育応援会の運営を通しながら、「網野学園教育応援会が学園単位での学校運営協議会(コミュニティ・スクール)への移行が可能か」について検証し、「会則改正を行い組織体制の改善」「役割内容の明確化」が必要であることの方向性を出した。</li> <li>○ 網野学園家庭教育委員会の取組として「網野学園子育て講演会」が開催された。 佛科大学教育学部 原 清治 教授により「子どもの学習意欲を高めるには ～成長のきっかけを引き出す親のかかわり方～」をテーマに講義をして頂き、子育てについて深く考えさせられる機会となった。</li> <li>○ 【どの家庭でも、幼児から大切に「これだけは！」(家庭編)】についてリーフレットを配布し、10年間を見通して保護者と連携することができた。</li> <li>○ 小中一貫コーディネーターが中心となり、学園日より・ホームページ・リーフレット等を通して、広く学園の教育活動を保護者・地域に積極的に広報することができた。</li> <li>○ 学園評価計画に基づいて、アンケートをとり、改善に生かすことができた。</li> <li>○ 学校支援ボランティア等を活用し、網野町民が学校教育活動に積極的に参加できる取組を進めることができています。</li> </ul>

#### 4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 経営会議を定期的開催し、学園内の教育課題を把握し、目指す子ども像・教育目標の実現に向けて経営することができた。</li> <li>○ 学園経営の基本方針に基づいて、重点的な取組内容(①規範意識の醸成、②確かな学力の育成、③豊かな人間性)、行動連携を決定し、学園評価に結び付けることができた。</li> <li>○ 運営会議・推進会議、また、重点2部会(生徒指導部会・教育相談部会)及び3部会(給食部・特別活動部・道徳部)の取組の成果・課題を把握し、総合調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科部会では、年間3回の限られた中で工夫しながら研究を積み上げてきた。しかし、教科部会は過去の網野学園のシステム(各校が4教科を分担しながら研究をしていたシステム)を踏襲しながら、ここ数年は各校の裁量で研究教科を決めることができるように改善してきたために、教科部会の運営において研究を積み上げにくい状況が生じてきた。 そのため次年度は、教科部会を解消する。解消に伴い小中教員の教科における実践交流等が弱まる可能性が危惧されるので、6月・2月の中学校の授業参観では、可能な範</li> </ul>

<p>をしたり、改善に努めたりすることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 経営会議までに事務局会議を開催し、学園内の教育課題を把握し、目指す子ども像を実現するための調整及び事務作業を行った。</li> <li>○ 経営方針に基づいて、運営上の課題の調整をしたり、年3回の学園全体研修会を実施するための調整及び事務作業を行ったりした。</li> <li>○ 園保間・保幼小間・小小間・小中間の連携、各会議・各部会の連携を小中一貫コーディネーターが行うことで、目標に沿った連携や取組を行うことができた。</li> <li>○ 小中一貫コーディネーターを中心に、保護者・地域との連携及び網野学園教育応援会の取組を進めることができた。具体的にあいさつ運動等の取組も実践することができた。</li> <li>○ 京都府教育委員会による加配事務の配置と、網野地域小中学校事務職員への兼務発令に基づく京丹後市教育委員会の委託事業として、網野学園「共同学校事務室」の設置に向けた研究を推進した。</li> <li>○ 網野中学校が、京都府中学校教育研究会数学研究大会において充実した授業を公開した。島津小学校が、京都府小学校教育研究会外国語活動部会研究協力校（平成31年発表）として、中間発表を行った。両校の授業公開に網野学園として可能な範囲で積極的に参加し、研修することができた。次年度は、島津小学校の本発表である。組織図・組織体制の変更は行わないが、研究内容の報告を受けながら、各会議・部会で、外国語活動についての研修を行い、学園の授業研究に活かしていく。</li> <li>○ 幼稚園教育要領・保育指針が、平成30年度より実施。また学習指導要領は、小学校では平成32年度、中学校では、平成33年度より完全実施される。児童・生徒がどのように学ぶかに着目して学びの質を高め、必要があるため、「確かな学力の育成」をする際の大きな柱として、「主体的・対話的で深い学び」の項目を設定した。次年度、より一層研究を深め、実践を積み上げる。</li> </ul> <p>△ 行動連携『どの家庭でも、幼児から大切に「これだけは！！」（家庭編）』の中の、規範意識の基礎の確立の中で、「テレビ・ゲーム・インターネット・SNSなどのルールを決める」を挙げている。しかし網野学園生徒指導部会のアンケート結果からも、大きな課題となっている。次年度は情報モラルについての出前授業（学習会）を、小学4年生、中学1年生等を対象に、網野中学校を会場として実施する。経営会議、運営会議が担当する。PTAとの連携も図る。</p> <p>※ゲーム、インターネットをほぼ毎日すると答えた児童は、4年生から多くなる。</p> <p style="text-align: center;">網野学園情報アンケート結果より</p>	<p>困で異なる教科の授業を公開し、事後研究会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他校種体験研修を実施し、他校種についての理解を深めることができた。</li> </ul> <p>※中堅教諭等資質向上研修との関連はなくなったが、今年度は実施した。有意義ではあったが、次年度は「働き方改革の視点」において見直し、実施しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援教育コーディネーターに係る会議等が必要な場合は、教育相談部・特別支援学級部等が柔らかな連携をする。</li> <li>○ 土曜活用がなくなることで、6年生の体育祭当日の見学は実施ができなくなる。したがって、体育祭取組（練習時におけるチームの話し合い場面等、特別活動の要素が高い場面）が参観できるようにする。</li> <li>○ 不登校等学校不適應の児童生徒が微増となってきた。10年間を見通して、家庭と連携し、一人一人の児童生徒が、学校の中に居場所を創ることができる力を身に付けていかなければならない。また、多様で複雑な不登校の要因や背景をできる限りの確に把握し、切れ目のない組織的な支援をしていかなければならない。重点的な取組内容の中にも豊かな人間性に位置付け、「自立的に生きる基礎の確立」に向けて、家庭と連携し系統的に取組を進める。</li> </ul> <p>第2回全体研修会で立命館大学 野田正人 教授（京都府まなび・生活アドバイザー）の講義を平成30年度に続いて計画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本年度は、6年生授業体験は、入学説明会と関連させ11月に実施した。平成31年度も同様実施していく。部活動体験は、12月に実施したが、次年度は、温暖な時期であり、中1～中3が部活動をしている6月に計画する。</li> <li>○ 6年生は、11月に授業体験を行うが、中学校の授業に対する見通しをより早い時期に持つておくことが望まれる。そのため、中学校授業参観を5年生の3学期に計画する。（小中一貫教育関係事業が6年生に集中している状況の改善の為）</li> <li>○ 平成30年度は、京丹後市小中一貫教育授業研究会のために網野学園としての授業研究会の持ち方が変則的となった。次年度は従来の型、6月・11月に実施する。また、従来は、6月に2校、11月に2校実施していたが、参加者が2校に分散する等、学園として一本の柱の通った実践として束ねることが難しかった。そのため6月に1校、11月に1校とし、2年間のサイクルで小学校4校の授業公開から学び合うこととする。研究の推進は、推進会議がこれまで同様担当する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">平成31年度6月頃 A小学校 11月頃 B小学校（島津小学校研究発表）</p>
--	---

<p>△ 網野学園の課題の一つとして、家庭学習が十分定着できていないことがあげられる。確かな学力の育成を図るためにも、系統的に家庭学習に取り組み、保護者と連携しながら、定着と内容の充実をさせていくことが必要である。</p> <p>※網野学園 校種間連携に係る生徒意識調査結果中学校に入学して、家庭学習ができていますか。肯定的評価の推移</p> <p style="text-align: center;">H29 : 59%→H30 : 80%</p> <p>※網野学園児童生徒アンケート結果 中学1年 家庭で毎日学習をしている。</p> <p style="text-align: center;">H29 : 68%→H30 : 56%</p> <p>90分以上家庭学習している。</p> <p style="text-align: center;">H29 : 67%→H30 : 43%</p>	<p>平成32年度 6月頃 C小学校 11月頃 D小学校</p> <p>○ 中学校授業研究会は、6月(中学1年)・2月(中学2年)に実施した。Ⅱ期(充実期)・Ⅲ期(発展期)の授業を公開することで、小学校授業研究会と関連させ、一貫した系統的な授業研究を行うことができた。平成31年度、6月(中学1年)・2月(中学2年)の授業公開、事後研究会を行う。</p> <p style="text-align: center;">6月…中学1年授業公開・小中連絡会・事後研究会 2月…中学2年授業公開・事後研究会</p> <p>○ 確かな学力を身に付けさせていくためにも、平成31年度も網野学園として学力充実月間(年3回)を設定し、家庭学習・基礎学力の定着等に取り組む。また、授業研究月間も設定し、質の高い授業づくりを進める。特に家庭学習については、保護者、PTAとも連携し、家庭学習習慣の定着・内容の充実を目指した取組を更に進めていく。</p>
---	---

## 1 「目指す子ども像」、教育目標

①ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子	【知】
②自分を大切にし、人を思いやれる子	【徳】
③ねばり強く身体をきたえる子	【体】
教育目標「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」	

## 2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

①研究主題を『子どものコミュニケーション能力を育成する。』として、ことばの力やコミュニケーション能力を育てる指導を授業と学園の事業との組み合わせで行う。
②学校間が連携して「算数・数学」を主に研究推進し、コミュニケーション能力や思考判断表現する力を育成する。
③丹後学園の取組や事業等を発信することで保護者や地域の方の理解を一層深める。

## 3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	<p>①子どもの交流を図る行事等の実施を通して、「集団生活の中で人と関わる力」や「コミュニケーション能力」を高める。</p> <p>②重点教科を「算数・数学」とし、他教科の指導についても同様に主体的な学びに向けた実践を積む。</p> <p>③全体研修会、授業を通じた研修会(3回)、学年部会を通じた研修を計画的に実施し、目指す子ども像の実現、目指す教師像の意識化に努める。</p> <p>④月1回の計画的な経営会議(校園所長会議)を開催し、正確な実態把握に基づく方針を策定し、全教職員への情報提供を行う。</p> <p>⑤「学園だより」を発行して、取組の成果・課題の共有を図る。</p> <p>⑥組織的な会議運営を行い、教職員が自覚的に取組に参画できるようにする。</p> <p>⑦各会議や部会をそれぞれ学園内の各学校を会場にすることで、各校での取組の様子や児童生徒の状況を把握する一助とする。</p> <p>⑧丹後学園教育応援会との連携を強め、学園の教育推進に理解と協力をいただく。</p>	<p>○ 経営方針や計画に従って、学園経営を予定どおり進めることができた。学園内の教育課題の把握・整理を行い、経営方針のもと学園の重点(「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力の育成」「評価を見通した取組の充実」)を意識した経営につなげた。</p> <p>○ 運営会議・教育課程会議兼学力充実部会をはじめ4つの部会の実践について成果・課題を明確にし、今後の方向性を示し取組を進めることができた。</p> <p>○ 昨年に続いて学年部会が取り組む研究課題を設定したことにより、学年部会が充実し教材研究や指導方法の共通化等に取り組むことができた。さらに、目標と指導と評価の一体化を目指した授業研究をすることにより単元総括テストを作成することができた。</p> <p>《事務局会議(代表・庶務・学園コーディネーター)》</p> <p>○ 事務局会議を開催し、各部の取組状況や学園内の教育課題の把握・整理を行い、教育目標を実現するための調整・事務作業を行った。</p> <p>○ 学園経営方針に基づき、運営上の課題の検討や調整を行い、年度初・未全体研修会、夏季研修会を実施するための事前準備、事務作業等を進めた。</p> <p>○ 経営会議の内容について即日コーディネーターがまとめ、各校・園・所に発信した。</p> <p>○ 教育目標、目指す子ども像を学園単位で設定し、その実現に向けて一貫性のある教育活動を進め、実践を積み上げることができた。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学校等で課題に応じた教育実践を行い、校種を超えて連携を図り、全ての学校等が中学校を卒業する姿を想定し、目指す子ども像を共有していく意識が高まった。</li> <li>○ 夏季全体研修等において全教職員が一堂に会して、子どもの実態や今後の適切指導や評価のあり方について協議し、目指す子ども像を明らかにすることができた。</li> <li>● 次年度さらに小中一貫教育を推進していくため、子どもの成長につながった具体的な指導方法の資料化や子ども像への到達についての検証が必要である。</li> </ul>
<p>就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①就学前から中学校までの一貫した生徒指導、自己有用感を高める生徒指導を進め、コミュニケーション能力の育成に努める。</li> <li>②指導方法の系統性や一貫性を重視するために、「目標と指導と評価の一体化」の観点から算数・数学を研究し、指導の方向を3小学校でそろえる。</li> <li>③総合的な学習の時間を活用した「丹後学」を教育課程に位置づけ、実践研究を進める。</li> <li>④学習指導・生徒指導を大きな柱として、10年間を見通した取組を展開する。</li> <li>⑤小1プロブレムを解消するための、保育所やこども園と小学校との連携を進める。</li> <li>⑥中1ギャップ解消のため小学6年生と中学生との交流事業や体験学習等を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 丹後こども園長、宇川保育所長を含め経営会議を実施し、連携を図ることで一貫した指導について取組を進めることができた。保幼小の取組では、子どもたちの交流により小1プロブレムの解消につながったことや、接続プログラム・スタートカリキュラムを見直し改善を図り、実践したことにより円滑な接続となった。</li> <li>○ 年3回の小中学校授業公開を行い、コミュニケーション能力の育成を目指し「総合」・「英語」「外国語数活動」の授業の研究ができた。</li> <li>○ 「中学校体験授業、部活体験」「小学校合同校外学習」「1年生と5歳児の交流」等、計画的に進めることができた。</li> <li>○ 「丹後学園生活のきまり」「にこちゃんほっぴいでー（交通安全・挨拶）」の取組だけでなく、各校で積極的な生徒指導の取組を行う中で、コミュニケーション能力を高める機会につながった。</li> <li>○ 交流行事や合同行事等の日程について、年度当初に確定することでスムーズでより効果のあるものにしていくことができた。</li> </ul>
<p>幼児児童生徒、教職員の交流と協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①3小学校が集合して実施する事業と各校で共通して実施する事業を行う。 【3小学校合同事業】</li> <li>②教職員全体研修会を年間3回実施するとともに、保幼小接続部会や期別部会・学年部会を開催して、それぞれの課題の改善や解決に向けた取組を実践する。</li> <li>③中学校1年生入学後1カ月ごろの状況及び出口となる中学3年生の授業公開を行い、多様な視点で課題共有すると同時に指導について研究協議を行う。（第2期及び中3の公開授業）【小中合同事業】</li> <li>④教職員間… 学年部会での授業研究会・統括テ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己有用感を高め、言語活動をとおして主体的な授業を推進するために小・中学校で「丹後学園学びの指導（指導の視点、学びの力）」をもとに、授業研究を行うことができた。</li> <li>○ 夏季研修会で新学習指導要領の実施を控え、改定のポイントや全面实施までの動き等の理解を深めた。また、幼稚園教育要領・保育所保育指針に記載された幼児期の終わりまでに育ってほしい11の姿についても研修することができた。さらに、各部会の実践交流を通して教職員交流を図ることが進んできた。</li> <li>○ 合唱祭・部活動体験・ふれあい交流会、2回の授業体験等、児童生徒は交流を通して中学校生活への不安を解消する機会になった。</li> <li>○ 合同修学旅行、校外学習、合同避難訓練を通して小・中、こども園・中の交流が深まり、コミュニケーション能力を高めたり、豊かな学習を</li> </ul>

	<p>ストの作成・保幼小接続部会でのスタート研修会【保幼小接続に係わる事業】</p> <p>保幼小の子ども… 5歳児と小1年生との交流会（2回）</p> <p>保幼小の教職員… 5歳児と小1担任の夏季研修会、 テーマは「話す・聞く」</p>	<p>創り上げたりすることができた。</p> <p>○ 各校種での教師の動きや指導を参観することで、互いに学び合うことができ系統的な学習の意義が再確認できる。</p> <p>● 行事の精選、研修設定を工夫し、適切な時期に実践できるようにしていくことが必要である。</p>
<p>家庭、地域社会との連携、 情報発信</p>	<p>①「丹後学園教育応援会」の機能化と充実を図る。(年間2回)</p> <p>②「丹後学園だより等」を発行し、保護者や地域に配付することで、理解を得られるようにする。また、各校のホームページにて、取組の状況を発信するように計画する。</p> <p>③学校支援ボランティアの方々による支援をいただき、教育活動の内容充実に努める。</p>	<p>○ 学園だより・ホームページ・リーフレット等により、情報発信を行い広く学園の教育活動を保護者・地域に積極的に広報することができた。</p> <p>○ 丹後学園教育目標をふまえ、丹後小中一貫校PTAとして共通の目標と活動方針を設定し、連携・協同した取組を行うことができた。(6月、11月の15日を一斉挨拶運動)</p> <p>○ 学校と家庭、地域社会の横の連携を深めるために丹後学園教育応援会の会議を年度当初より開催し、小中一貫教育の支援、協力、理解を得ることができた。</p> <p>○ 学園評価計画に基づいて、アンケート等を取り、改善に生かすことができています。</p> <p>● 小中一貫教育の成果をさらに広く発信し、地域住民へ学園の重点が浸透するように本年度の取組を継続していくことである。</p>

#### 4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
<p>今年度の成果</p> <p>①導入準備期間を含め4年間行ってきた実践を活かして、本実施3年目の丹後学園の経営がスムーズにできた。組織や会議について当初計画したことが、予定どおりに実施できた。</p> <p>②発足3年目となる小中一貫教育支援協議会(名称:丹後学園教育応援会)に様々な支援をいただいた。</p> <p>③小・中学校だけでなく、こども園・保育所も含めた取組を実践することができた。コミュニケーション力の育成を研究主題に掲げ、各保園小中のそれぞれの実態に合った研究が進んだ。保育所やこども園の園児の状況を学園として情報共有を行うことができ、保園小の接続に関する学園としての研修が進んだ。</p> <p>④小学校間(校区3小学校)の学年ごとの合同学習、修学旅行等ができ、児童の交流が深まると同時に教員の指導方法等の交流も深めることができた。</p>	<p>○ 経営会議は、次年度も、学園内の教育課題、各会議や部会等の活動状況を把握しながら、恒常的に課題を整理や新たな取組を提起し、学園経営を行う。</p> <p>○ 各会議・部会担当校園所長は、経営会議に事前連絡、事後報告及び決裁を受けながら、実践の方向性・到達点を明らかにし、取組を進めていく。</p> <p>○ 部会は、学力充実部、生徒指導部・教育相談部、保園小接続部の4部会とする。</p> <p>○ 教育課程会議兼学力充実部会については、教務主任が担当し、学力の調査・分析や学力・授業力向上を図る計画・実践に関わる進行管理、検証等を行う。</p> <p>○ 平成30年度と同様に、重点的な取組内容として「確かな学力の育成」「コミュニケーション能力」「評価を通じた取組の充実」を設定していく。</p> <p>○ 夏季研修については、新指導要領の実施を控え改定のポイントなどを運営部会が企画、計画、運営をする。</p> <p>○ 授業研究については、「コミュニケーション能力を育成する。」～生徒指導の三機能(自己決定・自己存在感・共感的な人間関係)を生かした取組の充実～</p>

<p>⑤小学校と中学校との教職員の意見交流及び合同研修を通して、相互理解をさらに深めることができた。さらに、実態に応じた指導方法の工夫・改善について、3回の授業研究会を通して研究協議を行い、前進させることができた。また、ゴールとなるめざす中学3年生の姿を共有することができた。</p> <p>⑥昨年に引き続き、算数・数学の指導を中心に研究を行うことで、目標と指導と評価の一体化を目指す授業づくりの研究の充実を図ることができた。</p> <p>今年度の課題</p> <p>①学力向上に資するための「モデルカリキュラム」の活用をさらに進める。</p> <p>②小1プロブレムを解消するための、保育所やこども園の園児の状況を学園としての情報共有と交流を丁寧に行う必要がある。</p> <p>③総合的な学習の時間の学習内容に重複があるので、丹後学園としての総合的な学習の時間の系統立てた内容づくりが課題としてある。</p> <p>④平成31年度の「教育フォーラム」において、研究発表・授業公開校となることから、「丹後学園」として、計画的に研究を深めていくこととする。</p>	<p>とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業研究の推進役は教務主任であるので、授業研究は教育課程会議が所管する。</li> <li>○ 小中全教職員が積極的な授業研究にかかわるためにも、視点を明確にした協議をしていくことである。</li> <li>○ 「コミュニケーション能力の育成」に関しては、生徒指導の三機能（自己決定・自己存在感・共感的な人間関係）を生かした取組を充実させていく。特に、授業の中にも生徒指導の3機能を生かした実践を積み上げていく、積極的な生徒指導を行う。また、学校や地域社会の一員として集団の中で人とかわる機会を生かし、コミュニケーション能力を身につける。</li> <li>○ 生徒指導部会では、各校で取り組まれている積極的な生徒指導の取組を交流し、中学校卒業時に身に付けるべき良好な人間関係を構築できるよう実践を重ねていく。</li> <li>○ 学園評価について、平成31年度については、目標を立て、指導し、評価をしていき学園経営を実践していく。また、教育目標の達成に向けた取組の成果と課題をより明確にさせ、具体性のある改善策を検討していく。</li> </ul>
---	---

1 「目指す子ども像」、教育目標

<p>「目指す子ども像」</p> <p>(知)知識と技を磨き、活用する子</p> <p>(徳)自他の良さを知り、共に伸びる子</p> <p>(体)心身をきたえ、何事もやり抜く子</p> <p>「教育目標」</p> <p>故郷を愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く児童生徒の育成</p>
--

2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

<p><b>【重点課題】</b></p> <p>1 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弥栄学園経営会議の方針のもと、運営に関する企画・調整を組織的に進め、授業研究会や全体研修会等を通じて、実践力の育成を図る。</li> <li>・新学習指導要領に対応した系統的な学びを実践し、学園として学び合い、授業実践を進める。</li> </ul> <p>2 自尊感情の醸成を目指し、生徒指導の三機能を生かした実践の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢交流の推進に努め、自尊感情、自己有用感や上級生への憧れを育む。</li> <li>・園小中教員の他校種研修の機会を設定する。</li> </ul> <p><b>【取組の柱】</b></p> <p>1 学力・授業づくりの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 自分の意見を持ち、発信する力を身につけさせる。</li> <li>(2) 小中共同で研究できる内容を検討、互いの授業実践に生かす。</li> <li>(3) 学力実態・学習状況傾向の分析、改善策をもって実践する。</li> </ul> <p>2 交流・連携の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 園児・児童・生徒の交流及び教員の交流を積極的に進める。</li> </ul> <p>3 学園内のいじめ・不登校等に関する情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 未然防止や解決に向けた早期発見・早期対応ができる体制を強化する。</li> </ul> <p>4 公開や情報発信を積極的に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) HPの更新、学園ニュース等の発行により幼児、児童、生徒の様子を発信する。</li> </ul> <p>5 関係機関や弥栄学園支援協議会と連携し、教育活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 情報交換を行い、児童生徒の自立の基盤づくりの支援を行う。</li> </ul>
---

3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策	<p>① 経営会議の定例化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学園経営方針のもと、各会議や部会の研究推進状況の把握、指示</li> <li>・生徒指導の3機能を意識した実践</li> </ul> <p>② 事務局会議での調整、事務作業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの実態を踏まえ、課題改善、克服をめざした学園事業の運営</li> </ul>	<p>○本年度は学園内の組織体制を整理し、役割り分担を明らかにして、各部の取組状況の評価を行い、経営方針のもと定例の会議を設定し予定通り学園経営を進めることができた。</p> <p>●交流行事については、ねらいに到達するには至っていないものをあり、形態を変えて充実したものにしていけることが必要である。</p>

就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程	<p>① 学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した「学びのルール」、「授業づくり」、「学習のすすめ」等の活用</li> </ul> <p>② 授業・行事・部活等でみせる子どもの実態をふまえた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小中の連携を深め、校種を越えた取組の充実</li> </ul> <p>③ 学園教育目標の具現化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・故郷を愛し、主体的に学び、たくましく生き抜くこどもの育成(自立の基盤づくり)</li> </ul>	<p>○公開授業後のグループ研では、授業規律が定着してきていることから、さらに深まりある授業をめざすことを追究しようとした積極的な意見交流がなされた。また、以前に作成された授業の約束ごとが文章化されたものに対して、子どもの状況を把握し実態に沿うよう改善を図った。</p> <p>●今後の指導において、「何ができるようになったのか」を明らかにさせるために、「どのように学ぶのか」という学びの過程も意識して構想を練ることである。</p>
幼児児童生徒、教職員の交流と協働	<p>① 幼児児童生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児と小1体験入学、幼・中2職場体験、合同授業(小小、小中)</li> </ul> <p>② 教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中授業研究、出前授業、行事指導参観、夏季全体研修会</li> </ul>	<p>○夏季全体研修では、授業のなかにも生徒指導の3機能を意識していくことの大切さを学び、事後研で実践していく決意を固める機会となった。</p> <p>●小中での取組より、小と小の取組を優先していくことが効果的なこともあるので、ポイントをしぼった計画を進めることも検討する。</p>
家庭、地域社会との連携、情報発信	<p>① 連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA、地域ボランティア・・・登校時の挨拶、交通安全指導</li> <li>・弥栄学園教育支援協議会・・・フォーラム、学校行事参観等</li> </ul> <p>② 情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレットの作成・説明、学園日より、HP・・・授業、部活動の状況等</li> </ul>	<p>○学園ニュース(教職員用)、小中一貫教育日より(保護者、学園ホームページ、リーフレット等により、情報発信ができた。(時期を逃すことなく、タイムリーに活動内容等を地域へ知らせた。)</p> <p>○弥栄小中一貫校PTAとして共通の目標と活動方針を設定し、連携・協同した取組を行うことができた。(挨拶運動、交流活動の参観)</p> <p>●学園の教育支援協議会については、保護者や地域住民への啓発が必要である。</p>

#### 4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	課題方策
<p>【学習活動、公開授業等について】</p> <p>小・中学校の児童生徒の実態を把握することが十分にできた。参観の視点を明確にして事後研を進めた。経験の浅い教員も忌憚のない意見を挙げ、幅広い意見交流ができた。</p> <p>めざす子ども像にせまる具体的な指導について踏み込んだグループ協議ができるとさらによかった。「主体的で対話的な深い学び」となる授業実践を次年度も追究し、激動する世の中を生き抜くこどもの育成に努めることである。</p> <p>授業展開においては、子ども同士の協議時間を確保し、実のある言語活動ができると振り返りが充実するものとなる。</p>	<p>【学習活動、公開授業等について】</p> <p>次年度は、課題の改善を行うために研究主題を「熟考し、自分の意見を持ち、発信できる力をつける」とし、やればできることを実感させたい。できたことを評価し、できなかったことを補い、学び直しを行う。できるようになるには、何が不足していたのか、じっくり考えさせることを基本に据える。</p> <p>授業参観の視点をめざす子ども像を意識したものにして、達成度合いが見える具体的な表記を行う。また、授業展開の中で生徒指導の3機能との関連する場面を想定し授業を組み立てる。</p>

小学校で築いた学びを中学校でさらに探究し、発信できるよう求められる総合的な学習では、各自がまとめ上げたものを全員が発表する形態をとった発表の形態にしたので、個々の補うべき課題がわかったことは成果と言える。

課題となったことが、小中で確認がなされ、克服するべく実践にまではつながっていない。

**【交流連携について】**

異年齢の交流については、中学生は自尊感情を高めたり、小学生はめざす中学生像をイメージすることができたりしたことは成果と言える。校内での行事が重なる時期に、調整することが容易ではなく形態を変えることで対応していかなければならないこともあり、検討していく必要がある。

特別活動部会の事業計画では、児童会と生徒会が取組計画を立て、実践したことは主体的な活動の一步になった。受身で動くことがなきよう、指導の工夫は要るが、目指すところを明らかにさせ実践したことを積み上げていきたい。

**【地域への啓発・情報発信】**

教職員向け、保護者・地域住民向けのニュースを発行し、事業計画のお知らせ、結果のまとめをタイムリーに行った。児童生徒、保護者、地域からの意見や感想も紙面に活かせると活性化できると思える。

マラソン大会の交通指導、児童生徒への声援は有り難いもので、子どもたちも気持ち良く完走したという声があった。

ニュースの発行することにより、学園の目指すところがより地域へ浸透することができるとよい。

総合的な学習については、小小の連携を図り小学校での学びが中学校に切れ目なくつながり、視野を広げ、指導内容、方法、つけるべき力を系統的にまとめたものを活用する。合同で行う取組については、効果的なものになるようにし、形骸化したものならようにしていく。(合同で行うことにより意義のあるものでなければ、見合わせる等)

**【交流連携について】**

日々の授業や友達同士で学び合ったことをもとにして小中学生が交流活動を行い、発表したことが自信につながったり、周囲から受け入れられたりすることで自尊感情の醸成となるよう企画する。

児童や生徒の声を拾い上げ、主体的な取組となるよう年度初めに提案できる計画を立て、小中共に協力してできるものを検討していく。

**【生徒指導について】**

自尊感情を高めるためにも、生徒指導の3機能(自己存在感・共感的な人間関係・自己決定)を意識した教育活動(授業、行事等)を推進させていく。

集団の中で折り合いをつけ、良好な関係が保てるよう、コミュニケーション能力を育成する。

**【啓発・広報活動について】**

学園としての取組の状況がわかるよう次年度も時期を逸することなく情報を発信していく。

## 1 「目指す子ども像」、教育目標

## [教育目標]

「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心もち、根気強く努力する子どもの育成」

## [目指す子ども像]

(知) 意欲的に質の高い学力を身につけようとする子ども

(徳) 自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子ども

(体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで、協力して取り組む子ども

## 2 小中一貫教育として解決を目指す重点課題、取組の柱とする内容

## (1) 中期的な展望(取組の見通し)

年度	教職員の意識	学力	ギャップ(不登校)
28(1年次)	各校の取組の共通点をベースに取り組む	共通項をもとにした取組	保幼小の接続・各校の取組交流
29(2年次)	学園中心の事業の展開・10年間のカリキュラム(必要な教科)検討	授業についての議論・これからの推進	児童生徒の情報共有・指導の継続性
30(3年次)	中3卒業までに付けたい力と指導についての教職員による議論・	接続を意識した授業スタイルやスキルの追求	情報共有・指導の在り方確認
31(4年次)	指導の充実期・新学習指導要領と新教科書への対応(小)・	接続を意識した授業スタイルやスキルの追求	情報共有・指導の系統性確認
32(5年次)	久美浜学園保幼小中一貫教育の継続した取組の整理とまとめ・新学習指導要領と新教科書への対応(中)	授業スタイルの充実	情報共有・学園としての指導の継続

## (2) 重点目標

「意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成」～子どもの実態や系統性を踏まえた指導～

## (3) 指導の重点

『学力向上』①基礎・基本の徹底 ②言語活動の充実 ③家庭学習時間の確保

## (4) 取組の柱

<p>ア 10年間(就学前から中学校卒業まで)の幼児児童生徒の成長発達に全教職員で責任をもつという意識の向上</p> <p>(ア) 久美浜学園全教職員がチームとして、みんなでやるという協働意識を醸成する。</p> <p>(イ) 目指す授業として、次期学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識する。その上で、学園テーマとして、「言語活動の充実」を設定し、すべての教職員で幼児児童生徒が自らの考えを深めるための教育活動を志向する。</p> <p>イ 各校園所における規範意識の醸成を基盤とした落ち着いた学校(園)づくり、授業づくり</p> <p>(ア) 生徒指導の三機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を生かした「わかる授業」により規範意識を醸成し、学ぶ意欲を育てる。</p> <p>(イ) 基礎・基本を徹底し、基盤となる力を十分付けきる。</p> <p>(ウ) 系統的な「話し合い活動」の指導とスキルの向上を目指した取組を進める。</p> <p>ウ 子どもの交流行事並びに教科指導交流の推進による行動連携強化</p> <p>(ア) 共に学ぶ意識を育て、子ども同士を結び付ける保幼小、小小、小中における交流行事</p> <p>(イ) 豊かな教科指導を目指す指導交流(保幼小連携、小小連携、小中連携)</p> <p>エ 保護者、地域とともに「久美浜を支える人づくり」の視点に立った取組を進める。</p> <p>(ア) PTA、学校地域連携推進協議会、地域本部事業との連携</p> <p>(イ) 家庭学習時間の確保に向けた連携</p>
--

### 3 小中一貫教育の具体的な内容と評価

項目	内容	評価 (実践の過程・幼児児童生徒の姿・教職員の見方等)
<p>幼児児童生徒の実態や課題、目指す子ども像や目標、方針等の共有方策</p>	<p>(1) 経営会議を中心に組織的且つ丁寧に、実態や課題、目標、方針等の共通認識を図り、久美浜学園としての共通確認・共有を図る。            ア 年度当初の学園全体会での提起と全体研修会での全教職員による学びを通して、共有を進める。            イ 年3回の公開授業と交流会で、教職員同士の「理解と対話」の充実を図る。            (2) 保幼・小・中で共通指導内容を確認し、PDCAで改善を図りながら共通理解を深める。</p>	<p>○久美浜学園 7 校園が一つの目標に向かって取り組むことができ、また意識としても共通理解が進んできたことで、小中一貫教育を手段として取り組む素地が整ってきた。今後も「理解と対話」を丁寧に進め、その上で具体的に取組を進める。            ○テーマや子ども像を受けた様々な取組の中で、教職員が交流し、相互理解が一步ずつ進んでいることが大きい。今後も丁寧に進めていく。            ○継続することが大事。一方で、進める中で常に目標やめあてを振り返りながら進めていく。</p>
<p>就学前から中学校卒業までを見通して一貫した指導、教育課程</p>	<p>(1) 子どもの育ちと指導の一貫性を目指した教育課程編成            ア 考えを深め、コミュニケーション能力を高める学習の推進            イ 郷土への愛着と誇りをもち、人とつながる力を育てる学習の推進            (2) 重点指導            ア 学力向上            (ア) 授業規律の確立            (イ) 基礎学力の定着と活用力を育てる授業づくり            イ 不登校の解消            (ア) 規範意識の醸成と基本的な生活習慣の確立            (イ) 学級活動の充実と児童会・生徒会活動等自主活動の活性化            (ウ) 自尊感情の高揚            (エ) 保幼・小・中の連携強化            ウ 今日の課題（情報機器の安全な取り扱い）            (ア) 「法やルールに関する教育」の推進            (イ) 人権教育の推進</p>	<p>○学園テーマ「言語活動の充実」を各校で追及するとともに、全体交流会のテーマに設定し、中3卒業時の姿について一步ずつ共有できてきた。また、その成果として『10年間を見通した言語能力表』を作成できた。            ○学園独自で作成したアプローチプログラム、小1スタートカリキュラムの実施状況を検証し、よりよいプログラム等になるように改善した。            ○久美浜学園「授業心得」や小中共通指導事項を継続して取り組んだ。            ○4教科の「これだけは」を3小学校で統一して取り組むことできた。            ○PTA・保護者を巻き込んだ久美浜学園共通の「家庭学習ががんばり週間」の取組を進めることで、学習習慣の定着を進めた。また、メディア・コントロールを中心に学園全体で進めた。            ○教育相談部を毎月開催し、情報の交流と指導方法の連携を進めた。            ○学校生活の充実感を味わわせることや基本的な生活習慣の確立を各校で図ることで、不登校の解消に取り組んでいる。            ○法やルールに関する授業計画を教育課程に位置付けて進めた。            ○情報機器の望ましい活用（情報モラル）のための特別講演会を小4、全中学生、保護者対象に実施し、学ぶことができた。</p>
<p>幼児児童生徒、教職員の交流と協働</p>	<p>(1) 全体会、全体研修会、学校園公開授業と分散会、学力・授業づくり部会、生徒指導・不登校防止部会、学年部会を中心とした教職員の交流と協働            ア 中学校卒業時の生徒の姿を常に意識した協議            イ 児童生徒の実態交流に基づく具体的な取組の推進</p>	<p>○全体会・公開授業、交流会等の教職員の行動連携につながる取組では、学びが深まったとか、いろいろな意見が得られ自分の取組に活かしたという肯定的な意見が多い。実際に子どもの姿を見ることで、保幼小中の指導の連続性を図っていく。            ○一方で、行動連携の内容としてもっと具体的な教科や内容にすべしという意見もある。            ○教職員の行動連携においても、交流の継続の大</p>

	<p>ウ 「言語活動の充実」の系統性を意識した指導を目指す授業研究</p> <p>(2) 学校、校種間をまたがった指導の推進</p> <p>ア 小中連携、小中連携、専科教育、出前授業等、人的交流をもとにした協働</p> <p>イ 振り返りスタディ等指導面での協働</p> <p>(3) 幼児児童生徒の行動連携</p> <p>ア 保幼の連携</p> <p>イ 保幼小の連携</p> <p>ウ 小中連携</p> <p>エ 小中連携</p>	<p>切さと同時に、資料の相互提供など工夫ができる。</p> <p>○子どもたちの行動連携事業についても、どの取組にも価値を見出し、そのことを活用して日々の指導に活かすなど、単に事業として終えるだけではなく、そこから広げて学びの機会になっている。それぞれの交流事業の良さを感じている。</p> <p>○特に小中連携事業の内容や時期については再検討を望む意見がある。</p> <p>○ねらいは中学校での出会いのための「仲間を知る」ということにしぼり、負担の無いように進めていく。</p>
<p>家庭、地域社会との連携、情報発信</p>	<p>(1) 久美浜学園小中一貫教育に係る目標、活動等の広報及び啓発</p> <p>ア たよりの発行（学期1～2回程度）、有線放送による取組紹介</p> <p>イ リーフレットの作成(4月保護者参観等で配布、説明)</p> <p>ウ ホームページによる広報活動(久美浜学園のページ作成)</p> <p>(2) 基本的生活習慣の確立に向けた共通指導の確認と指導の推進</p> <p>(3) 学校地域連携推進協議会の取組を通じた「久美浜を支える人」の協議</p> <p>(4) 地域本部事業の積極的な活用等による久美浜町民の学校教育活動への参加と積極的支援</p> <p>(5) 久美浜学園PTA・保護者会との連携による家庭教育支援</p>	<p>○小中一貫コーディネーターの活動により、様々な取組をいろいろな機会を通じて広報できた。その結果、保護者アンケートによると、学園の取組に対する肯定的な意見が2年次・3年次と年々増えてきており、また、分からないという意見が減ってきている。</p> <p>○学校地域連携推進協議会では、学園の取り組みを紹介し、支援を求めただけでなく、設立当初より「久美浜を支える人づくり」について各団体との協議を進めることができた。</p> <p>○多くのボランティアの皆さんの協力を得て、学園内各校園所の活動が広がっている。</p> <p>○保育所園・こども園も一緒になった久美浜学園独自のPTA・保護者会が設立され、一緒に取り組むことで、より多くの家庭との連携が進められた。「あいさつ運動」「家庭学習がんばり週間」「スマホ講演会」等10年間を見通した取組に一歩ずつつながってきている。</p>

#### 4 今年度の成果と課題 改善方策

成果と課題	改善方策
<p>○2年目となったテーマ「対話と理解」が授業公開と交流会各部の取組等を通して一層進んできた。特に、交流会で「中3の姿」に特化して話し合ったことで、より小中一貫の意識化につながった。</p> <p>○幼児教育・保育における取組について学べ、幼児から小学校への接続やその意義について理解が深まってきた。</p> <p>○各会議、各部のミッションをより明確にしたことで、限りのある部会であることが明確になった。また、経営会議の方針のもと企画運営会議が運営し、教育課程に関しても一致して進めるシステムがさらに機能してきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度（4年次）を発展期ととらえ、これまで積み上げてきた保幼小中教員の「対話と理解」をベースに、次の段階にステップアップしていく。具体的には市小中一貫教育推進計画の更なる共通理解を図り、更に学校園所公開や交流会を引き続き進める中で指導方法等の継続性について論議していく。</li> <li>・児童生徒の生徒指導上の課題や不登校の課題について、肯定的評価を基盤に学園の教職員の指導観を見つめ共通化していく。</li> <li>・指導方法の具体的な継続性を図るため、保幼小のア</li> </ul>

<p>○小中連携事業のほか、小小連携事業や保育所幼稚園連携事業も確実に実施でき、将来につながる取組にできた。</p> <p>○コーディネーターの活躍により、広報・会議のまとめ・幼小中のつながりが確実に進んだ。</p> <p>○4PTAと3保育所園・こども園の保護者会も一緒に活動でき、学園PTAの基盤ができた。</p> <p>○学校地域連携協議会で「久美浜を支える人」についての話し合いがより進められた。</p> <p>△久美浜学園の児童生徒の現状として一部の後ろ向きの者が雰囲気を作ってしまうところがある。</p> <p>△連携部会の取組が回数が限られている中で、ミッションを成果が見えるところまで高めることが難しい。また、事務局のコーディネートがますます多くなってきている。</p> <p>△学校授業公開と交流会の成果は非常に大きなものであった。次の段階として指導方法の系統性等へとバージョンアップしていくことが今後必要となる。</p>	<p>アプローチ・プログラムやスタート・カリキュラムのほか、小中間の教育課程上の様々なギャップの解消に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究に踏み込むため、各学校の重点研究をベースに担任会での学び合いを進めたり、研究授業に参加しやすくするための日程調整等を行う。</li> <li>・運営面ではこれまで進めてきた部会・会議や事業が一定落ち着いてきたことを受けて、より精選していく。</li> <li>・学校地域連携協議会の今後のあり方とCS化に向けてどのような組織にしていくか検討していく。</li> </ul>
--	---

平成30年度 学校評価自己評価報告(こども園・幼稚園)

こども園・幼稚園名 (京丹後市立峰山こども園)

こども園・幼稚園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)
<p>“笑顔でつなごう。みんなの てとて!!” 一はなそう・つたえよう・みんなのおもい</p> <p>(1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 (2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 (3)身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。</p>	<p>○保護者や関係機関と連携を持ち、懇談や研修を重ね合ったかかわりを行うことで一人一人が安心安定した生活や活動ができた。 ○『朝の第一歩は挨拶から』を子ども達・保護者に伝えることで生活習慣やことばを意識することができるようになった。 ○生活や活動に主体的に取り組めるようことばかけや環境を整えることで人や物へのかかわりに意識しながら行動できるようになってきた。 △保護者・地域に開かれた園として信頼関係に努める。 △乳幼児保育教育の研修を深める。</p>	<p>本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)</p> <p>(1)幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 (2)自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。 (3)幼児の実態や発達に合わせ支援し、共に育ち合う集団をつくる。 (4)保護者の子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。 (5)峰山学園 (園から小中一貫教育) の連携を進める。</p>
<p>評価項目 小中一貫 教育の推 進 (保幼小 接続)</p>	<p>重点目標</p> <p>○『峰山学園』の連携 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成 (1)意欲を持って自ら学ぶ子ども (知) ・友だちとかかわりながら遊びや生活を発展する。 (2)思いやりのある子ども (徳) ・あいさつをする。 ・保育者や友だちと話をする。 (3)進んで心と体を鍛える子ども (体) ・保育者や友だちといろいろな運動遊びに挑戦する。</p>	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <p>○峰山学園内の状況や京丹後市の教育を自園の状況や課題に合わせ、生活や活動・行事の内容を話し合い進めてきた。個々に合わせた目標を持つことで達成感を味わわせることができた。 ○学園内での連携は、参観や担任会などから実態を知り、成果課題を交流することができたことで園児や保護者への関わりや関係機関へのつながりの学びとなり取り組めた。 ○小学校との連携では、園への参観や行事への参加・散歩(中間休みでの小学生や先生との交流)は、入学を迎える5歳児にとって滑らかな接続の一つであった。 △園運営での違いはあるものの私立こども園との交流の方法を検討しながら峰山学園としての教育を進めていく。</p>
<p>教育課程</p>	<p>(1)園内外の自然の中で発見や感動を持つ。 (園内)・砂・泥遊び・プール遊び・遊具であそぶ ・園内の草木・野菜・花づくり ・小動物の飼育</p>	<p>○一人一人の動きを観察しながら表情(言葉を含む)や行動に合わせた助言や支援を行うことで友達との関わりや感動を言葉するなど、言葉を通しての遊びが発展したり活動を楽しんだりするようになった。</p>

教育課程	<p>○ 幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を育てる。</p> <p>○ 自分の思いや考えを表現したり行動できる力を養う。</p> <p>○ 日常的に園内外の安全指導・安全対策に留意する。</p>	<p>(園外)・散歩・遠足・お花見・農道を歩く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よもぎ摘み・公園で遊ぶ・小動物補助</li> <li>・泥んこあそび・田植え・稲刈りなど</li> </ul> <p>(2) あいさつ運動: 元気に挨拶を交わし一日を始める。</p> <p>(3) 登園時間や子ども達の実態を把握し、個々に合った助言や指導を行う。</p> <p>(4) 活動に合わせ、話し合いの時間や場を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を知り、友だちの良さに気づける生活や遊びを進める。</li> <li>・朝の会や終わりの会などで思いや考えを伝える。</li> </ul> <p>(5) 散歩や交通安全などのきままりや遊びのルール・交通安全ルールを知り守る。また、保護者と一緒に交通安全・危機管理について学び合う。</p>	<p>○ 園の周りの環境を地域の方の協力で自然体験や食育に関連して学ぶことができた。</p> <p>○ 日々の生活や活動を年齢に合わせて、クラスや学年・職員間で話し合いを進めてきたことでそれぞれが興味関心を持ち、やる気へとつながっている。</p> <p>○ 季節に合わせて、登降園の送迎場所を変えたことで送迎時、園児の朝の状況を確認ができた1日の活動や状況を話し、保護者との連携を持ったりすることができた。</p> <p>○ 繰り返し駐車場など交通ルールや集団のルールを話すことで守ろうとする気持ちを持つている。</p> <p>△ 習い事などで、家庭でゆつくり関わることをしないなど、苦手な保護者が増えている。関わり方など今必要なことを伝え合える場を持つ。</p>
子育て支援	<p>○ 家庭での子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。</p>	<p>(1) 子育て相談 (随時) (4) 預かり保育</p> <p>(2) 園庭開放 (毎金曜日) (5) 支援センターの利用</p> <p>(3) 園開放 (月2回) (6) 一時預かり制度の利用</p>	<p>○ 家庭状況に合わせて保育形態を進めることができた。(送迎時間など)</p> <p>○ 送迎場所をテラスにすることで日々の様子を伝え合うことができた。</p> <p>△ 大規模園ではあるが行事や活動内容など保護者との連携を持ちながら様々な保育形態や園児一人一人に合った細かい連携を進めていく。</p>
家庭・地域との連携	<p>○ 自らの健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。</p> <p>○ 人とのかかわりの中でのことばの使い方・必要性や大切さに気づき楽しむ。</p>	<p>(1) 登園時間を9時までとし、集団生活での活動の楽しさを知らせる。(生活リズム・食育)</p> <p>(2) 園での様子をたよりなどで発信し、保護者や地域の方と共に教育保育を進めていく。(地域への散策)</p> <p>(3) 保護者・地域・社会人講師を迎えて様々な体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の読み聞かせ・野菜の苗植と定植</li> <li>・稲作り・運動あそび・防災訓練・交通安全教室</li> <li>・A L Tとの交流</li> </ul>	<p>○ 登園時間を9時とすることで集団としての生活リズムがあることを知らせ、朝マラソンや体操で体が目覚めることが園児から保護者へと伝わり元気に登園できた。</p> <p>○ 園のホームページでいろいろな情報を発信することができた。</p> <p>△ 園児の保育時間と職員の勤務時間との関係で保護者にとどのような方法で日々の様子を伝えて連携を持つのが良いのか考えていく必要がある。(個人的に話したい保護者が多い)</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>○ 0歳児～5歳児までの発達を学び、個々に合った教育・保育を進める。</p> <p>○ 保護者や関係機関との連携を持ち、個々の発達に合わせた教育・保育を進める。</p> <p>○ 思いや考えを年齢なりに言葉で伝えたりする態度を身につける。</p> <p>○ 職員間の報告・連絡・相談を丁寧に行い、引き続き園児・保護者・職員との輪をつなぐ。</p>		

平成30年度 学校評価自己評価報告(こども園・幼稚園)

こども園・幼稚園名 [京丹後市立大宮こども園]

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
<p>こども園・幼稚園経営方針(中期経営目標)</p> <p>“笑顔と元気でつながる仲間!!” ～かんじて かんがえ ぐんぐんのぼさう 心の根～</p> <p>(1) 生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育む。</p> <p>(2) 身近な生活に主体的に関わり、言葉によるコミュニケーションを育む。</p>	<p>前年度の成果と課題</p> <p>○身近な物(廃材・自然物等)で工夫したり発想するなど、主体的に考え、遊ぶ力がついてきた。</p> <p>○異年齢活動により優しさや思いやりやの気持ちや育っている。また関わりの中で好奇心や挑戦する、諦めないなどの気持ちが育ってきている。</p> <p>○△話を聞く態度が身についてきているが、自分の思いや考えを言葉で伝えることに課題が残る。</p> <p>△挨拶が自然にできる雰囲気作りや方法を工夫する。</p> <p>△園での様子や活動内容を保護者に知らせる工夫、話をする時間の確保が必要である。</p> <p>△職員間の報告・連絡・相談・確認の徹底と子ども達の発達と教育・保育の研修を重ねていく。</p>	<p>本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)</p> <p>(1) 体験的な活動の場を取り入れ、主体的で協同的な活動を引き出す環境構成に努める。また、遊びの体験を通して豊かな感性を養う。</p> <p>(2) 自らの健康や生活に関心をもち、生活習慣の基礎を培う。</p> <p>(3) 家庭との連携や保護者同士のつながりを深め、安心して子育てができるように支援する。</p> <p>(4) 大宮学園(小中一貫教育)の連携を図り、円滑な接続ができるよう交流や研修を進める。</p>	<p>小中一貫教育の推進(保幼小接続)</p> <p>○『大宮学園』の教育目標を踏まえ、目指す子ども像の育成に努める。</p> <p>○保育所・こども園・小学校との連携を密にし、円滑な接続を図る。</p>
<p>小中一貫教育の推進(保幼小接続)</p>	<p>(1) 経営会議を通して子ども達の実態を把握し、共通の目標をもつ。(ことばの力・思いやる心・つながる力の育成)</p> <p>(2) 小学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験入学や運動会、マラソン大会見学、生活発表会の鑑賞</li> <li>・アプローチャプログラム、小1スタートカリキュラムの充実を図る。</li> </ul> <p>(3) 中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震津波合同訓練や体育祭リハーサル見学、福祉体験を通し交流を深める。</li> </ul> <p>(4) 保育所との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任会や参観交流、5歳児交流会を行い、スムーズな接続の推進を図る。</li> </ul> <p>(5) 地域・家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育委員会による「家庭のやくそく」を保護者と共に取り組み、子ども達の健全な育成を進める。</li> </ul>	<p>本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)</p> <p>(1) 体験的な活動の場を取り入れ、主体的で協同的な活動を引き出す環境構成に努める。また、遊びの体験を通して豊かな感性を養う。</p> <p>(2) 自らの健康や生活に関心をもち、生活習慣の基礎を培う。</p> <p>(3) 家庭との連携や保護者同士のつながりを深め、安心して子育てができるように支援する。</p> <p>(4) 大宮学園(小中一貫教育)の連携を図り、円滑な接続ができるよう交流や研修を進める。</p>	<p>成果と課題(自己評価)</p> <p>○経営会議で共通理解を図り、『ことばの力』を中心に環境を整え、教育・保育を進めていくことができた。</p> <p>○異校種交流を行う中で、生活や学びの見通しをもったり、中学生の温かさに触れたりする中で、憧れの気持ちや優しさなど心を豊かにする体験ができた。</p> <p>○スタートカリキュラムの検討や交流を担任会でを行い、同じ目標を共有しスムーズな接続につなげることができた。</p> <p>△公開授業や公開保育を利用し、職員の研修や交流を通して連携を深め、円滑な接続に努める。大宮北保育所との交流も強化する。</p> <p>○25日「にこにこの日」に保護者と協力して挨拶運動をしたり、ふれあい給食日として異年齢給食を実施し交流を深めたりするなど、園児、職員も同じ気持ちで取り組み、園児の健全な育成につなげた。</p>

教育課程	<p>○園児自らが環境に関わり、感動する体験を大切にし、五感を磨き、豊かな感性を養う。</p> <p>○自分の思いや考えを表現したり、言葉によるコミュニケーション力を育む。</p> <p>○協同的な活動や遊びの体験を通して、主体的に行動できる力を育む。</p> <p>○園児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を育む。</p> <p>○地域の自然や身近な人々に親しみ、自然体験や社会体験を豊かにする。</p>	<p>(1) 園内外の自然の中で発見や感動をもつ。 (園内) ・砂、泥遊び・プール遊び・園内の草木・花、野菜作り・クッキング活動・虫捕り・小動物の飼育 (園外) ・遠足：天の橋立・地域の神社 ・散歩：花畑・農道を歩く・蓬摘み・ザリガニ釣り・田植え、稲刈り、泥遊び</p> <p>(2) コミュニケーションの第一歩、挨拶を園児自らが進んで行えるよう働きかける。また、絵本や読み聞かせを通して、言葉の表現を楽しんだり、友達の思いや自分の思いを伝えたりする機会を多くもつ。</p> <p>(3) 登園時間など子ども達の実態を把握し、個々に合った助言、指導を行う。</p> <p>(4) 散歩や集団活動などで交通ルール・集団でのルールを共に考え知らせる。</p> <p>(5) 異年齢での交流を深める。</p> <p>(6) 地域の方々や高齢者との交流を通して親しみの気持ちをもつ。</p>	<p>○年間を通じて園外保育や戸外活動を中心に自然に関わり、発見や感動体験をし、豊かな心、感性の育成につながった。</p> <p>○栽培活動やクッキング活動を通して、食への関心や感謝の気持ちを育むことができた。</p> <p>○△園内での挨拶の習慣は身につけているが、自分から挨拶をする、自分の思いを伝えることなど、引き続き取り組んでいく。</p> <p>○△交通指導、避難訓練により命を守ることや規範意識へとつなげることができたが、園児・保護者にルールや決まりを守ることの大切さを今後も繰り返し指導していく。</p> <p>○豊かな人間関係を築けるように、異年齢活動や小中学校・福祉施設や社会人講師等との交流を進めていく中で、優しい言葉使いや場に応じた言葉、思いやりの心を育むことができた。</p> <p>△園生活の中での様々な経験をを通して、言葉を介したコミュニケーション能力を育んでいく。</p>
子育て支援	<p>○家庭での子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援を充実させる。</p> <p>○家庭と連携し、教育力の向上を図る。</p>	<p>・子育て支援センターや一時預かり制度利用の周知を図る。</p> <p>・子育て相談の充実や園開放・園庭開放により、保護者同士の交流を深める。</p> <p>・園便りやクラス便り、懇談会、生活点検表の実施を通して、子ども達の様子を発信する。</p> <p>・保護者会活動を通して互いに学びあう。</p>	<p>○園庭開放で保護者が普段の子どもの様子を感じたり、交流の場として活用できたりした。</p> <p>○△子ども達の様子をHPやホワイトボードで知らせ、親子の会話や理解、連携の充実が図れた。しかし、個々についてにより丁寧に伝えていく必要性を感じた。</p> <p>○保護者会学習会を通じて親子で学ぶ機会がもてた。</p>
研修 (職員の資 質向上)	<p>○園内研修の充実</p> <p>○職員の資質向上</p>	<p>・認定こども園教育・保育要領を熟知し、一人一人の育ちに合わせた援助、環境構成について事例研究を通して学びあう。</p> <p>・初任者研修や外部研修報告会を通して、職員が一緒に学ぶ機会を持ち、資質・意識の向上を図る。</p>	<p>○外部研修後の復命や短時間でも意見交流の場をもち、日々の教育・保育、要支援児についての支援方法や環境構成などについて学びを深めることができた。</p> <p>△更に外部研修への参加や園内研修の実施に努め、PDC Aサイクルを活用し幼児理解、職員の資質向上に努める。</p>
次年度に 向けた 改善の 方向性	<p>○大宮学園の目指す子ども像の育成に努め、効果的な教育連携活動を充実させていく。</p> <p>○日常における園での活動や様子を便りや園ホームページを更なる情報発信していく。</p> <p>○認定こども園教育・保育要領に基づき、0歳～5歳児までの発達を捉え、一人一人の育ちに合わせた援助・支援の充実、環境構成をしていく。</p> <p>○PDC Aサイクルを活用し、園内研修の充実を図り、職員の資質向上に努める。</p>		

平成30年度 学校評価自己評価報告(こども園・幼稚園)

こども園・幼稚園名 [京丹後市立網野幼稚園]

こども園・幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)
(1)	幼児自らが環境にかかわり、感動する体験を大切に、豊かな感性を養う。	・小規模園のよさを生かし、幼児がどの職員から『包み込まれているという感覚』をもてるように、幼児一人一人のよさや頑張りなどを認めるよう努めた。	『どきどき わくわく きらっ!』 ～つながる喜びを感じ、夢中になって遊び込む子どもをめざして～	・楽しい幼稚園生活を過ごす ・主体的な活動をくり広げる ・人とつながり合うことの喜びを味わう
(2)	自分の思いや考えを表現し、行動できる力を養う。	・登園の様子を見守ったり挨拶を交わしたりする等、常に保護者と近い距離にいることで、幼児にとって「楽しい幼稚園」につなげることができた。		
(3)	幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を育てる。	・情緒の安定と信頼関係づくりを基盤とした幼稚園生活を大切にしていたが、つなげたりや主体性を意識した遊びが展開するよう環境を整えていきたい。		
(4)	常に園内外の安全指導、安全対策に留意する。	・新幼稚園教育要領と網野学園のアプローチプログラムの整合性を確認し、実践につなげていくことが必要である。		
(5)	地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。			
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	
小中一貫教育の推進(保幼小接続)	・『網野学園』のめざす子ども像をもとに、学園の基本方針を理解しながら取組を進める。 ・幼児と児童の交流の機会や教師同士の研修の場を重視し、相互理解を深める。 ・学園のアプローチプログラムに園の独自性を加えて実践し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とのつながりを明確化していく。	・リーフレットを活用したり、小中一貫教育に関する会議や研修などに積極的に参加したりして、全職員で共通理解する。 ・運動会やマラソン大会、学習発表会などの学校行事を見学させてもらったり、園行事にも参加依頼をしたりするなどして、交流が深まるようにする。 ・アプローチプログラムを活用して日々の保育実践を検討し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とつなげて捉え、検証していく。	○△小中一貫教育に関する会議や研修には、全職員で積極的に参加し共通理解するように努めたものの、園経営や保育内容に十分に生かすことができなかつたため、保護者の理解にもつながりにくかつた。 ○ 1年生学習発表会リハーサルの見学を通して、幼児が感じたことや学んだことを1年生に伝えたり、保育実践に取り入れていたりしたことで、小学校と活動がつながり5歳児の学習への期待が大きくなつた。 ○△「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点においた実践研究が中心となり、アプローチプログラムを活用した実践の検証は十分にできなかったため、捉え方やつながりの明確な理解が、職員共通に図れなかつた。	

教育課程	『どきどき わくわく きらっ!』 ～つながる喜びを感じ、 夢中になって遊び込む 子どもをめざして～ ・楽しい幼稚園生活を過ごせるようにする。 ・主体的、対話的な活動をくり広げられるような環境づくりをする。 ・人とつながり合うことの喜びを味わえるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の幼児と心をつなぎ、個々が安定できる幼稚園生活を創造する。</li> <li>自らが健康や生活に関心を持ち、リズムある生活が習慣になることを意識させる。</li> <li>幼児が主体的に協同的な遊びを展開するような直接体験の場を設定する。</li> <li>集団でなければできないこと、大勢ですると楽しいことに気付かせ、他人に関心をもたせる。</li> <li>友達の良さや友達と一緒に過ごす心地よさを感じさせ、人とつながることの喜びを味わわせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小規模園のよさを生かし、個々の気持ちに丁寧に寄り添い関わる保育を心掛け、全職員で一人一人の幼児と心地よい関係を築いていった。</li> <li>○ 保護者との連携や協力のもとに定着したリズムある生活習慣が、情緒の安定に結びつき、スムーズな登園や楽しい園生活につながった。</li> <li>○△異年齢ペアをつくり一緒に生活や活動する場を設けることで、親しみをもって関わることでできたが、自然に異年齢が交流して遊ぶ姿にまでつながりにくかった。</li> <li>○ 「つながる喜び」を意識した保育実践に努めることで、友達と一緒に過ごす心地よさを感じ、互いのよさを認め合ったり、外国籍や特性のある友達を支援しようとしていたりする友達関係を育むことができた。</li> </ul>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園開放により、就園前の親子の保育参加を行い、子育ての安定を図る。</li> <li>・園だより、クラスだより、懇談会等で保護者に幼児の様子を知らせ、家庭と連携し、『共育で』をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回『なかよしスクール』を開催する。園児と交流したり、楽しく遊べる雰囲気や環境を設定したりする。</li> <li>・『子育て講演会』を開催し、子育てに関することを考えたり振り返ったりする場とする。</li> <li>・保護者の話や相談に丁寧に耳を傾け、一緒に問題解決に向けて進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『なかよしスクール』担当者リードのもと環境に工夫を凝らし、親子共が楽しい時間を過ごせるよう努めた。</li> <li>○ 網野中学校校長を講師に招いた『子育て講演会』を開催したり、ホームページを利用して園での様子を伝えたりしたりすることで、保護者と共に子育てを振り返ることができた。また、全職員が保護者の相談に丁寧に耳を傾け、一緒に問題解決に向かっていたため、保護者との信頼関係が深まり良い関係が築けた。</li> </ul>
研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新幼稚園教育要領の理解に努め、職員の資質向上をめざし、園内研修の充実を図る。</li> <li>・「主体的、対話的な深い学び」を表現する保育を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エピソード研修やワークショップなどの園内研修を通して「3つの資質能力」や「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」等が実践に活かされているかを明確化、言語化、可視化する。</li> <li>・月案や週案の立案、反省を通して、日々の具体的な実践例をあげて環境構成や教師の援助の在り方などを探っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 園内研修で明確化、言語化した「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」を、パワーポイントや掲示等で可視化して、保護者にも伝わるように取り組んだ。</li> <li>○△新教育要領に係る内容の確認や実践交流などを進んで行いながらも、効率のよい研修会のあり方を工夫し、今以上に深い考察ができるよう研鑽を積んでいく。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定子ども園に移行した後も、新教育要領を指導計画に反映させ、「3つの資質能力」や「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」等が実践に活かされているかを明確化、言語化、可視化できる園内研修や、網野学園アプローチャプログラムについての検証を進め、更なる質の向上に励んでいきたい。</li> <li>・保護者や地域と連携をもちながら教育活動を進め、網野幼稚園が大切にしてきた『共育で』を、網野子ども園へつなげていきたい。</li> </ul>		

平成30年度 学校評価自己評価報告(こども園・幼稚園)

こども園・幼稚園名 [京丹後市立丹後こども園]

こども園・幼稚園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)
<p>一人一人が生き生きと活動し、「楽しんで広がれ！つながれ！みんなえがお！」をテーマに、人とかかわりや様々な体験を通して心豊かたくましく、やさしさがあふれ、「生きる力」をもつ幼児を育成する。</p>	<p>前年度の成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後学園の会議、研修に出席し学園の取組内容を職員会議で報告し、中学生の姿から幼児期に必要な力を職員間で話し合うことが出来た。</li> <li>・小学校との連絡会や学園接続部会で子ども達の様子を参観してもらい遊びが学びにつながっていることを理解してもらった。今後も幼児教育について理解してもらえよう参観内容についても考えていく。</li> <li>・小学校体験入学では、小学校の先生と内容について緻密に連絡し合ったことで、給食体験もあり子ども達の不安が解消され、入学がますます楽しみとなるよい取組ができた。</li> <li>・丹後学園の『にこちゃんはびーでー』の取組を通して、丹後中学校の3年生の生徒と一緒に挨拶運動が出来たことは、子ども達がいっしょに自ら進んで挨拶できるよい機会となった。</li> </ul>	<p>本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)</p> <p>合言葉「たっぷり遊んで う〜んと笑って みんな仲よし たんごの わ〜遊ぼう 笑おう 伝えよう〜」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な活動を通して人と人とのつながり、いたわりやさしさ、思いやりの心を育み、心豊かな人間性、社会性をもった幼児を育成する。</li> <li>・聞く力や話す力が身に付くよう、計画的に取組、自分の思いを言葉で表現するなど言葉の力の向上を図る。</li> <li>・保護者や地域との連携、また保幼小中連携を深め、様々な体験や活動を積極的に取り入れ、たくましく健やかな体と心をもった幼児の育成に努める。</li> </ul>
<p>評価項目 小中一貫教育の推進 (保幼小接続)</p> <p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『丹後学園』の教育目標を踏まえ、学園の基本方針に基づき、取組を進める。</li> <li>・保幼小中の連携を密にし、スムーズな接続を図る。</li> </ul>	<p>具体的方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『丹後学園』小中一貫教育に関する諸会議や公開授業等に参加し内容を全職員で確認する。</li> <li>・接続部会夏季研修会では、保育参観や指導実践交流を行い、発達の段階や特性に即した効果的な指導方法を及び指導の連続性・一貫性について研修する。</li> <li>・保幼小連絡会を設け、参観・懇談をする中で早い段階で課題などを見つけ就学に向けてスムーズな接続につなげる。</li> <li>・学校行事の見学や体験入学等により、子ども達の就学に対する意欲や憧れをもたせる。</li> <li>・近隣にある丹後中学校との合同避難訓練等の連携も引き続き行う。</li> </ul>	<p>成果と課題(自己評価)</p> <p>○学園夏季研修会、接続部会夏季研修会のなかで幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂ポイントとなる幼児期の終わりまでに育ってほしい姿についての研修を、小学校の先生方と一緒に研修する機会をもった。幼児教育を理解してもらえるよい取組だった。また、32年度から実施される新学習指導要領と幼児教育が関連し、連続性があることを学んだ。学園内で連携をとることの大切さを更に理解できたと思う。</p> <p>○△丹後中学校との合同避難訓練は天候が悪く最終避難場所までの避難は出来なかったが、触れ合いや交流をする時間を作ったことで親しみをもつことができたことはよかった。</p>

教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの体験を通して心身にたくましく、創造的、意欲的に遊ぶ幼児を育成する。</li> <li>・遊びを通していたわりや優しさ、思いやりの心を育む。</li> <li>・言葉の力の向上、人の話を聞く、自分の思いを伝えることができる力を養う。</li> <li>・自分から進んで挨拶や返事ができるような環境をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を使った遊び（体操・リズム運動・散歩・なわとび・竹馬・固定遊具等）を積極的にとり入れる。</li> <li>・小動物の飼育、栽培物の世話と一緒に行う。</li> <li>・異年齢活動（チーム活動、クッキング、運動会に向けての活動等）を通して年下児へのいたわりの気持ちをもったりできたり、年長児に対して憧れの気持ちをもったりできる環境設定を考える。</li> <li>・絵本や物語などに親しむことで、言葉の力を豊かにする。</li> <li>・教師が幼児の話にしっかりと耳を傾ける。</li> </ul>	<p>○5歳児を中心に年間を通して、様々な運動遊びに挑戦した。運動に苦手意識のある園児も、友達の頑張る姿に刺激をうけたり、保育者が励ましたり見守ったりする中で意欲をもち取り組めた。5歳児の姿に憧れて4歳児、3歳児がやってみようとする姿につながった。</p> <p>○年間通して登園時に5歳児が挨拶当番活動を行い、みんなを出迎えた。日を追うごとに挨拶の声が元気になり保護者にも好評だった。今後継続して取り組んでいきたい。</p> <p>△情緒の安定を図り安心して話す、相手の思いを聞くことに重点を置き、保育教諭は丁寧な関わりを心掛けた。しかし複雑な家庭環境もあり、安定を図ることは難しいこともあった。</p> <p>△学園全体で子育て講演会を企画して参加を呼び掛けたが、参加が少なく残念だった。</p> <p>○預かり保育、一時預かり保育利用が年間通して多かった。様々な家庭の事情による利用があり、保護者支援につながっていると感じた。</p> <p>○要支援児は保護者と面談して、保護者の思いも聞き支援計画を作成、園全体で発達を理解し関わるよう努めた。保護者と何度も面談を行い、成長を伝え家庭と園の様子を共有できてよかった。</p>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や未就園児の保護者のコミュニケーションの場をつくり、子育ての安定を図る。</li> <li>・支援を要する幼児に対しての支援策を園全体で考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談会など、保護者同士が子育ての悩みなどをだしあえる場をつくる。</li> <li>・子育て支援センターや園開放、園庭開放により未就園児との交流をもつ。</li> <li>・子育て講演会への参加をよびかける。</li> <li>・預かり保育、一時預かり保育制度の活用</li> <li>・支援を要する幼児に対して保護者や保健師、他機関とも連携をとって園全体で支援していく。</li> </ul>	<p>△幼児期の終わりに育ってほしい10の姿を園内研修で学びあった。遊びの中で育っている姿や関わり方の工夫など保育者間で話し合うことができよかった。しかし研修時間の持ち方や内容等はまだまだ十分ではない為、工夫が必要である。</p> <p>○△園内で公開保育をするが、職員体制の関係で参加者が限られ、事情により急に中止したりなど十分できなかつた</p> <p>△朝礼や終礼の時、園児の様子の伝達になってしまいがちだが、保育内容について話し合える場となるようにしていきたい。</p>
研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の実施に伴い、全職員で理解を深め実践できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな研修に多くの職員が積極的に参加できるよう勤務体制の組み方を工夫する。</li> <li>・園内研修を積極的に組み入れ、園内公開保育やエピソード研究を行うなかで、0歳児からの年齢ごとの育ちがどのように「幼児期の終わりに育ってほしい姿」につながっていくのかを考え、全職員でよりよい子どもの育ちへとつなげる。</li> </ul>	<p>△幼児期の終わりに育ってほしい10の姿を園内研修で学びあった。遊びの中で育っている姿や関わり方の工夫など保育者間で話し合うことができよかった。しかし研修時間の持ち方や内容等はまだまだ十分ではない為、工夫が必要である。</p> <p>○△園内で公開保育をするが、職員体制の関係で参加者が限られ、事情により急に中止したりなど十分できなかつた</p> <p>△朝礼や終礼の時、園児の様子の伝達になってしまいがちだが、保育内容について話し合える場となるようにしていきたい。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児期からの子どもが安心安定できる環境を整え、保育教諭との信頼関係の中で基本的な生活習慣の確立や健康な体づくり、やさしさや人を思いやる心を育んでいきたい。</li> <li>・子どもたちが様々な人やものに関わり、意欲的に遊ぶ環境を構成できるように職員で学び合う。</li> <li>・地域の人や伝承文化を大切にして、自然体験や感動体験を味わうなかで地元愛を育てていきたい。</li> </ul>		

# 平成30年度 学校評価自己評価報告(こども園・幼稚園)

こども園・幼稚園名 [京丹後市立弥栄こども園]

こども園・幼稚園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)
<p>「自然に親しみ 丈夫な体と豊かな心を持った 明るい子どもの育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○健康で生き生きと活動する子どもたちの育成</li> <li>○友達と関わり合って遊びを創り出す子どもの育成</li> <li>○人の話をしっかりと聞き、自分の思いや考えが言える子どもの育成</li> <li>○素直で思いやりのある子どもたちの育成</li> </ul>	<p>前年度の成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的な活動・体験活動の充実により、生き生きとした活動の充実を図ることができた。</li> <li>○「弥栄こども園」の教育活動への理解を深め、子育て支援の充実や家庭の教育力の向上を目指して、教育活動・丁寧な発信の充実を図ることができた。</li> <li>○弥栄学園小中一貫教育の推進により、保幼小連携教育活動の充実を図ることができた。</li> <li>△各種たより、園HP、電話による家庭連絡、懇談会、参観等、家庭との効果的な情報連携の工夫を行う。</li> </ul>	<p>本年度こども園・幼稚園経営の重点(短期経営目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生き生き遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協力する力を育成するための日常教育活動・異年齢活動の充実を図る。</li> <li>○家庭・地域との連携を密にし、教育活動、子育て支援の充実を図る。</li> <li>○園小の効果的接続を目指し、アプローチプログラム改善、園小連携教育活動、合同研修の充実を図る。</li> <li>○幼保連携型認定こども園教育・保育要領による教育・保育に係る理論・事例研修を充実させ、指導力向上を図る。</li> </ul>
<p>評価項目</p> <p>小中一貫教育の推進(保幼小接続)</p>	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○弥栄学園教育目標の具現化に向け、弥栄こども園教育活動を充実させる。</li> <li>○弥栄学園園小の連携教育活動を充実させる。</li> </ul>	<p>成果と課題(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「聞く力」「折り返しを付ける力」を育成するための園教育の充実を図る。</li> <li>○年間を通して計画的に園小連携教育活動を充実させ、小1プロブレムの解消を図る。</li> <li>○教職員の合同研修会・研究協議を通して、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を具現化するためのアプローチプログラム、指導方法について研究する。</li> </ul>
<p>教育課程</p>	<p>具体的活動、体験活動を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に活動の中で、生活に必要な習慣や規律を自ら取り入れる力を育むための健康・安全・生活指導の充実を図る。</li> <li>・楽しみながら体力づくり、友達づくりを行う力を育むために、体を一杯使う運動・遊びの充実を図る。</li> <li>・園内外の自然・自然物へ主体的に働きかけ、発見や感動を体験させるための体験活動の充実を図る。</li> <li>・豊かな人間関係を結ぶ力を身に付けさせるために、異年齢活動の充実、地域連携教育活動の充実、園小連携教育活動の充実を図る。</li> </ul>	<p>本年度の成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的な活動、体験活動を充実させることができた。</li> <li>○日常的・主体的に、生活習慣・規律を身に付けさせるための健康・安全・生活指導の充実を図ることができた。</li> <li>○子ども達を作り出す子ども遊び、自然物を使った制作・色水遊び、サーキット等を取組、楽しみながら体力や友達をつくる力を育むことができた。</li> <li>○計画的に園外活動に取り組み、自ら自然に働きかけ、発見や感動を体験させる活動の充実を図ることができた。</li> <li>○異年齢活動や小学生・高校生との交流、地域連携活動を充実させ、豊かな人間関係を結ぶ力を育むことができた。</li> <li>△さらに、様々な異年齢活動・体験活動の充実を図る。</li> <li>○生きる力の基礎基本の徹底を図ることができた。</li> <li>○きめ細かな日常指導や行事(クッキング、交通安全啓発事業)により衛生・園内事故防止・食育・交通安全・自分の命を守る指導・教育活動の充実を図ることができた。</li> <li>○園生活の全ての聞く場面・思いを伝える場面や創作劇の取組を通して、言葉で介した教育活動を充実させ、表現力の育成を図ることができた。</li> <li>△さらに、絵本活用、話し合い活動の充実を図る。</li> </ul>

子育て支援	<p>○心の教育を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当番活動、飼育栽培活動、異年齢活動等、体験活動を充実させ、思いやりや自尊感情の育成を図る。</li> <li>・人権意識、豊かな感性を育むため、園生活の中で触れる悲しみ、喜び、温かさ等、人の心を豊かに感じる場面を共有する機会を大切に指導の充実を図る。</li> </ul> <p>○上記、3つの具体的方策の具現化過程に於いて、常に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意した指導の充実を図る。</p> <p>○各家庭へ「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域に関わる家庭教育指標を、園・担任より「たより」「子育て相談」「懇談会」「保護者会」等を通して発信し、年齢相応の生きる力の育成を図るための子育て支援を充実させ、家庭の教育力の向上を図る。</p> <p>○日常的な子育て相談の場、園行事による親子体験活動や保護者同士の交流・研修の場を工夫し、子育て支援を充実させる。</p> <p>○保護者と毎日直接会話をする機会が減った事に対し、より効果的な子育て支援のための効果的な情報連携の工夫を図る。</p> <p>○発達特性、個々成長課題等に関わり、個に応じた、丁寧な子育て支援の充実を図る。</p>	<p>○心の教育を充実させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○当番・生き物飼育・野菜栽培・異年齢活動等を充実させ、思いやりや自尊感情を育むことに努めた。</li> <li>○園生活の中で触れる喜び、悲しみ、温かさ等、人の心を感ずる場面を共有する機会や地区サロン訪問などを通して、豊かな感性や人権意識の醸成に努めた。</li> <li>△さらに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意した教育課程編成・指導の充実を図る。</li> </ul> <p>○年間を通して、家庭教育指標について「園・クラスたより」「園HIP」「子育て相談」「個人懇談」「保護者会」等により、子育て支援や家庭の教育力の向上を目指して、発信や連携を充実させることができた。</p> <p>○園庭開放、日常的な子育て相談、園行事による親子体験活動や保護者同士の交流の場を工夫し、子育て支援の充実を図ることができた。</p> <p>△バス通所、多様な降園時刻への降園対応により、保護者と毎日直接会話をする機会が減ったことに対して、各種たより、電話による家庭連絡など工夫を行ってきたが、さらに懇談会、参観等、効果的な子育て支援の工夫を図る。</p>	<p>○心の教育を充実させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○当番・生き物飼育・野菜栽培・異年齢活動等を充実させ、思いやりや自尊感情を育むことに努めた。</li> <li>○園生活の中で触れる喜び、悲しみ、温かさ等、人の心を感ずる場面を共有する機会や地区サロン訪問などを通して、豊かな感性や人権意識の醸成に努めた。</li> <li>△さらに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意した教育課程編成・指導の充実を図る。</li> </ul> <p>○年間を通して、家庭教育指標について「園・クラスたより」「園HIP」「子育て相談」「個人懇談」「保護者会」等により、子育て支援や家庭の教育力の向上を目指して、発信や連携を充実させることができた。</p> <p>○園庭開放、日常的な子育て相談、園行事による親子体験活動や保護者同士の交流の場を工夫し、子育て支援の充実を図ることができた。</p> <p>△バス通所、多様な降園時刻への降園対応により、保護者と毎日直接会話をする機会が減ったことに対して、各種たより、電話による家庭連絡など工夫を行ってきたが、さらに懇談会、参観等、効果的な子育て支援の工夫を図る。</p>
家庭・地域との連携	<p>○園・家庭・地域との連携の仕組みを整え、充実させる。</p> <p>○地域の環境・人材を活用し、子ども達の豊かな体験活動を充実させる。</p>	<p>○弥栄こども園と家庭、保護者同士を融合させ、連携を密にし、子どもたちへの教育効果、家庭の教育力を高めていくための保護者組織運営・活動の組織運営・活動を充実させる。</p> <p>○弥栄こども園ならではの園周辺自然環境（野間川・田んぼ・農道・畑等）・施設（社会体育館周辺・弥栄小運動場等）を活用した園外教育活動の充実、地域ボランティアの活用による園内教育活動の充実を図る。</p> <p>○園だより、クラスだより、HIP、電話による家庭連絡、懇談会、参観等、園からの丁寧な発信や連携の工夫を行い、効果的・効果的に家庭・地域との連携の充実を図る。</p>	<p>○弥栄こども園と家庭、保護者同士を融合させ、連携を密にし、子どもたちへの教育効果、家庭の教育力を高めていくための保護者組織運営・活動の安定・充実を図ることができた。</p> <p>○弥栄こども園ならではの園周辺環境（野間川・田んぼ・農道・畑等）・施設（社会体育館周辺・弥栄小運動場等）を活用した園外教育活動・地域連携活動の充実、地域ボランティアの活用による園内教育活動の充実を図ることができた。</p> <p>○園からの丁寧な発信により、「弥栄こども園」の教育活動への理解を届け、家庭・地域との連携の充実が図られた。</p> <p>△保護者と毎日直接会話をする機会が減ったことに対して、さらに、各種たより、園HIP、電話による家庭連絡、懇談会、参観等、家庭との効果的な連携の工夫を図る。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>○全ての園生活をとおして、弥栄学園で進める基盤となる「聞く力」「折り合いを付ける力」の育成を図る。</p> <p>○園小の効果的接続を目指し、アプローチャプログラム改善、園小連携教育活動・共同研修の充実を図る。</p> <p>○生き生きと遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協同するための日常的教育活動・異年齢活動の充実を図る。</p> <p>○幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、5領域について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意して指導を充実させ、幼児教育・保育で育みたい3つの資質・能力を育成するため、計画的に理論研修・事例研修・実践研修を充実させ、指導力・教育活動の向上を図る。</p> <p>○さらに、各種たより、園HIP、電話による家庭連絡、参観等、家庭・地域との連携の仕組みを改善し、教育活動、子育て支援の充実を図る。</p>	<p>○全ての園生活をとおして、弥栄学園で進める基盤となる「聞く力」「折り合いを付ける力」の育成を図る。</p> <p>○園小の効果的接続を目指し、アプローチャプログラム改善、園小連携教育活動・共同研修の充実を図る。</p> <p>○生き生きと遊ぶ・言葉で伝え合う・互いに思いやり協同するための日常的教育活動・異年齢活動の充実を図る。</p> <p>○幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、5領域について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意して指導を充実させ、幼児教育・保育で育みたい3つの資質・能力を育成するため、計画的に理論研修・事例研修・実践研修を充実させ、指導力・教育活動の向上を図る。</p> <p>○さらに、各種たより、園HIP、電話による家庭連絡、参観等、家庭・地域との連携の仕組みを改善し、教育活動、子育て支援の充実を図る。</p>	

## 平成30年度 学校評価自己評価報告(こども園・幼稚園)

こども園・幼稚園名 [京丹後市立かぶと山こども園]

	こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
<p>小中一貫教育の推進(保幼小接続)</p>	<p>こども園教育・保育目標「元気な体と豊かな心、生きる力を持ったたくましい子ども」</p> <p>《元気 勇氣 笑顔 つながれ仲間》 「いっぱい遊ぼう!夢中になって」 ～身近な人とかかわりを通してつながる喜びを感じよう～</p> <p>1 園児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。</p> <p>2 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にする心を育てる。</p> <p>3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現できる力を育てる。</p>	<p>○学校支援ボランティア「田んぼの先生」の支援があり、「田んぼ探検隊」「田んぼ運動会」「田植え体験」「稲刈り体験」「収穫クッキング」等、心を動かす素晴らしい活動ができた。保護者も巻き込みながら体験活動を行ったことは、親子で主食である米に興味や関心をもったり、自然環境に興味や関心をもったりすることができた。</p> <p>○保幼小連携では、小学校プールでの「チャレンジプール」等小学校に行つて施設を使用したり、小学校の教師と顔なじみになったりし、安心感をもって就学する準備ができた。</p> <p>○△「5歳児お泊り保育」「交通安全ボランテニア」「田植え・稲刈りボランテニア」等保護者の協力が得られた成果は大きいので、家庭と共に教育の向上を工夫する。</p> <p>△「挨拶する」「目を合わせて話を聞く」等、人と心を通わせる言語活動を充実させる。</p>	<p>○園児が安心感と信頼感をもっているいろいろな活動に取り組み体験を十分に積み重ねられるようにする。</p> <p>○様々な体験や遊びの場を意図的・計画的に取り入れ、主体的で協同的な活動ができる環境構成を工夫する。</p> <p>○自分の思いや考えを言葉で表現できる力を育む</p> <p>○家庭や地域と連携して規範意識や道徳性・社会性の芽生えを育む。</p> <p>○特別な配慮を必要とする園児に対し、適切な支援が受けられるよう支援体制と支援システムを整え、保護者や関係機関、小学校との連携に努める。</p> <p>○久美浜学園として『目指す子ども像』『教育目標』に向かい、連携を深める。</p> <p>○子育て支援と家庭教育力向上を目指し努力する。</p>
<p>評価項目</p>	<p style="text-align: center;">重点目標</p> <p>○『久美浜学園』の『教育目標』「ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心もち、根強く努力する子ども像」に向けて教育内容の相互理解を深め、一貫性のある指導を行う。</p> <p>○保育所園小学校と連携し、学園テーマく主体的・対話的で深い学びの実現を意識した「言語活動の充実」&gt;を追求し、自ら考えを深める子どもを育成する。</p>	<p style="text-align: center;">具体的方策</p> <p>(1) 久美浜学園を通して子どもの実態を交流し、共通の『目指す子ども像』や『教育目標』に向けて一貫性のある指導をしていく。</p> <p>(2) 小学生や中学生との連携</p> <p>(3) 小学校との連携</p> <p>(4) 保幼小の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会見学・体験入学・授業体験・プール体験・学習発表会見学・マラソン大会応援・園外保育 等</li> <li>・保幼小の連携</li> <li>・合同研修会・教師、保育教諭、保育士の交流・アプローチプログラムとスタートカリキュラムの評価と改善・入学までにつけたたい力と入学後に継続したい取組の明確化・学力向上(保幼小から低学年に向けての言葉の力の育成)の授業と事業 等</li> </ul>	<p style="text-align: center;">成果と課題(自己評価)</p> <p>○「久美浜学園」研修会を通して小中の教師と一緒に学ぶ機会が持てた。公開保育を通して乳幼児期に大切にしている教育・保育を知ってもらうことができた。</p> <p>○今年度も保幼小連携部会で、アプローチプログラムやスタートカリキュラムの見直しを行った。小学校との連携を再度意識しながら保育の計画を立てた。</p> <p>○小学校での「チャレンジプール」をはじめ、「七夕飾り制作」「おもちゃランド参加」等、体験入学までに小学校を体験することは、小学校の教師と交流する機会にもなり、顔なじみになったことで、就学の際の安心に繋がっている。</p> <p>○普段から小学校への園外保育を行う等、職員全員で小学校を身近に感じるようにした。来年度もさらに全職員が久美浜学園の取組に関心を持ち、連携を図っていきたい。</p>

教育課程	<p>○主体的・協同的に活動する力を育てる。</p> <p>○自己肯定感を育む。</p> <p>○自分の思いや考えを表現し、人と関わわる力を養う。</p> <p>○自らの健康やリズムある生活に関心をもち、基本的な生活習慣や態度を身につける。</p> <p>○人権尊重・規範意識や道徳性・社会性の芽生えを培う。</p>	<p>(1) 様々な体験や人との出会いの機会を設定する。</p> <p>○自然の中で、五感を豊かにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂、泥、土、粘土、水・草木、花、野菜等自然物</li> <li>・虫、魚、飼育物等 生き物</li> <li>・山、森、海、果樹畑、田んぼ、旧神野保育所園庭、神社、牧場、かぶと山公園、展望台等 環境</li> </ul> <p>○様々な行事参加や体験活動をする。</p> <p>○園児が遊びや生活の中で主体となるような環境構成を工夫する。</p> <p>○異年齢交流をする。</p> <p>(2) 感動体験の機会を設定したり、言葉で思いを伝え合う機会を設定したりする。</p> <p>(3) 挨拶を奨励する。</p> <p>(4) 絵本や物語に親しむ機会を設定する。</p> <p>(5) 自立心を育てるような機会の設定をする。</p>	<p>○こども園近辺の自然の中で毎日遊んだり、散歩したりし、全園児の体力増進に努めた。冬季の感染症も大流行には至らず、元気に過ごせた。</p> <p>○「いっぱい遊ぼう 夢中になって」～身近な人とのかかわりを通してつながる喜びを感じよう～を研究テーマに環境や保育者の関わりを工夫してきた。一人一人の自発性を大事にしなが、一人一人に寄り添った保育を心がけた。また、クラスや学年の会議を通して環境や園児への関わりを工夫し、共通理解することは保育の質の向上にも繋がった。</p> <p>△「目と目を合わせて話を聞く」「挨拶をする」「返事をする」園児が増えない。今後の方策について様々な工夫をしていきたい。</p>
子育て支援	<p>○保護者の気持ちに寄り添い、安心して子育てができるよう支援すると共に保護者が子どもたちの成長に気付き子育ての喜びを感じられるようにする。</p> <p>○家庭の教育力向上を図る。</p>	<p>(1) こども園でおしやべり会・子育て相談(随時・毎月)</p> <p>(2) 園開放・園庭開放</p> <p>(3) 預かり保育、一時預かり保育の活用</p> <p>(4) 支援センターの利用</p> <p>(5) 子育て講演会</p> <p>(6) 懇談会・保育参観・給食参観</p> <p>(7) 誕生児と保護者への紙芝居や絵本の貸し出し 等</p>	<p>○職員一人一人が温かい雰囲気、話しやすく相談しやすい雰囲気作りを心掛け、子育ての応援者になるよう努めた。</p> <p>○機会を逃さないよう担任や担当の保育者が保護者と丁寧に関わって、一緒に子育てをしてきた。信頼関係も構築でき、子どもの健やかな成長に繋がった。</p> <p>○学園として「家庭学習頑張り表」に取り組み、親子の生活習慣に対する意識が向上した。</p> <p>△「目を合わせて話を聞く」意識を向上させ方策を考えたい。</p>
家庭・地域との連携	<p>○家庭地域との連携と子育て支援を行う。</p> <p>○保護者同士や保護者と地域がつながり、園と協力して「久美浜を支える人」育成の土台づくりを行う。</p>	<p>(1) 田植え体験・稲刈り体験ボランティアの活動</p> <p>(2) 交通安全ボランティアの活動</p> <p>(3) 絵本の読み聞かせボランティアの活動</p> <p>(4) お茶会ボランティアの活動</p> <p>(5) 保護者会の協力</p> <p>(6) 久美浜学園家庭教育委員会との連携 等</p>	<p>○「田植え・稲刈り体験」「5歳児お泊り保育」等、保護者がボランティアとして子どもたちの成長に関わることで、地域の方とも関わる機会がもてた。子どもを真ん中に保護者同士、保護者と地域の方が繋がるきっかけ作りができた。</p> <p>○△今後も保護者会と一緒にあって、子育てを応援し、「子育て」「親育ち」を目指したい。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>・質の高い幼児教育を目指し、職員が積極的に研修していきけるよう工夫していく。</p> <p>・「挨拶する」「目を合わせて話を聞く」「健康的な生活習慣」「親子読み聞かせ」「共感体験をする」「安心・安全な環境を作る」取組について保護者会と連携し、家庭教育力の向上を目指す。</p>		

# 平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立峰山小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>社会の中で自立し、多様な人々と協働し、個性や能力を生かしながよりより創造的に生きることができ力を育てる。</p> <p>1 将来に生きて働く高い学力を育てる。</p> <p>2 ものごとの本質や価値、生き方・在り方を深く考える力を育てる。</p> <p>3 自分の力と時間を使い、社会に貢献しようとする態度を育てる。</p>		<p>前年度の成果と課題</p> <p>○思考力・判断力・表現力等を伸ばす指導が教育課程全体を通じて進み、基礎基本の学力、児童の学習意欲や主体的な学習態度、家庭学習習慣などが向上した。</p> <p>○児童の自己肯定感が高まり、問題事象や不登校(傾向)の減少・解消が進んだ。</p> <p>△不適切の未然防止と児童・家庭支援を基盤に、個々の児童の実態・特性に配慮しつつ、学び合いを基本とした授業・取組を一層充実する必要がある。</p>		<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>1 教科横断的・汎用的な能力・資質を育てるための「主体的・対話的に学び合う授業づくり」をすべての学級で一層進める。</p> <p>2 自己存在感を高め、よりよい生き方を考えさせたため、生徒指導の機能を生かした主体的・協働的な授業・特別活動等により児童の豊かなかわりをつくる。</p> <p>3 すべての児童が学校・学級とつながり、安心して学びに向かうためのチーム支援を進める。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	<p>○学習内容を確実に定着させるとともに、学習意欲を高め、課題を主体的・協働的に解決するための思考力・判断力・表現力等、学びを人生や社会に活かそうとする人間性等を一層伸ばす授業づくりを進める。</p>	<p>○峰山学園の取組とリンクさせ、1時間の授業に、聴き合う、話し合う、教え合う、伝え合う要素を取り入れる。</p> <p>○授業の中で、よりよい生き方・在り方、真理や価値を考えさせる指導を行う。</p> <p>○汎用的な能力・資質を育てるための目標と評価を明確にし、目標・指導・評価を一体として単元設計を行う。</p> <p>○学び方と認識の仕方(わかり方)を指導し、学ぶ力とわかる力を育てる指導を進める。</p> <p>○授業や家庭学習に特に集中して取り組む期間を各学期に約3～4週間、年間で約3カ月間設定する。</p>	<p>○児童アンケート(2月)では、勉強の時間が来るのが楽しい88%、相談したり話し合ったりすると学習がよくなる96%、授業は分かりやすい96%となった。</p> <p>○授業中に意見を発表していると回答した児童は94%と90%を上回り、過去10年間で最高値となった。</p> <p>○宿題を忘れずにできる児童は96%(同アンケート)、高学年ではほぼ全ての児童が1週間単位で自主的に学習計画を立ててやりきれられるようになった。</p> <p>△新学習指導要領で求められる学力の課題を一層明確にして、授業改善を学力向上に結び付ける。</p>		
生徒指導	<p>○一人一人の児童の状況を的確に把握し、主体的で協働的な授業や特別活動等を通して、学校不適切やいじめの未然防止にもつながる自己肯定感、自己存在感や共感的人間関係を醸成する。</p>	<p>○話し合いを重視し、「子どもが子どもから学ぶ」ための指導を進める。</p> <p>○自分たちで決めてやってみて、振り返ることにより、児童が「自ら気付く」ための指導を進める。</p> <p>○相手の立場に立って考えることから人権認識、自己存在感を育て、いじめ等を防止する指導を進める。</p> <p>○周りの人々や地域のために自分の力と時間を使おうとする態度を育てる指導を進める。</p> <p>○スクールカウンセラーや相談機関・関係機関等との連携を一層深め、組織的な教育相談や児童支援を充実する。</p>	<p>○児童アンケート(2月)では、問題を話し合いで解決している91%、人のために自分の力を使っている91%、学校へ行くのが楽しい94%と好結果が得られた。</p> <p>○特別活動では、児童自らが問題を解決する主体的な取組過程を組み込み、児童の人間関係が深まるとともに、弱い立場の友達を大切にしようとする児童が増えた。</p> <p>○行政、医療、福祉、事業所、大学等の多くの関係機関との連携が強化でき、組織的な児童支援による不適切の未然防止やいじめの早期解決に結び付いた。</p> <p>△授業づくりと一体化し、聴き合う・伝え合う・話し合う・学び合う活動を一層進める。</p>		

健康（体育）・安全	<p>○楽しく体を動かす習慣を身に付けさせながら体力・運動能力の向上を図るとともに、早寝早起きなど基本的な生活習慣を確立する。</p> <p>○安心・安全に関する必要な事項を理解させ、安全に気を付けて生活する態度を育てる。</p>	<p>○主体的・対話的に学び合う授業づくりと関連させた保健指導を進める。</p> <p>○取組期間を設けて、朝マラソン、鉄棒、縄跳びなどの体力づくりに取り組む。</p> <p>○家庭との連携を図りながら、特に早寝早起きができるようにするための点検活動を行い、生活を改善する取組を強める。</p> <p>○学校内外の安全に関する指導を強化するとともに、PTAや地域の安全ボランティア組織等と連携して、特に登下校の安全確保と事故防止に努める。</p>	<p>○自分の健康に目を向ける児童が増え、インフルエンザ流行期にも学級閉鎖を行う必要がなかった。</p> <p>○PTAや安全ボランティア組織と連携した結果、ほぼ毎日PTAやボランティアによる登校等の見守り、パトロールがあり、年間を通して交通事故0となった。</p> <p>△家庭での基本的な生活習慣を一層確立する必要がある。</p> <p>△SNS、ゲーム等による生活習慣の乱れや安全上の問題に対する教育や啓発を進める。</p>
特別支援教育	<p>○将来の社会参加に向けた豊かな自立を支援するという立場に立ち、児童一人一人のニーズを把握し、すべての児童が安心して学びに向かえるためのチームによる支援を進める。</p>	<p>○不適応を予測し、特別支援教育や困難の改善の観点から、教育活動や環境を事前に改善する取組を進める。</p> <p>○弱い立場、困っている児童の心に寄り添い理解するところから指導を始める。</p> <p>○どの児童も見通しをもった学習や生活ができる、学びやすい環境を工夫する。</p> <p>○保護者と目標を共有して支援を進めるため、保護者と定期的に懇談し、合意形成を図りながら取組を進める。</p> <p>○実践を通して具体的支援を積み上げ、個別の教育支援計画や指導計画を充実させて、合理的配慮の基礎とする。</p>	<p>○行事の設計段階で不適応を予測したことで、運動や集団活動が苦手な児童も全ての行事に参加できた。</p> <p>○児童アンケートでは、先生は自分の事を分かってくれる95%、気怪に相談できる先生がいる95%となった。</p> <p>○特別支援学級において、保護者との懇談を重ねながら支援計画を工夫改善し、特色ある生活単元学習等を実施した結果、児童が安定して力を付けるとともに、保護者・地域からも当該学級に高い評価を得た。</p> <p>△児童に対する細かな気付きをタイムリーに共有し、指導や環境調整につなげる態勢を一層強化する。</p>
研修（資質向上の取組）	<p>○授業研究等の実践的な校内研修を充実させ、指導力の向上を図る。</p>	<p>○峰山学園の学習指導、生徒指導、特別支援教育等の取組と連動させて校内研修を行う。</p> <p>○校内研修の中心を授業研究とし、授業の中での子どももの具体的な姿を通して学び合う。指導案のない普通の授業から互いに学び合う。</p>	<p>○峰山学園の重点と密接に関連させた研修が進んだ。</p> <p>○研究授業を通して授業改善の方向が明確になり、日常的な指導の工夫改善に結び付けて授業力が向上した。</p> <p>△小中一貫教育Ⅰ期・Ⅱ期の教育課程についての研究を深める。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>1 授業研究を日常的に実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を一層進めることで確かな学力を向上させる。</p> <p>2 授業・特別活動・生徒指導を一体的に捉え、聴き合う・伝え合う・話し合う・学び合う活動を教育課程全体でマネジメントして取り組む。</p> <p>3 SNS、ゲーム等による生活習慣の乱れや安全上の問題に対し、効果的な教育や啓発を進める。</p> <p>4 児童に対する細かな気付きをタイムリーに共有し、指導や環境調整につなげるとともに、児童に関する情報が途切れない態勢を一層強める。</p>		

## 平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立いさなご小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>峰山学園の教育目標である「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」を目指して教育活動を展開する。</p> <p>峰山学園小中一貫教育により本校の教育活動を充実させ、京都府小学校教育研究会協働力校として、算数科の研究を進めていく。</p>		<p>○ 学校再配置2年目、児童は落ち着いた状況で過ごし、充実した教育活動が推進できた。</p> <p>△ 自分の思いや考えを言葉で表現する力を高めることや家庭学習・読書など保護者との連携を深め、充実させることを大切にしながら学力の向上を図る必要がある。</p>		<p>目指す子ども像</p> <p>1 意欲を持って自ら学ぶ子ども</p> <p>2 思いやりのある子ども</p> <p>3 進んで心と体を鍛える子ども</p> <p>「目指す子ども像」を具現化する達成目標及び指導内容を明らかにして指導を進める。</p>	
<p>評価項目</p> <p>重点目標</p>		<p>具体的方策</p>		<p>成果と課題(自己評価)</p>	
<p>教育課程 学習指導</p>	<p>1 ねらいが明確で児童がわかりやすい授業を計画的に進める。</p> <p>2 家庭学習や個に応じた指導を充実させ、基礎学力の定着と確かな学力の進展を図る。</p> <p>3 知識・技能を用いて活用する力を育成する授業づくりを進める。</p>	<p>1 算数を研究の柱とし、規律があり、ねらいが明確で児童がわかる授業を研究授業等によって教員が学び合う。府小研の研究協力校として、確かな学力の育成を目指す算数科の授業研究を進める。</p> <p>2 発達年齢に応じた家庭学習の指導を進め、個に応じた指導を充実させる。</p> <p>3 身に付けた知識・技能を用いて考える、言葉で表現する力を育成し、振り返りなどを通して学習意欲を高める指導を行う。</p>	<p>○児童はおおむね規律あり、落ち着いた状況で学習、行事等に取り組むことができた。</p> <p>○学習内容の基礎基本の理解及び習熟の時間、家庭学習により定着を図ることがおおむねできた。また、算数科の研究に深い学びの授業に対話など言葉で表現する場面を設定することができた。</p> <p>△峰山学園の家庭学習の習慣化を図る取組において、自らが開始する時刻、内容、時間を決めて行った。この取組で積極的に取り組む児童が増えた。</p>		
<p>生徒指導</p>	<p>1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。</p> <p>2 規範意識を身に付けさせ、いじめを許さない心を育て、行動できるようにする。また、発達段階に応じた仲間意識を育成する指導を進める。</p> <p>3 良さを認め合う活動を積極的に取り入れ、児童の自己肯定感を高める。</p>	<p>1 特別支援教育部、教育相談部を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、連携した指導を進める。</p> <p>2 全教育活動を通して道徳教育・人権教育の推進、規範意識の醸成によりいじめの防止を行う。また、「他への思いやり」についての指導を重視する。</p> <p>3 教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを通信や学級活動、多様な異年齢集団での活動の中で計画的に伝えることで、自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。</p>	<p>○支援が必要と考えられる児童についての状況を全教員で共通理解を図ることができた。その上に、組織的に支援をすることができた。</p> <p>○生徒指導の基本に、規範意識の高揚と他を思いやる心を位置付けて指導を積み上げてきた。また、児童会は、「絆」「笑顔」などをキーワードにして取組を行い、規範意識の向上、思いやりの心の育成に役割を果たした。</p> <p>△いろいろな場面で、児童に言葉で表現することを大切にして指導を積み上げてきた。今後さらには、指導者自身が児童の思いを聞くこと、児童が言葉で表現するまで待つなどの指導の充実を図る。</p>		
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として					

健康（体育）・安全	<p>1 全般的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、学校を休まない強い体を作る。</p> <p>2 困難なことにもねばり強く挑戦していこうとする態度を育成する。</p>	<p>1 体育部、健康安全部等が中心となり、期間を決め、集中的に朝マラソンや朝縄跳び等の取組を行い、体育の授業と連動することと、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発により、体力(特に持久力)向上と粘り強く頑張ろうとする意欲を高める。</p> <p>2 学級、学校での取組において個々のめざす目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」についての指導を重視することで、ねばり強く挑戦する態度を高める。</p>	<p>○体育の授業、また、朝マラソンなど、期間を決めて行うことができた。児童も一生懸命に取り組むことができた。</p> <p>○当番活動、係活動、委員会活動など日常の活動を大切にして指導を行ってきた。発達年齢に応じて、粘り強く取り組む姿勢が見られた。</p>
開かれた学校づくり	<p>1 丁寧で分かりやすい双方の情報発信による積極的な学校公開を進める。</p> <p>2 信頼される学校経営を行いPTA、地域の関係機関、子ども園・中学校等との取組により連携を進める。</p>	<p>1 学校だよりや学級通信、HP等で学校の様子や肯定的評価を分かりやすく発信したり、保護者等の意見も紹介したりして、双方の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。</p> <p>2 無理のないPTA活動を通して積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。</p> <p>3 学校として目指す授業、学校行事等に対する保護者、地域の方々の意見、思いをくみ取り、改善に役立てる。</p>	<p>○定期的に学校だよりを発行し、また、ホームページも定期的に更新し、情報公開を行った。</p> <p>○授業参観、行事参観を実施して本校の教育を広く紹介する場をもった。</p> <p>○保護者アンケートなどからおおむね本校の教育に対して理解を得ている。</p>
研修(資質向上)	<p>1 職員の指導力向上に向けた研修を行い積極的に進める。</p> <p>2 個に応じた指導の推進と指導法について研修を進める。</p> <p>3 峰山学園が目指す10年間の連続した学びと育成を目指した研修を進める。</p>	<p>1 京都府小学校教育研究会算数教科教育研究協力校として、丹後教育局、京丹後市教育委員会の指導助言を受けながら、職員の指導力向上に向けた研修を行う。</p> <p>2 職員会議や校内研修の校長通信を活用して、個に応じた指導法についての研修を行う。</p> <p>3 峰山学園の目指す児童像を共有し、その実現に向けた取組のあり方について研修を進める。</p>	<p>○京都府小学校教育研究会算数教科教育研究協力校として、算数科における深い学びの指導のあり方について研究を進めることができた。</p> <p>○資質向上を目指して、峰山学園の研修会、本校の研修会を行うことができ、学力向上を目指した取組を行うことができた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>本年度、規範意識の向上、思いやりの心の育成を指導の基礎にして、「深い学び」を目指し指導の在り方について、京都府小学校教育研究会算数教科教育の研究発表を行った。今後さらに新学習指導要領で目指す学力に研究を深めていく必要がある。そのためにも、指導と評価の一体化を進める。</p> <p>その上に、「ことばの力の育成」をすべての教育活動に位置付け、教育を進める。また、学力向上については、家庭学習を自らの計画に沿って行い、その定着、習慣化を図る。</p>		

平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立しんざん小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校 【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校 【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校 【保護者・地域】	○生徒指導の3機能を生かした学級経営に努め児童個々の課題解決に向けた組織的な取組を推進することができた。 ○「当たり前のことが当たり前にできる」規範意識の醸成に向け教職員が一体となって取組を進めることができた。 ○不登校傾向児童対応を組織的にいい改善が見られた。 △「やりきること」に弱さを抱える児童に対しての支援を家庭との連携のもとに進める必要がある。 △発達段階に応じた指導の系統性を明らかにし、児童の学力の定着・向上を図って行く必要がある。	本年度学校経営の重点(短期経営目標) [新たなことに挑戦！子ども達の笑顔と希望が輝く学校] 1 新生「しんざん小学校」の開校を契機に、児童・保護者・地域にとって「安心・信頼」できる学校づくりを進める。 2 生徒指導の3機能を生かした授業を進め、児童に確かな学力を育成する。 3 コミュニケーション能力を育成する。 4 学園評価・学校評価の結果に基づき教育実践の改善を図り、学校経営を充実させる。	成果と課題(自己評価) ○新しい学校作りを機に、児童間の人間関係の構築に重点を置いた学級経営を行うことで、安心して学ぶことができ、学習環境を築くことができた。 ○国語科を重点教科として、主体的・対話的で深い学びを追求した授業改善を組織的に行った。他教科においても一定の授業のスタイルを確立する事ができた。 △学力診断テスト、学力・学習状況調査等の結果分析のもとに、基礎的な学力の定着に向け、学校としての取組を推進した。確かな学力の定着にはさらなる地道な努力が必要である。		
評価項目 教育課程 学習指導	重点目標 1 児童実態を的確に把握し、指導方法や授業改善の工夫を行い、学力の向上を図る。 2 「主体的・対話的で深い学び」を追求するために重点研究を充実させる。 3 豊かな人間関係のもとに将来を展望し、自ら学び続けようとする意欲と態度を醸成する。	具体的方策 1 学力診断テストや学力学習状況調査等の結果分析に基づき、学習意欲の向上、基礎学力の定着を図るための授業改善に取り組む。 2 授業づくりと学級づくりを連動させ、安心して学べる学級環境の中で児童の思考力・判断力・コミュニケーション能力を育む。 3 国語科を重点研究として教師の指導力向上に組織的に取り組む。 4 授業規律と規範意識の醸成を連動させ、児童の主体的に学ぶ意欲を育む。	○「当たり前のことが当たり前前にできる」規範意識を醸成するために、あらゆる機会に社会的なルールやマナーを意識させた。「思いやり」をキーワードとしながら学校のルールも丁寧に確認しながら定着を図った。 ○いじめの未然防止や気になる事象について、早めの対応を心掛けた。教職員間での「連絡・報告・相談」を大切にし、保護者対応、児童への指導も組織的に行った。 △廊下歩行、トイレのスリッパ揃え等、相手を意識した行動にはまだ課題が残る。		
生徒指導	1 教育活動全体の中で生徒指導の3機能を行い、児童の個性の伸長と社会的資質・能力・態度の育成を図り誰とでも繋がり合える豊かな人間関係を築く。 2 いじめ事象、不登校傾向児童、問題事象等の早期発見・未然防止に努める。	1 常に「当たり前」のことを意識させることで規範意識の醸成を図り「目的のある行動」が主体的にとれる児童を育む。 2 誰とでも繋がり合える豊かな人間性を育むために道徳教育、人権教育、特別支援教育の視点を大事にした取組を組織的に進める。(日々の授業、人権週間・月間、児童会の取組等を活用) 3 気になった事象に関して素早く「報告・連絡・相談」ができる職員との関係と職場の雰囲気醸成する。	○「当たり前前にできる」規範意識を醸成するために、あらゆる機会に社会的なルールやマナーを意識させた。「思いやり」をキーワードとしながら学校のルールも丁寧に確認しながら定着を図った。 ○いじめの未然防止や気になる事象について、早めの対応を心掛けた。教職員間での「連絡・報告・相談」を大切にし、保護者対応、児童への指導も組織的に行った。 △廊下歩行、トイレのスリッパ揃え等、相手を意識した行動にはまだ課題が残る。		
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として					

健康（体育）・安全	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保護者・地域と連携し安心・安全な登下校を目指す。</li> <li>2 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせ、体育・スポーツ活動に親しむ能力や態度を育成する。</li> <li>3 家庭との連携を図り、基本的な生活習慣を確立する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 安全ボランティアと連携し見守り活動を充実させる。定期的な通学班会を設定し児童の登下校中の安全に対する自覚を高める。</li> <li>2 朝マラソン、朝縄跳び、遊びを通して基礎体力の向上を図る。</li> <li>3 心と体の教育、薬物乱用教室、非行防止教室に取り組み。</li> <li>4 「生き生き頑張り週間」を設定し生活習慣を確立する。</li> </ol>	<p>○安心安全な登下校を目指し地域・保護者の協力が多く得られ、除雪対応も整った。大過なく通学できた。</p> <p>○SNSをはじめとする情報機器・ゲーム機の使用に関して、アンケート結果をもとに学級懇談会で生活習慣に及ぼす影響などを提起し「我が家ルール」を策定した。親子で時間の使い方を意識することができた。</p> <p>○朝マラソン、朝縄跳び等を通して基礎体力の向上と苦手なことにも取り組む粘り強さが出てきた。</p> <p>△基本的な生活習慣をより確立させていく必要がある。</p>
特別支援教育	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害への理解を深め、好ましい人間関係を築く。</li> <li>2 ユニバーサルデザインを意識した授業、教育活動を展開し、誰もが学びやすい環境を築く。</li> <li>3 家庭との連携を丁寧に行い、個別支援のあり方を共有する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発達障害等を含む個別の支援が必要な児童に対して合理的配慮や支援の方策を組織的に検討し、S・S、特別支援充実加配等を有効に活用し、支援を行う。</li> <li>2 校内研修会で児童の実態に基づく効果的な支援のあり方、授業の工夫等を検討し、児童理解を図り、指導に反映させていく。</li> <li>3 障害についての理解教育を進める。</li> <li>4 学校と家庭との連携を大事にし、児童の見方・支援の在り方を共有した上で教育効果が表れる支援を行う。</li> </ol>	<p>○個別な支援が必要な児童に対しての対応を組織的に検討し取組を進めることができた。他機関とも連携した相談活動を行うことで、児童・保護者の安定を生み出すことができた。</p> <p>○特別支援充実加配を活用し、取り出し指導等を行うことで児童の安定を生み出し、学力の定着に繋がった。</p> <p>△ユニバーサルデザインを意識した授業の普及はまだ十分とは言えない。今後も、全ての学級で誰もが学びやすい環境を意識していく必要がある。</p>
研修（資質向上の取組）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小中一貫教育「峰山学園」の取組を授業改善の手法として活かし、教職員の授業力アップを図る。</li> <li>2 重点教科を「国語科」と設定し、説明文教材を研究していく。</li> <li>3 グループ研修会を活性化させたり学年会を設定したりすることで教職員の指導力の向上を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各学年で作成する単元総括テストを校内でも検討する。ゴールから単元全体を見通した指導のあり方を探ることで重点教科の国語科にも応用させていく。</li> <li>2 教科指導力、生徒指導力の向上、課題対応力の向上を目指す校内研修会を設定する。</li> <li>3 講師を含む若手がベテランから指導についての重要個所やポイント等について質問したり考え合ったりできる機会を設定し、共に学び合う雰囲気と機会を作る。</li> <li>4 学力充実部を中心に学力向上に向けた取組を学校としての重要課題克服に向けた取組として設定し取り組む。</li> </ol>	<p>○国語科を中心として、説明文の読み取りから学び方を身に付け、各教科に波及できる力の育成を目指した。児童の主眼的に学びに向かう姿勢を育むことができた。</p> <p>○グループ研を中心に若手がベテランから指導法を学ぶことができた機会を充実させることができた。</p> <p>○若手教員、講師を対象に毎週金曜日に研修を行い、学級経営、授業作りの力量アップを図った。</p> <p>△授業改善と共に、家庭学習頑張り週間、校内漢字検定等の取組を全校的に行い、学力向上を目指した。全校の士気が高まってきたが、定着には課題が残った。学力向上を図る組織的な取組を更に推進していく必要がある。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>開校2年目の学校として、安心安全の学校経営を基本に据えながら、児童の学びに対する意欲を高め、学力の向上を図って行くことを主眼に置き、学校経営を進めていく。そのための授業改善の工夫と特別支援教育、教育相談活動を充実させる。複雑な家庭背景、特別支援教育の関わりが必要な児童への個のニーズに応じた手立てを組織的に推進し、学校の気運を高めていく。そのためのミドルリーダー育成と若手教員の指導力アップを組織的に行っていく。短期・長期の目標設定による評価を学校運営にさらに反映させていく。</p>		

# 平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立長岡小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して「自己肯定感を持ち自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に努める。</p> <p>(目指す子ども像)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲を持って自ら学ぶ子ども</li> <li>・思いやりのある子ども</li> <li>・進んで心と体を鍛える子ども</li> </ul>		<p>不登校や生徒指導に関わる大きな課題はなく、児童は一定安定した学校生活を送ることができた。</p> <p>○どの学級も安定した学級経営ができ、全校登校できた日がない日を記録した。また、充実した児童会活動もできた。</p> <p>△コミュニケーション能力や表現力の弱さからくる望ましい人間関係づくりに課題がある児童の割合が高い。</p> <p>△学力の二極化が顕著で、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るための組織的・計画的取組の充実が必要である。</p> <p>○△全教職員が主体的・協働的に研究活動に取り組めたが、教職員の指導力・授業力の向上は課題である。</p>		<p>◎学力向上システム開発校として取り組んだ昨年度の研究を基にユニバーサルデザインの視点を活かし、児童の主体的・対話的で深い学びを充実させ学力向上を図る。</p> <p>＜確かな学力・コミュニケーション能力の育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の三つの機能を活かした居心地のよい学級づくりの推進、対話的で深い学びにつながる授業づくり</li> <li>・工夫ある研修による、授業力・指導力の向上</li> </ul> <p>＜幼小・小中・小中連携・保護者・地域連携の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究を通じた小中一貫教育の充実</li> <li>・家庭や地域と協働する信頼される学校づくりの推進</li> </ul>	
評価項目	重点目標	具体的方策			
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p> <p>教育課程 学習指導</p>	<p>◎確かな学力の育成</p> <p>(1) 自己肯定感を高め、わかる・できる授業者の推進</p> <p>(2) 言葉の力の育成</p> <p>(3) 目標と指導と評価の一体化の推進</p>	<p>確かな学力の育成</p> <p>(1) 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」「できる」の授業推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒指導の3機能を意識した授業づくりを進め、児童に「わかる・できる」を実感させ自己肯定感を高める。</li> <li>・ 外部講師、関係諸機関を活用した工夫した研修を進め授業力を高めることで、児童の学ぶ意欲を育てる。</li> <li>・ 幼小連携・小中連携・小中連携の在り方を工夫し、10年間を見通した指導を進める。</li> </ul> <p>(2) 言葉の力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主体的な活動の場、対話的な学習場面が保障された授業づくりや考えを伝え合える授業づくりを進めることと言葉の力を育てる。</li> <li>・ 実態に応じて表現する場を設定し、表現力を育成する。</li> </ul> <p>(3) 目標と指導と評価の一体化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実態に応じた目標設定と総括テストを活用し評価まで見通した指導を進める。</li> <li>・ スキルの工夫・充実、ボランティアを活用した放課後補習、家庭学習がらばりカードや手引きを活用した家庭学習習慣の確立により基礎学力の定着・向上を図る。</li> </ul>			
<p>成果と課題(自己評価)</p> <p>◎研究発表会を目標に、教職員が生徒指導の3機能を意識した授業づくりに取り組んだり、目標と指導と評価を一体化した授業づくりを工夫したりすることができた。</p> <p>○外部講師を招聘し、教職員が学ぶ機会を多く持つことで職員への授業に対する姿勢が変わり、授業づくりに工夫が見られるようになった。</p> <p>△みんなで一生懸命に取り組んできたが、なかなか児童の学力向上に結び付いているという実感を持つことはできていない。</p> <p>○長岡トークタイム、ペア学習、授業の振り返り活動等、児童に表現する機会を多く設定し、表現力の育成を図ることができた。</p> <p>△決められた中では表現するが、主体的に表現するまでには至っていない状況がある。</p> <p>○総括テストを作成する等、目標を明確にして授業づくりを進めることができた。</p> <p>○PTAとも協力しながら児童の家庭生活について課題を共有し、家庭学習の習慣化を図る取組が進められた。</p> <p>△課題のある家庭への対応は難しく、改善できなかつた。</p>					

生徒指導	(1) いじめの根絶を目指して安心して自己表現できる居心地のよい学級・学校づくり  (2) 自己肯定感を高める生徒指導の取組	(1) いじめなく居心地のよい学級づくり・学校づくり ・機能する校内体制を確立し、いじめ・問題事象・不登校の未然防止、早期対応・早期解決に努める。 ・課題に合った研修を設定し指導力の向上を図る。 ・豊かな体験活動や読書活動を生かした道徳的実践力の育成と児童・教職員、児童相互の協働的活動を通し、温かい人間関係の構築を図る 自己肯定感を高める生徒指導の取組 ・安心して自己表現できる学級・学校づくりを推進する。	○児童の状況について常に全体で共通理解を図り、課題に感じた事象には直ぐに教育相談部会を持ち対応した。 ○様々な学校行事や児童会行事に教職員が協働して取り組む中で、児童と教職員や児童同士の温かな関係づくり、安定した学級づくりを進めることができた。 △学級により自己肯定感の高まりは違う。その原因をしっかり理解し、対応を図る必要がある。(高学年には自己肯定感が低い状況が見られる。)
健康(体育)・安全	(1) 健やかな心身を育み、たくましく生きる力の育成  (2) 危機管理の充実と安心・安全な学校作り、環境の整備	(1) たくましく生きる力の育成 ・目標を明確にした継続的な体力づくりの取組を進める。 ・小中連携加配との連携による運動能力の向上を図る。 ・命や体・健康に関する知識と実践的態度を育成する。 (2) 安心・安全な学校づくり ・教職員の危機管理意識の向上を図る研修を充実する。 ・安全点検や避難訓練の実施と地域と連携した安全体制・防犯体制を充実する。	○朝ラソンや縄とび等、計画的に取組を進めることができ、児童の体力向上を図ることにつながった。 ○計画通り避難訓練を実施し、児童の安全行動の確認ができた。(6月の地震では、自分達だけで避難できた。) △安全ポラテンティアへの巻き込みながら取り組むか検討が必要である。
特別支援教育	(1) 児童の特性を踏まえて、合理的配慮の観点に基づいた必要な指導・支援の推進	(1) 日々の丁寧な相談活動を基にしたアセスメント票、児童実態にあった個別の指導計画・支援計画を作成し、その有効活用を図る。 (2) 子どもの教育的ニーズに応じた校内委員会を組織し、指導の充実を図る。 (3) 幼小連携・小中連携を進め、ユニバーサルデザインを意識した多様な学習形態を導入し授業づくりを充実する。 (4) 支援を要する児童理解、指導・支援の在り方について研修会を実施し、特別支援教育を充実する。	○特別支援コーディネータを中心に、児童支援のあり方について検討し、家庭との共通理解を図ることができるよう取組を進めた。 ○研究に取り組む中で、ユニバーサルデザインを意識した授業づくりについて学び、充実を図ることができた。 △学校の方針を保護者に正確に理解してもらおうことができない家庭もあり、家庭との連携の在り方を今後も模索し、児童のよりよい支援につなげたい。 △来年度入級児童への対応を検討する。
研修(資質向上の取組)	(1) 学力向上システム開発校としての研修の充実	(1) 1年次の研究課題を踏まえ、重点取組課題を共有することで、全教職員が協働して学び研究する意欲を高める。 (2) 外部講師等を活用した授業研究会等を通して、授業づくり・学級づくりを充実させることで指導力の向上を図る。 (3) 研究発表会を実施することで、研究成果を他校に波及する。	○厳しい条件の中であつたが、全ての教職員が意欲的に研究に取り組めた。研究発表会には94名の参加が得られ、教職員は達成感を持ち研究発表会を終えられた。 △それぞれが研究発表に向け努力したことで、算数科において少し授業力の高まりが見られた。しかし、他教科への波及やシステム化は課題がある。
次年度に向けた改善の方向性	(1) 学力向上システム開発校としての研究成果を活かして、児童の学力向上を図る。 (2) SNSの利用の仕方等を家庭と連携を図りながら取り組むことで、児童の生活習慣の確立と安心・安全な生活を守る。 (3) 安心して学べる学級づくりや地域と連携を図った体験活動、学校行事・児童会行事を充実する中で、児童の自己有用感や自己肯定感を高める。 (4) 来年度入級予定の児童への理解教育等を進めると共に、児童の発達に応じた指導を工夫・充実する。		

# 平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 〔京丹後市立大宮第一小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成	2 自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成	3 心身を鍛え、活動的な子どもの育成	4 組織的・効率的・機能的な学校経営による信頼される学校づくりの推進
5 大宮学園経営計画に基づく小中一貫教育の充実			
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら課題を見つけ、主体的に課題を解決する力、思考力、豊かな表現力を育成する。</li> <li>○児童の学力実態や学習状況を的確に把握し、「主体的・対話的で深い学び」を育む授業改善に取り組み。</li> <li>○基礎学力定着に向け、組織的な取組を推進する。</li> <li>○小中一貫関係カリキュラムを生かした学習指導を推進する。</li> <li>○新学習指導要領実施・移行に対応し、すべき教育活動・研修を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教育活動で課題解決力・思考力・表現力の向上を図る。</li> <li>・各学力診断テスト結果分析に基づき、学習意欲・基礎学力の向上をめざした授業改善を図る。</li> <li>・算数科重点研究を起点として「主体的・対話的で深い学び」を育む授業改善を進め指導法・算数科学力課題の改善を図る。</li> <li>・組織的指導体制を整え、全校放課後算数補習、朝ドリル、長期休業中補習の充実を図る。</li> <li>・形成評価、単元未評価等、計画的な効果測定により、個に応じた即時回復指導、早期回復指導の工夫・徹底を図る。</li> <li>・家庭との連携による「家庭学習のやくそく」の活用や、生活習慣確立の取組を通して家庭学習習慣の定着を図る。</li> <li>・大宮学園合同研修により、自己肯定感を高め、基礎学力の向上を実現するための授業づくりを充実させる。</li> <li>・新学習指導要領実施・移行に対応すべきカリキュラムマネジメント、組織的研修の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成</li> <li>○課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力の育成</li> <li>○主体的・対話的で深い学びによる基礎学力の向上</li> <li>○教科指導力・生徒指導力・対応力・連携力の向上</li> <li>○突発事象対応・不登校解消を図る指導力・組織力の向上</li> <li>○懇談、家庭・地域との連携強化による家庭教育支援の充実</li> <li>○大宮学園教育活動の充実を図るための校内組織推進の強化</li> </ul>
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として			
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「いじめ」「不登校」等の諸課題に対し、未然防止に向け日常的な生徒指導・教育相談活動を充実させるとともに、「心の教育」を推進する。</li> <li>○全教育活動を通して、人権尊重、規範意識・自尊感情の醸成、児童の個性・社会的資質・能力の伸長を図り、自ら課題を解決する意欲と実践力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部会、いじめ対策委員会、教育相談部会のセンター機能を強化し、問題行動事象対応、いじめ・不登校未然防止、規範意識の高揚を目指した指導の充実を図る。</li> <li>・支援会議により、個別な支援が必要な児童の支援方針を検討し、組織的支援により、不登校・集団不適応の解消を図る。</li> <li>・道徳科や全ての教育活動を通して人権教育を推進し、自分や友達を大切にできる児童の育成を図る。</li> <li>・思いやる心と豊かな人間関係を育むため、異年齢活動、自然体験・社会体験活動の充実を図る。</li> <li>・課題解決力を育成するため児童の自己決定場面の充実を図る。</li> <li>・学級経営力の向上を図る。(学習集団の育成、自治的活動充実)</li> <li>・家庭教育支援、心の教育の充実、問題行動事象解消に向け、家庭支援・地域との連携の強化を図る。</li> <li>・大宮学園引き継ぎシートによる保幼小中の連携強化、大宮学園合同研修を充実させ、不登校の解消を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教育活動で思考力・言語力の向上を図ることができた。</li> <li>○各基礎学力診断テスト結果分析を踏まえ、授業改善、全校体制による早期の回復指導に取り組み、基礎学力の定着を図ることができた。</li> <li>○算数科を中心に「主体的・対話的で深い学び」を育むための授業改善の取組の充実を図ることができた。</li> <li>○少人数指導等、指導法の工夫・改善により個に応じたきめ細かい指導を充実させ基礎学力の向上を図ることができた。</li> <li>○全校体制による放課後回復指導の充実を図ることができた。</li> <li>○年間を通じた学習指導部の提起により、家庭と連携して家庭学習習慣、家庭学習の充実を図ることができた。</li> <li>○総則、外国語、道徳を中心に、新学習指導要領実施に向けた研修の充実を図ることができた。</li> <li>△大宮学園授業研究により、「主体的・対話的で深い学び」を育む授業づくりを充実させる。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導部・教育相談部・支援会議等のセンター機能が発揮され、問題行動事象、不登校、個別支援課題等の児童課題について組織的に改善を図ることができた。</li> <li>○道徳、人権学習、学級経営の充実により、自他を尊重する児童の育成を図ることができた。</li> <li>○年間を通じた多様な異年齢活動・体験活動を工夫し、豊かな人間関係の育成を図ることができた。</li> <li>○全教育活動を通して自己決定場面を工夫・充実させ、「自ら考え、課題を解決していく力」の育成を図ることができた。</li> <li>○学級経営評価を基にした実践研修により学級経営力を高め、豊かな人間関係の育成を図ることができた。</li> <li>○大宮学園引き継ぎシートの活用、学園教育支援部会、校内支援会議の充実により、個別な不登校解消に向けた組織的な取組の充実を図ることができた。</li> <li>△支援会議・家庭教育支援を充実させ、不登校を解消させる。</li> </ul>

健康（体育）・安全	<p>○教科体育、遊び、体力づくりを通して、楽しく体を動かす習慣を身に付けさせながら、体力・運動能力を向上させる。</p> <p>○安心・安全な生活を営むための危機管理能力、危機対応力を育成する。</p> <p>○健康な心と体に成長するため、たくましく生きる実践力を育成する。</p>	<p>・教科体育の充実、日常的な活発な遊び、継続的な朝ラウン・朝脚跳びの取組を充実させ、基礎体力の向上を図る。</p> <p>・年間を通して、計画的に食育・保健指導の充実を図る。</p> <p>・安心・安全な学校生活が送れるよう、教職員の日常的な危機管理能力・対応力の向上、施設点検・安全管理の徹底を図るとともに、実践的な避難訓練の充実を図る。</p> <p>・校内事故防止指導、登下校安全指導・体制の充実を図る。</p> <p>・生活点検の取組を充実させ、基本的な生活習慣の改善を図る。</p> <p>・より良く生きるため心・命の教育の充実を図る。</p> <p>・登下校の安全を守るための地域・PTA連携の充実を図る。</p>	<p>○年間を通して教科体育、体力づくり、外遊びを充実させることができ、基礎体力の向上を図ることができた。</p> <p>○きめ細かな日々・月ごと・特設の食育・保健指導の成果により、食生活への関心・保健意識を高めることができた。</p> <p>○危機管理能力、対応力を高めるための連携・訓練、施設管理を行い、組織的に危機管理能力の向上を図ることができた。</p> <p>○校内安全指導、保護者・地域連携により校内事故防止、登下校・地域での事故防止の徹底を図ることができた。</p> <p>△生活点検の取組を活用し、基本的な生活習慣の改善を図る。</p> <p>△登下校・校内生活安全に関わる環境整備・施設整備に取り組み。</p>
特別支援教育	<p>○人間尊重の精神を基盤にした「共に生きる心豊かな児童」を育成する。</p> <p>○心身の障害特性に基づき、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進する。</p>	<p>・特別支援教育コーディネーターの機能を充実させ、職員研修・特別支援教育実践力の向上を図る。</p> <p>・定例支援会議による児童実態の把握、指導・支援方法の策定により、全校体制による指導の充実を図る。</p> <p>・発達障害理解・指導についての理論的研修を充実させ、その成果を学級経営・学習指導現場で具現化させる。</p> <p>・保護者・関係機関との丁寧な連携、個別の指導計画に基づき、個別な配慮が必要な児童への組織的支援の充実を図る。</p> <p>・年間を通して丁寧な就学指導を行い、障害の状況に応じた適切・適確な個別指導の充実を図る。</p> <p>・障害を正しく理解するため、理解教育の充実を図る。</p> <p>・大宮学園引き継ぎシートの活用や大宮学園合同研修により、保幼小中の特別支援教育の一貫と接続の充実を図る。</p>	<p>○発達障害理解・特別支援教育体制の充実に関わる研修を行い、個別に応じた支援を充実させることができた。</p> <p>○定例支援会議により丁寧な児童実態把握を行い、関係機関、保護者との連携により、共通理解を深めながら、組織的に個に応じた個別な支援・対応を図ることができた。</p> <p>○様々な個別な事情による突発的不適応状況に対し、状況に応じた組織的支援力・対応力を高めることができた。</p> <p>○昨年度成果を引き継いだ年間を通して丁寧な就学相談の成果により、障害の状況に応じた就学指導の充実を図ることができた。</p> <p>○大宮学園引き継ぎシート、特別支援学級担任会による実践研修により大宮学園特別支援教育の充実を図ることができた。</p> <p>△さらに、保護者・関係機関との連携を充実させ、個別の指導計画に基づき個に応じた支援の充実を努める。</p>
開かれた学校づくり	<p>○学校・家庭・地域社会の教育環境を整え、子ども達が大切に包み込まれ、育まれていることを実感することができる開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>○大宮学園教育支援協議会の活動の充実により、小中一貫教育の教育環境づくりを充実させる。</p>	<p>・迅速、的確、誠実で丁寧な家庭との連携を行い、子育て課題克服に向けた家庭連携・支援の充実を図る。</p> <p>・子育て課題を共有し、子ども達に生きる力を育んでいくために、多数の保護者の参加による懇談会の充実を図る。</p> <p>・地域の教育素材・人材を学校教育に有効に活用するため、地域・保護者との連携の充実を図る。</p> <p>△大宮学園PTA・大宮学園教育支援協議会との連携により、大宮地域が一体となった教育環境づくりの充実を目指す。</p>	<p>○ケース会議、関係分掌会議等組織的な協議に基づき、迅速で丁寧な家庭との連携を行い、児童の個々課題に対する改善に向けた連携を充実させることができた。</p> <p>○地域の教育素材・人材を活用した教育活動の充実を図ることができた。</p> <p>△子育て課題を共有し、子ども達に生きる力を育んでいくための全員参加による学級・学年懇談会の開催を目指す。</p> <p>△大宮学園教育支援協議会との連携により、地域との教育環境づくりの充実を目指す。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p><b>【組織的推進】</b> ①経営的会議としての学年主任会、教育課程推進会議としての企画委員会、基幹分掌について、機能の強化、推進の効率化を図る。</p> <p>②ケース会議の機能を強化し、突発的不適応状況に対する、組織的支援力・対応力を高める。</p> <p><b>【教育・研修】</b> ①大宮学園目標である「ことばの力」「思いやる力」「つながる力」を育むための教育活動の充実を図る。</p> <p>②危機意識の高揚を図り、自ら考え判断して生活上の諸問題を解決する力を培うための学級経営・学校運営の充実を図る。</p> <p>③課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力を育むための教育活動の充実を図る。</p> <p>④理論的研修・実践的研修の充実を図る。（主体的・対話的で深い学びを育む授業改善、生徒指導力・対応力の向上、新学習指導要領に係る研修）</p> <p><b>【連携】</b> ①大宮学園3会議・3部会と、校内小中一貫教育推進部の連携強化を図る。学園教育活動、研修活動の効率化を図る。</p> <p>②学級懇談会、家庭・地域との連携を充実させ、家庭の教育力の向上、学校教育の充実に向けた地域の教育力の活用を図る。</p> <p>③本校PTAと大宮学園PTA、大宮学園教育支援協議会との効果的な連携の仕組みを整える。</p>		

## 平成 30 年度 学校 評価 自己 評価 報告

学校名 [京丹後市立大宮南小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
大宮学園 教育目標	「自他を尊重し、自ら学ぶ 子どもの育成」 ・学級づくりを基盤にして確かな学力をつける。 ・人権意識の育成を図る。 ・体験活動の充実を図る。	○人権教育を基盤とし、互いの良さを認めあえる学級、仲間はずれやいじめの早期発見・対応により、安心して学び活動できる学級、学校づくりを進めることができた。 △深い学びのできる授業展開の工夫をし、学力の向上を図る。	大宮学園 めざす子ども像 (1) 意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 (2) 自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 (3) 心身を鍛え、活動的な子どもの育成	成果と課題 (自己評価)	
評価項目	重点目標	具体的方策	○京丹後市学校給食研究発表会に向けて、食育の授業研究をするとともに、主体的・対話的で深い学びにつながる授業について、全教職員で研修を行い他の教科にも生かすことができた。 ○△話し合い活動を意識的に授業や特別活動の場面で設定し、一定の成果は出ているが、学級によっては、まだ指導が必要などころもあるので、引き続き研究していく。		
教育課程 学習指導	(1) 中学校との接続を意識した連続性のある指導の充実 (2) 基礎基本の定着と活用する力の育成	・わかる・できる授業作りのため、研究授業を行う。 ・言語活用カリキュラムを活用する。(話し合い活動で表現力を高める。) ・生徒指導の3機能を生かした授業作りをする。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究をする。	○毎週1回会議後に児童の実態交流の時間をとるとともに、気になる事象があった時は、生徒指導部を中心に事実確認を行い、方向性を決め、複数で早期対応を図ることができた。 △担任によっては、報告が遅れることがあるので、今後にも連絡・報告・相談を密にするよう指導していく。		
生徒指導	(1) 児童の人権意識、自尊心、感情、規範意識を高める。 (2) 児童理解を深める。 (3) いじめの未然防止・早期発見・早期対応を徹底させる。	・事例研究を行う。 ・自尊感情を高める取組をする。 ・週に1回は児童の実態交流をし、共通確認を図る。(会議後に時間をとる。) ・実態交流の中で、児童の見方について若い教師に学ばせる場を作り、人権感覚を磨かせる。 ・連絡・報告・相談を欠かさないことを意識づける。	○地域の協力も得ながら、地場産の作物の素晴らしさを知り、バランス良く食べることの大切さを、発達段階に合わせて学ぶことができた。 ○PTA・教職員が協力して、にこにこカーによる安全パトロールの実施や、多くの安全ボランティアの立ち番や付添登校などにより、安全に登下校ができた。		
健康 ( 体 育)・安全	(1) 体力・運動能力の向上 (2) 健康安全教育の充実 (3) 食育・給食指導の充実	・体力テストの結果を踏まえた授業改善をする。 ・ルールを守り、自他を大切にすることを安全教育、命の教育をする。 ・市学校給食研究大会研究協力校として、これまでの取組成果を生かし、課題改善に向けた取組を推進する。(栄養教諭・PTAとの連携)			

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

危機管理	<p>(1) 状況を判断し主体的に行動する態度を育てる。</p> <p>(2) 児童・教職員の様子を観察し、未然防止・早期発見早期対応を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練等で学んだことを生かし、災害が起こった時最善の方法を自ら考え行動できる児童を育てる。</li> <li>・日々の様子から情報収集をし、危機について未然防止・早期対応ができるよう、連絡・報告・相談を徹底させる。</li> </ul>	<p>○連絡カードを使った引き渡し訓練を実施することができた。</p> <p>△不審者対応の避難訓練が、計画にはあったが、実施することができなかった。来年度は、防犯教室も含めて実施する。</p>
特別支援教育	<p>(1) 障害のある児童の実態に応じた的確な支援をする。</p> <p>(2) ユニバーサルデザインの授業を進める。</p> <p>(3) 児童・保護者のニーズに応じた特別支援教育を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導・教室経営にユニバーサルデザインの視点を取り入れる。</li> <li>・適切な児童の見立てをするとともに、効果的な個別の指導計画が作れるよう、学校体制で取り組む。</li> <li>・保護者面談を行い、必要があれば外部機関との連絡をし保護者のニーズに応えられるような取組を行う。</li> </ul>	<p>○教室環境、授業の流れなどに、ユニバーサルデザインの視点を取り入れることができた。</p> <p>○電子黒板を活用して、特性のある児童にも、集中しやすい授業になるよう工夫することができた。</p> <p>△児童の実態に合った学ぶ場所の提供ができるよう、更に面談をし理解を図る必要がある。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育を基盤にし、互いの違いや良さを認められる学級、いじめのない学級・学校づくりを推進する。</li> <li>・小中一貫教育の視点を大切に、主体的・対話的で深い学びにつなげる授業を意識した授業改善を進めることにより、児童の学力向上を図る。</li> <li>・新学習指導要領実施に向けた研修をする。(プログラミング教育など)</li> </ul>		

# 平成30年度学校評価自己評価報告

学校名 〔京丹後市立網野北小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	
1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業を付ける。	○ 全校的に年間通して、落ち着いた授業ができ、授業充実を図ることができた。	○ 児童アンケート「自分なりの考えを発表したり書いたりしますか」の問いに88%がしていると回答した。	○ 教科の基礎・基本を身に付けさせ、見える学力の充実を図るとともに、主体的・対話的な授業研究に取り組む、深い学びの具現化に努める。
2 来を切り拓く力を付ける。	○ 児童が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを学級通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。	○ 児童が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを学級通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。	○ 児童が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを学級通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。
3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。	○ 児童が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを学級通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。	○ 児童が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを学級通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。	○ 児童が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを学級通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。
4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	○ 児童が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを学級通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。	○ 児童が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを学級通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。	○ 児童が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを学級通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	1 ねらいが明確で「わかる」「できる」授業を進める。 2 全校体制で個に応じた指導・学力補充体制を確立し、基礎・基本の定着を図る。 3 身に付けた知識・技能を用いて活用する力を育成する授業を進める。 4 児童が意欲的に学習できる場の設定を進める。	1 研究推進部を中心に、ねらいが明確で「わかる授業」「できる授業」の算数科の研究授業・公開授業を行い、学び合う。 2 学力補充・スキルタイム・家庭学習等により、授業だけでなく、家庭と連携し、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。 3 身に付けた知識・技能を活用して思考する力・判断する力・表現する力を育成することを研究授業の観点として意識しながら授業充実を進める。 4 児童が意欲的に学習できる多様な学習形態を取り入れた授業・環境づくりの設定を進める。	○ 研究推進方針に沿って学び合うことができ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりをした。 ○ スキルタイム、放課後補習を実施し、基礎基本の力を付けることに努めた。 ○ ジュニアアークわくわくスタディを実施し、児童のつまずきに応じた指導を行った。 ○ 漢字検定・算数検定も活用しながら目標を持たせ、学力の向上を図った。国語AB層(11P↑)DE層(→)算数AB層(13P↑)DE層(8P↓)4月・1月比較
生徒指導	1 よさを認め合い、伝え合える活動を積極的に取り入れる。 2 発達段階に応じた「思いやり」の心を育成する指導を進める。	1 教師が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを学級通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。 2 生徒指導の3機能(自己存在感・共感的な人間関係・自己決定の場)を大切にしたい教育実践を推進する。 3 いじめや問題事象等侵害行為への対応は、迅速、丁寧、組織的に行う。 4 道徳の時間を中心に、特別活動・学級活動等、全ての教育活動を通して道徳教育・人権教育を推進する。特にB「主として人とのかかわりに関すること」「親切、思いやり」について指導を重視する。	○ 目標達成のための具体的行動を提起し、組織的に取り組んだり、年間を通して生徒指導の3機能を大切にしたい指導を継続したりすることで、学級生活に満足な児童を12ポイント増、不満足な児童を4ポイント減する等、いざここのよい学校づくりを推進することになった。 ○ 日頃より「報告・連絡・相談」の重要性について職員間で共有化し、いじめ、問題事象に関わる事象が生じた際は、早期に事実関係を掌握し、該当者の内面も理解しながら事象の解決に繋げることができた。 △ 道徳の教科化に伴い、道徳科の評価について校内研修できた。「考え議論する道徳」について、授業づくりを通じた研究を進めたい。
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として			

健康（体 育）・安全	<p>1 全校的な体力にかかわる取組の充実により、体力向上を図ったり、基本的な生活習慣を身に付けさせたりして、学校を休まない強い体を作る。</p> <p>2 困難なことにも粘り強く挑戦していきこうとする態度を育成する。</p> <p>3 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。</p> <p>全員登校20日以上</p>	<p>1 期間を決め、体力づくりの取組を行い、体育の授業と連動することで、体力（特に持久力）向上を図ったり、PTAと連携して基本的な生活習慣の確立を目指したりして、休まず学校に登校できる意欲を高める。</p> <p>2 学校、学級での取組において個々の目指す目標を発達段階に忠じて明確にし、特にA「主として自分自身に関すること」「希望と勇氣、努力と強い意志」についての指導を重視し、粘り強く挑戦する態度を高める。</p> <p>3 教育相談部会を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援・手立てを打つ。</p>	<p>○「全員登校20日以上」の目標をPTAと共に設定し、網野学園「これだけは！」（家庭編）を意識する取組を「生活点検」等により推進したり、配慮児童の家庭と定期的に面談を持ったりする等、丁寧な指導を継続したことで、全員出席日を27日（2/27現在）とすることができた。（保護者アンケート 基本的な生活習慣確立 肯定率91%）</p> <p>○駅伝競走大会での成果 優勝、9位</p> <p>○配慮児童に係る個別の教育支援計画、個別の指導計画を保護者と共に作成し、それに基づく教育実践を積み上げ、評価し改善をするというサイクルを地道に継続することで、児童へのきめ細かな支援を行うことができた。</p>
危機管理	<p>1 コンプライアンス意識の高揚を図り、保護者、地域の信頼と期待にこたえる。</p> <p>2 いじめ等問題事象の早期発見・早期解決に努める。</p> <p>3 超過勤務の縮減に努める。</p> <p>4 安全な登下校の為の環境づくりを進める。</p>	<p>1 コンプライアンスハンドブック等を活用した校内研修を行う。</p> <p>2 「人権」を大切にした学校経営をし、日頃から教職員間で何でも話せる関係づくりに努める。</p> <p>3 PTA役員等密接な連携を図りながら、課題解決に臨む。</p> <p>4 超過勤務時間の実態共有化と年間を通じた縮減の働きかけ、校務改善に努める。</p> <p>5 見守り隊と日常的な連携を図る。</p>	<p>○校長通信を活用した身近な事例等の紹介や、ハンドブックの活用でコンプライアンス意識を高めた。</p> <p>○PTA本部役員を中心に、学校運営に係る情報の共有化を図る等、連携を密にした。</p> <p>○毎月超過勤務時間を個々にグラフ化して返し、翌月の自己目標を設定し、勤務時間の意識化に繋げた。</p> <p>○見守り隊と連携しながら登校指導をしたり、下校時巡回パトロールの実施をしたりすることで、安全を確保した。</p>
開かれた 学校づく り	<p>1 丁寧で分かりやすい双方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。</p> <p>2 PTA・地域の関係機関等との取組により連携を強化する。</p>	<p>1 学校だよりや学級・学年通信、ホームページ等で、学校の様子を分かりやすく発信したり、保護者の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。</p> <p>2 学校公開日を設け、保護者や地域住民の学校参観を促進する。</p> <p>3 PTAとの積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。</p>	<p>○学校だより、学級通信や、ホームページ等で児童のがんばりの様子を伝えることで、学校の取組状況について情報発信できた。保護者アンケート肯定率87%</p> <p>※ホームページのアクセス数1日に約300件</p> <p>○学校公開日 10月5日（金）学校公開日 授業参観、神楽鑑賞 11月17日（土）学習発表会、校内作品展 等</p>
3学期、次年度 に向けた改善 の方向性	<p>△不登校傾向児童・要配慮児童・家庭への丁寧な対応</p> <p>△学期ごとの学力層推移の把握、それに基づく手立て</p> <p>△基本的な生活習慣の確立、スマホ・YouTube等SNSに係る研修</p> <p>△満足群でない子どもたちへの手立て 学級を安心できる、侵害されない場所にする。多人数学級へ担任外による支援をする。個人懇談を希望制に、7月学級懇談会、下校時刻の検討</p> <p>△働き方改革の視点も考慮した次年度の年間計画作成（PTA行事含む）一学期末 個人懇談を希望制に、7月学級懇談会、下校時刻の検討</p>		

平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立網野南小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>網野学園小中一貫教育の目標から「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」を目指す子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あかるく元気に進んで学ぶ子ども</li> <li>・みんななかよく支え合う子ども</li> <li>・のびのび生き生きややりぬく子ども</li> </ul>	<p>○計画的な授業研究の積み上げによる授業改善、スキルタイムや放課後補習等の取組による学力の定着</p> <p>○網野学園「これだけは」や生徒指導の3機能等を生かしたことから安定した学級経営</p> <p>△家庭環境の厳しい児童、低学力児童、外国籍児童等への一層の具体的な指導・支援</p> <p>△「主体的・対話的で深い学び」を具現化する授業づくり</p> <p>△働き方改革に係る学校運営の改善</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校再配置5年目。児童が安心して学校生活を送り、各自の力を最大限発揮できる教育環境をつくる。</li> <li>2 網野学園小中一貫教育の「目指す子ども像」の具現化を図るため、他の小中学校と一体化した教育を推進する。</li> <li>3 「いごこちのよい」「よく学ぶ」「毎日登校できる」をキーワードとした学校経営を行う。</li> <li>4 基本的な学校運営システムを構築する。</li> </ol>	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <p>○「算数科における『深い学び』の追求」をテーマとし、計画的に授業研究を積み上げ、課題設定の工夫、発問やゆきぶりの工夫、振り返らせ方等、学び合うことができた。</p> <p>○学習指導や学校行事等の評価を積み上げ、取組の見直しを含め、次年度の教育課程編成に生かすことができた。</p> <p>△授業改善を中心とした学力充実の取組の強化</p> <p>△研究推進の成果を生かした「深い学び」の授業づくりの一層の推進。</p>		
<p>評価項目</p> <p>学習指導 教育課程</p>	<p>具 体 的 方 策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・網野学園と校内研究と連動させ、「もの見方・考え方」に着目した授業づくりを進める。</li> <li>・授業及び学力補充の取組や網野学園学力向上の取組を効果的に実施し、基礎学力(読み・書き・計算等の習熟)や学習習慣の定着、家庭学習の充実を努める。</li> <li>・次学期または来年度の教育課程編成に生かすために、学習指導や学校行事等の取組状況や進捗状況を日常的に把握・検証し、ていねいな評価を行う。(カリキュラムマネジメント)</li> </ul>	<p>○「よく学ぶ」学校</p> <p>基礎的・基本的な学習内容の習熟と、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を育成する。</p>	<p>○「算数科における『深い学び』の追求」をテーマとし、計画的に授業研究を積み上げ、課題設定の工夫、発問やゆきぶりの工夫、振り返らせ方等、学び合うことができた。</p> <p>○学習指導や学校行事等の評価を積み上げ、取組の見直しを含め、次年度の教育課程編成に生かすことができた。</p> <p>△授業改善を中心とした学力充実の取組の強化</p> <p>△研究推進の成果を生かした「深い学び」の授業づくりの一層の推進。</p>		
<p>生徒指導</p>	<p>生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を大切にした教育実践を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動を通して、それぞれの目標や目的、児童の姿等について、具体的な評価と行動の振り返りを積み重ねる。(指導者としても、児童自身も振り返りを重視する。)</li> <li>・網野学園「これだけは」(授業規律確立と規範意識醸成)等で、ルールの大切さの価値付けや共有化を図る。</li> <li>・いじめや問題事象等の対応については、窓口の一本化(教頭)とし、正確に事実を確認することを原則として、迅速に、丁寧に、組織的に行う。</li> </ul>	<p>○「いごこちのよい学校」</p> <p>互いのよさでつながり合える人間関係を構築するとともに、規律を守り、いじめ・暴言等を許さない機運を高める。「いじめ」等問題事象の早期発見・早期解消に努める。</p>	<p>○児童会活動において、児童相互の人間関係を大切にしたり取組を年間通じて実施し、目標に沿った振り返りを丁寧に仕組み、児童の姿からの価値付けができた。</p> <p>△一部の学級の荒れについて、リーダーシップを発揮した組織的な対応ができなかった。</p> <p>△いじめによる問題事象が発生し、迅速な初期対応ができず、早期解決に結び付けることができなかつた。</p>		

健康（体 育）・安全	○「毎日登校できる」学校生活リズムを整え、毎日登校し、その目標に向かって挑戦しようとする態度を培う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 網野学園「これだけは！家庭編」をもとに、各家庭やPTAとの連携を図り、生活リズムの確立を目指す。</li> <li>・ 家庭学習をやり切り、取組を充実させるとともに、目標をもって登校できるような学級経営や学校経営を行う。（授業づくりや特別活動の実施）</li> <li>・ 給食時間におけるランチルームでの全校一斉の食育指導を大切に、計画的・継続的に積み上げる。</li> <li>・ 毎朝の児童の様子及び登校の状況を把握し、該当分掌と連携した指導や取組を行うで、より安全な登下校の確保や不登校（登校しづり傾向）の早期発見を行う。</li> <li>・ 非行防止教室・薬物乱用防止教室・自転車教室等を早期に実施し、安全についての意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「安心・安全」をキーワードとして、PTAと共に活動を行うことができた。特に、保護者へのアンケートを実施することで、校区の危険箇所を共有することができた。</li> <li>○ 毎朝の児童の状況を把握し、教育相談部と連携しながら、配慮児童の家庭と定期的に面談を持ったり、毎朝の登校確認をしたりするなど、丁寧な指導を継続することができた。</li> <li>○ 給食の時間を毎日全校が場を同じにする大切な場と位置づけ、全教職員で指導に当り、配膳など当番活動をより円滑に進行したり、遅食児童が減少したりした。</li> </ul>
危機管理	コンプライアンス意識の高揚を図り、保護者、地域の信頼と期待に応える。超過勤務の縮減に努める。安全な登下校の環境づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンプライアンスハンドブック等を活用した校内研修を行う。</li> <li>・ 児童、教職員の人権を大切にした学校経営をし、日頃から教職員間で何でも話せる関係づくりに努める。</li> <li>・ PTA役員等との密接な連携を図りながら、課題解決に臨む。</li> <li>・ 超過勤務時間実態共有化と年間を通して縮減の働きかけをする。</li> <li>・ 今後の児童数減少に伴う1人下校の増加に対する下校時の安全確保を第一として、下校時刻や下校方法を見直す。</li> <li>・ 再配置による諸課題については、アンテナを高く張り、日常的に柔軟に対処し、改善し続ける。</li> <li>・ 学校や児童の様子を知ってもらうため、学校関係者については、年間を通して授業参観の機会を広報する。</li> <li>・ 学校便り、ホームページ等で、子ども達の様子について積極的な情報発信を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安全確保と超過勤務の縮減の2つの観点から、次年度からの下校時刻の変更（年間4時下校）を決定することができた。</li> <li>○ 問題事象や学校の取組状況についても、PTA会長を中心に随時提供し、PTA役員との情報共有を大切にすることができた。</li> <li>○ コンプライアンスハンドブック等を活用した校内研修、発生した問題事象については教職員間で共有し、再発防止に努めた。</li> <li>△ 教職員の超過勤務縮減の意識化</li> </ul>
開かれた 学校づくり	開校5年目。保護者、地域、関係機関との連携を大切にした学校経営をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昨年度よりHP更新は減少したが、児童のがんばりを地域に発信できた。（毎日約1,000件のアクセス）</li> <li>○ 広くなった校区で、各地区の特徴を活用した地域学習を展開できた。また、各学年において地域のゲストティーチャーを招いた学習活動を仕組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「安心・安全」をキーワードとして、PTAと共に活動を行うことができた。特に、保護者へのアンケートを実施することで、校区の危険箇所を共有することができた。</li> <li>○ 毎朝の児童の状況を把握し、教育相談部と連携しながら、配慮児童の家庭と定期的に面談を持ったり、毎朝の登校確認をしたりするなど、丁寧な指導を継続することができた。</li> <li>○ 給食の時間を毎日全校が場を同じにする大切な場と位置づけ、全教職員で指導に当り、配膳など当番活動をより円滑に進行したり、遅食児童が減少したりした。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	△ 学習内容の確実な定着を目指した授業づくり △ 「深い学び」を具現化する授業づくり △ 指導者との信頼関係に基づいた安定した学級経営の推進 △ 家庭環境の厳しい児童、不登校傾向児童、低学力児童への一層の具体的な指導 △ 働き方改革に係る学校運営の改善（教職員の意識変革）		

# 平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 (京丹後市立島津小学校)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
1	規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。	網野学園の共通指導事項を踏まえた指導を通して、授業改善・学力充実の取組を進める。	○ 外国語活動の研究推進を通して、全教職員が知恵を結集し授業実践力向上を目指す体制づくりが進んだ。 ○ 年間を通して児童も教職員も共に「合言葉」をもとにした全校体制の取組ができた。 ○ アメリカやニュージージーランドの小学生との交流ができて、英語でのコミュニケーションのイメージと学習意欲が高まった。 △ 外国語の研究を、その他の学力向上につなぐことが難しくかった。	1 外国語活動の研究を柱として教職員の指導力向上、児童の学力向上、そして学校力の向上を目指す。 2 全ての教育活動において、合言葉(短期目標)を位置付け、「島小システム」による学校運営を進める。 3 網野学園の教育目標、経営方針を基に、小中一貫教育を生かした連携を進める。(学力、生徒指導) 4 生徒指導・教育相談の組織的な対応力・指導力を高め、いじめ・不登校の未然防止に努める。 5 勤務時間縮減に努める。	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
2	すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。	「これだけは！」を日常的に実践し、三者会及び企画委員会による評価を返し改善を目指す。	△ 「これだけは！」に沿って授業づくりや学習規律についての改善を図ったが、全体でやりきるところには至らなかった。 ○ 家庭への本の持ち帰りを工夫し、読書の取組も充実した。チャレンジタイムの取組も時間帯を改善し、全校の取組として充実することができた。 ○ 家庭学習が元々週間は、取組として定着し、学年にあった学習時間の意識が100%の学年が3学年あった。		
3	思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。	朝読書、チャレンジタイムへの評価・改善により、ねらいを明確にした時間として充実させる。	○ 生指部を中心に組織的な対応が迅速に行えたので、いじめや問題事象の早期解決・未然防止につながった。日々トラブルはあるが、欠席0の日が年間100日をはるかに超えることができた。 ○ 全校の場での教師の評価の視点が一致しており、児童の自己肯定感を高めながら、善悪の判断等の価値を育てる指導ができた。 ○ 2カ月サイクルで示した「合言葉」は、児童に目指す方向性がわかりやすく、取組の活性化につながった。 ○ 児童会活動でも生徒指導の3機能をふまえた指導が日々積み上げられ、児童の変容が見られた。		
4	自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	網野学園の取組と連携し、学力向上プログラムを基にした取組を進める。	○ 生指部の3機能を学校の教育活動全体に生かし、主体的に判断し行動する児童の育成に努め、いじめのない学校を目指す。 ○ 学期毎に内部評価アンケートを実施し、指導の検証をして改善に活かす。 ○ 全ての計画に、短期目標「合言葉」を実践する内容を意図的に取り入れる。 ○ 生徒指導部を中心とする、問題事象の早期発見・早期解決を組織的に行う仕組みを定着させる。 ○ 児童会活動を通して異年齢活動やチームの活動を活発にする。		
生徒指導	網野学園「これだけは！」の規範意識の醸成を、日常の中で実践する。 ・「島小システム」を機能させ、目標に向けて意欲的に活動する児童を育成する。 ・生徒指導の3機能を生かし、いじめ防止の取組を行う。 ・心の教育を充実し、自己肯定感を高める取組を進める。	網野学園推進会議の提案をもとに「これだけは！」を、全校でやりきっていく。 ・「これだけは！」を日常的に実践し、三者会及び企画委員会による評価を返し改善を目指す。 ・朝読書、チャレンジタイムへの評価・改善により、ねらいを明確にした時間として充実させる。 ・網野学園と連動して、家庭学習が元々週間は、効果を高める。(PTAとの連携事業)	△ 「これだけは！」に沿って授業づくりや学習規律についての改善を図ったが、全体でやりきるところには至らなかった。 ○ 家庭への本の持ち帰りを工夫し、読書の取組も充実した。チャレンジタイムの取組も時間帯を改善し、全校の取組として充実することができた。 ○ 家庭学習が元々週間は、取組として定着し、学年にあった学習時間の意識が100%の学年が3学年あった。		
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として					

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 網野学園家庭編に基づき、PTAに働きかけ、家庭と連携した取組を進める。</li> <li>・ 朝の体力づくりの更なる充実を目指し、意欲を高める取組を進める。</li> <li>・ 日々の生活・活動をj通して「安全」を考えさせ、実践させる場面を作る。</li> <li>・ 実態に合わせた指導を工夫し、食に関する学習意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 網野学園「これだけは(家庭編)」に基づき、PTAに働きかけ、家庭と連携した取組を進める。</li> <li>・ 朝の体力づくりの更なる充実を目指し、意欲を高める取組を進める。</li> <li>・ 日々の生活・活動をj通して「安全」を考えさせ、実践させる場面を作る。</li> <li>・ 実態に合わせた指導を工夫し、食に関する学習意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭学習がjんばり週間の取組を通して、基本的な生活習慣への意識が高まった。</li> <li>○ 朝の体力づくりは見通しをもたせ計画的に行うことで、児童が個々の目標に向かって意欲的に取り組んだ。</li> <li>△ 校内での安全な生活は指導が続けているが、廊下歩行など徹底できない課題がある。</li> <li>○ 市給食研において、本校の給食の係わる取組について発信することができた。</li> </ul>
特色ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国語活動指導力の向上を図る。</li> <li>・ 豊かな体験を基にした国際理解教育実践を推進する。</li> <li>・ 「琴引き浜」をテーマとして、積極的に地域に学習の成果を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「外国語活動」の授業を通して、コミュニケーション力が高める。また、その力を他教科に生かし、自分の考えを活発に出し合い主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを目指す。</li> <li>・ 2年次の研究協議会を通して研究推進の成果と課題を整理し、3年次の発表会につなぐ。</li> <li>・ マンチエスター・メモリアル小学校との交流を年間計画に位置付けて、異文化体験を計画的に豊かにする。</li> <li>・ 「琴引き浜」学習を通して、地域の方々に「教えていただく」、「発信する」機会を積極的に設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員が英語を学ぶ研修の機会を校内で設定し、担任がClassroom Englishを使って授業をした。教員が英語を話すモデルとなり、相腿や積極的にコミュニケーションを図ることの大切さを2年次の研究協議会で発信することができた。</li> <li>○ イングレッシュ小学校とライブ交流が実現し、学んだ英語を実際に生かせる体験ができた。</li> <li>○ 児童は、生活科の校区探検や丹後学等で、「琴引浜」や地域の自然に対して関心をもち学習を行うことができた。英語パージョンの歌を通して、発信ができた。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援を必要としている児童に対して、組織的な取組を進めるとともに、児童理解の力量を高める。</li> <li>・ 就学指導の充実を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別に配慮の必要な児童に対して、ケース会議を設置し組織的な対応をする。</li> <li>・ 外部の専門機関と連携し、特性についての知見を広げたり、特別支援教育指導員の効果的な活用による指導・支援を行ったりして、一人一人の自立を目指した取組を進める。</li> <li>・ 該当保護者に特性に応じた支援についての理解を基盤とした修学指導を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外部の医療機関やSC・SSWと連携した継続的な取組を丁寧に進めた。</li> <li>○ 個別の支援計画・個別の指導計画を作成し、配慮の必要な児童への具体的な指導・支援を行い、一人一人の自立を目指した取組が進んできた。</li> <li>△ 次年度さらに取組を継続し、効果的な指導・支援につなぐ。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 府小研「外国語活動」研究指定を軸として、全ての教職員が協働的に授業研究を行い、さらに主体的・対話的で深い学びのある授業を追究する。</li> <li>② 外国語活動で児童に付けたたい力を国語科の「話す・聞く」とリンクさせながら言語の力として授業実践を積み上げる。また、身に付けたコミュニケーション力や意欲を他教科にも生かし、学力の向上を目指す。</li> <li>③ 網野中学校との連携をもとにした授業の視点もさらに充実させ、網野学園としての取組を進める。また、保育所（園）・こども園との連携も丁寧に進め、学習指導や配慮を要する児童への支援の充実につなぐ。</li> <li>④ 特別支援学級を中心に置きながら、外部の専門機関との連携も図り、組織的・計画的な進行管理のもと教育的ニーズに応じた支援を適切に行う。</li> <li>⑤ 生徒指導・教育相談の組織的な対応力・指導力を高め、いじめ・不登校の未然防止に努める。</li> </ul>		

# 平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立橋小学校]

<p>学校経営方針(中期経営目標)</p> <p>【教育目標】 「将来に夢と希望を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子ども 【知】意欲的に学習に取り組む子ども 【徳】規範意識を持ち、仲間と支え合う子どもの 【体】のびのび生き生きと支え合う子ども 【心】粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども 【毎日】元気に登校したくなる学校」を目指す。</p>	<p>前年度の成果と課題</p> <p>○ 網野学園小中一貫教育：「これだけは！」で付けた力を意識し、授業づくり、生活習慣の確立、家庭への働きかけ等、教育活動全般に波及させ、課題解決の取組を推進することができた。 ○ 学習指導では、研究推進部、学力充実部の方針に沿って全学年ともに授業での言語力育成、ドリル時間等を活用した計算力、語彙力、漢字力等の定着を図ることができた。 ○ 特別活動部、生徒指導部等が、児童会活動の充実、月目標の取組などを進め、全校児童の絆が深まり規範意識の向上を図ることができた。 △ 日常的に隣接学年で教材研究等を行い授業力向上に努める。 △ 要配慮児童等への対応について共通理解を図る。</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>「たばばな大作戦100」子どもたちの「元氣と笑顔があふれ、様々なことに挑戦する」姿を目指して ○ 楽しい学校にしよう! ○ 毎日元氣に登校したくなる学校づくりをする。 ○ 智慧をみがこう! ○ 一人一人の個性・よさ・可能性を伸ばすことで意欲的に学ぶ、将来に夢と希望のもてる児童を育てる。 ○ 自分の考えをもち主体的に取り組みむ力を養う。 ○ 豊かな人間関係を築き、学び合い、励まし合い、支え合う。 ○ 何でも最後までやりぬこう! ○ 何事も最後まであきらめず粘り強い心を持って育てる。</p>
<p>評価項目</p> <p>教育課程 学習指導</p>	<p>具体的方策</p> <p>◇ 学習意欲を高める工夫を行い交流し学び合う。 ◇ 算教科を重点教科とした研究を推進し、主体的・対話的で深い学びの具現化に向けて、授業改善を行う。 ◇ 先行実施となった「外国語活動」「外国語」について、効果的に授業できるように実践研修を実施する。 ◇ 特別の教科道徳となり、「考える、議論する」道徳の時間を全担任が指導・評価できるように早期に研修を実施するとともに継続的に取組のチェックを行う。 ◇ 担任とSSが連携し効果的な指導を行い、特別支援学級、1・4年生の学力的な学習の時間を活用し、校区の魅力を生かす。また、発信できる力を付ける。 ◇ 教育活動全般に生徒指導の三機能の視点を大切にする。 ◇ 道徳教育、人権学習の充実を図り、豊かな人間性を培う。また、法やルールに関する教育の視点も取り入れ、話し合い活動を深める中、自分の考えをもち伝える力を培う。 ◇ 学級活動、異年齢活動、児童会活動の充実を図り、豊かなつながりを通して互いが認め合うことができる温かいものを見方、捉え方ができるようにする。 ◇ 教育相談部会、生徒指導部会の機能化を図り、いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期解消を行う。</p>	<p>成果と課題(自己評価)</p> <p>○ 6月に網野学園小中一貫教育授業研究会を開催し、網野学園4小学校各校で、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し研究を深め、授業改善が進んだ。 ○ △特別の教科道徳となり、「考える、議論する」道徳の時間を指導・評価できるように研修も行ったが、今年度の実績を踏まえ、確かな指導・評価にする必要がある。 ○ △担任とSS、教頭・教務主任が連携し効果的な指導を行うことで、授業規律を確立するとともに、学習意欲を高めることができた。 ○ 生活科、総合的な学習の時間を活用し、校区の魅力を調べ、発信できる力を付けることができた。 ○ 生徒指導の三機能(自己存在感・自己有用感、共感的人間関係・自己決定の場)の視点を大切に、授業づくりや異年齢活動を充実させることができた。 ○ △日々の道徳教育や人権学習等の取組を通して、温かいもの見方、違いを認め合える関係づくりに努めたが、異年齢活動の場ではよい判断がみられるが、いつでもどこでも正しい判断をして実践する力を高めなくてはいけない必要がある。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>重点目標</p> <p>1 一人一人の個性・よさ・可能性を伸ばすこと に学び、将来に夢と希望のもてる児童を育てる。 2 主体的・対話的で深い学びの具現化を目指し、学級づくりと授業づくりを連動させ、言語活動を充実させる。</p>	<p>重点目標</p> <p>1 豊かな人間関係を築き、学び合い、励まし合い、支え合う。</p>

健康（体 育）・安全	1 何事も最後まであきらめず、にやり通す粘り強い心を育てる。	<p>◇生徒指導部と特別活動部が連携し、全学年が具体的な取組を行い生活の向上を目指す。</p> <p>◇朝の体力づくりの取組などを通して、児童が目標達成に向けて最後まで粘り強く取り組む力を付ける。</p> <p>◇生活習慣の乱れから、学習意欲が減退しがちな児童に対して、養護教諭、担任を中心にきめ細やかな指導・支援、及び家庭との連携を進めることで改善する。</p> <p>◇6年生を中心にチャレンジ配りや看板作り、全学年の交通安全教室などに取り組み、無事故を目指す。</p>	<p>○月目標を設定し、各学級で具体的な動きをすることで、自ら学校生活を高めていこうという機運が高まった。</p> <p>○△ゲームの楽しさで約束を守れず、生活習慣の乱れのある児童に対して家庭と連携を深めるとともに、保健指導等でブルーライト・ゲーム脳等についての学習を行った。今後も繰り返し指導することが肝要である。</p> <p>△自転車の正しい乗り方について、繰り返し指導を行い交通安全に対する実践力を高めたい。校内でも危機管理意識を高め、怪我を減少させたい。</p>
研修（資質 向上の取 組）	<p>1 学校課題を踏まえた研修テーママを意識した研修を行うことで、課題克服を目指す。</p> <p>2 個々の教職員が自己課題を踏まえた研修テーマを設定し、日々学び合い、指導力を高める。</p>	<p>◇新学習指導要領移行期として、全教職員が趣旨を十分理解し、学び合えるように研修を設定する。</p> <p>◇算数科を重点教科としての研究初年度ではあるが、小中一貫教育授業研究会には、一定研究の方向性と昨年度までの「これだけは！授業編」の実践について発信する。</p> <p>◇教職員の得意分野の研修が深まる機会を大切にするとともに、校内研修で外部の研修で学んだことを全体に広め、国、府、市の教育改革及び新学習指導要領の趣旨を踏まえた具体的実践について学び合う。</p>	<p>○センター講座、市小研等学びの場を大切にし、伝達講習を行うことで学んできたことを広めることができた。</p> <p>○6月の京丹後市小中一貫教育授業研究会にて6年生の授業研究を行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して、ねらいの明確化、ペア、グループ等での対話からの学び等について研究を進めることができた。</p>
特別支援 教育	<p>1 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教育環境の充実に努める。</p> <p>2 個々のニーズに応じた適切な支援を組織的に行う。</p>	<p>◇すべての教育活動の中で、ユニバーサルデザインの視点を大切にするとともに教育環境を充実し、誰もが「わかる」「できる」指導・支援ができるように研修をする。</p> <p>◇特別支援学級在籍児童及び通常学級在籍児童の内、配慮を要する児童の個別の教育的ニーズに対応できるよう、教職員が配慮の必要な児童について共通理解をした上で、教育相談・生徒指導・特別支援教育各部が連携し個別の支援を組織的に進める。また、SC、SSWの活用、関係諸機関との連携を進める。</p>	<p>○教育活動全般に誰もが「わかる」「できる」指導・支援ができるように取組を進めた。特に、1年生の入学時にリハサルを行ったり、SSの活用を図ったりすることで、授業規律の確立を図るとともに学習意欲を高めることができた。</p> <p>△特別支援学級はもちろんだが、通常学級に在籍する配慮を要する児童への対応についてさらに研修を進める必要がある。</p>
次年度に 向けた改 善の方向 性	<p>次年度も「学力の充実・向上」が最重要課題、その具現化のための「特別支援教育の充実」（ユニバーサルデザイン授業、合理的配慮）をチーム橋小で推進する。また、給食・食育等も絡めた生活面での課題に迫り、学習に向かう力、人間性の涵養も進めたい。担任を中心とした授業改善・指導力向上に加え、SSの活用をすることできめ細やかな児童の状況を見立て、担任が個別の教育的ニーズに応じた効果的な指導を行う。さらに、SC、SSW、学校支援ボランティア等の外部人材を活用し、専門性から学び効果的な指導・支援を行い、一人一人が主体的に学び、豊かで良好な関係を築き、笑顔あふれる楽しい学校づくりをする。</p> <p>今年度弱さを感じた力</p> <p>① 読み取る力（国語の読み取り、問題文の意味理解等の力）</p> <p>② 深く考ええる力（生活・学習面共に思考力）</p> <p>③ コミュニケーション力（相手の気持ちを感じながら、自分の気持ちや考えを伝える力）</p>	<p>【焦点化・共有化】</p>	<p>※ユニバーサルデザインの視点</p>

# 平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立豊栄小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>○学校教育目標 『夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成』 ○めざす児童像 (1) ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子 (知) (2) 自分を大切にし、人を思いやれる子 (徳) (3) ねばり強く身体をきたえる子 (体) ○めざす学校像 (1) 仲良く関わり合い、心やかからだをきたえ、学び意欲にあふれる楽しい学校 (2) 地域の自然や文化の良さを知り学び、児童・地域・保護者から信頼させる学校</p>	<p>・不登校児童や配慮を要する児童への組織的な対応すること で改善に向かうことができた。 ・家庭学習への意欲付けが「家庭学習がんびり週間」を設定することにより有効に作用した。生活リズムづくりへの協力依頼をさらに進める。 ・学校便りや学級通信だけでなく、ホームページの更新をすることで行った情報発信ができた。 ・コミュニケーション能力の育成に向けた研修を実施し、「長文を読む・考えをまとめて書く・人の話を聞く」力をさらに伸ばす。</p>	<p>(1) 居心地のよい学校 安心と安定のある学級経営の充実 望ましい人間関係を築く力の育成 (2) 学力向上を図る学校 基礎基本の定着、思考・表現・判断力(活用)を充実させる学習活動の推進 (3) 家庭・地域にひらかれ、信頼ある学校 家庭や地域と協働する学校づくりの推進</p>	<p>成果と課題(自己評価)</p> <p>○少人数校であり学校の強みを生かして一人一人丁寧に関わり、指導を進めることができた。 ○4年生と5年生の放課後の補習には、外部人材を活用しながら取り組むことができた。 ○家庭学習がんびり週間の設定やノート展の取組で学習に対する意識を高めることができた。 △研究推進からの提起による授業研をもつことができたが、コミュニケーション能力の育成を意識した日常的な実践に引き続き心がける必要がある。</p> <p>○大きなトラブルや事象の発生がなく、落ち着いた生活を送ることができた。どの学級も担任と子ども達との良好な関係を築くことができた。 ○学校生活の中で、とげとげしい言葉遣いが聞かれず、お互いを認め合える人間関係を築くことができた。 △廊下歩行やあいさつの取組、トイレのスリッパ揃え等、概ねできてはいるが、やり切れたという実感は薄い。 △引き続き、いじめや暴力がない学校を維持できるように一人一人を丁寧にみて、細かなところにも目を配ることができるよう心がける。</p>		
<p>○学校教育目標 『夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成』 ○めざす児童像 (1) ことばで伝え合い、主体的に学ぶ子 (知) (2) 自分を大切にし、人を思いやれる子 (徳) (3) ねばり強く身体をきたえる子 (体) ○めざす学校像 (1) 仲良く関わり合い、心やかからだをきたえ、学び意欲にあふれる楽しい学校 (2) 地域の自然や文化の良さを知り学び、児童・地域・保護者から信頼させる学校</p>	<p>・児童の学力実態の把握と分析に基づき、課題を明確にした学習活動の充実を図る。 ・研究推進部、学力充実部からの提起を受け、コミュニケーション力の育成に向けた指導の充実を目指した授業に取り組む。 ・学習規律(ベル着、ベル準)の定着に向けて取り組む。 ・図書館教育の取組を充実させ、読書活動の推進による言語に着目した取組を進める。 ・家庭との連携を密にし、学習習慣及び生活習慣の確立に向けて取り組む。</p>	<p>具 体 的 方 策</p>	<p>・生徒指導の三機能(自己存在感・共感的な人間関係・自己決定力の場)を活かした学級経営の推進により、深い信頼関係に基づき人間関係を育成する。 ・日々の肯定的評価の積み上げにより、お互いの良さを認め合い、日常的な状況の把握し、いじめや暴力、不登校の未然防止や改善に努める。 ・個に応じたきめ細かな指導により、基礎・基本の確実な定着を図る。</p>		
<p>教育課程 学習指導</p>	<p>児童一人一人に基礎・基本や表現力、学習意欲などの「質の高い学力」を身に付けさせる。</p>	<p>児童一人一人に基礎・基本や表現力、学習意欲などの「質の高い学力」を身に付けさせる。</p>	<p>○大きなトラブルや事象の発生がなく、落ち着いた生活を送ることができた。どの学級も担任と子ども達との良好な関係を築くことができた。 ○学校生活の中で、とげとげしい言葉遣いが聞かれず、お互いを認め合える人間関係を築くことができた。 △廊下歩行やあいさつの取組、トイレのスリッパ揃え等、概ねできてはいるが、やり切れたという実感は薄い。 △引き続き、いじめや暴力がない学校を維持できるように一人一人を丁寧にみて、細かなところにも目を配ることができるよう心がける。</p>		
<p>生徒指導</p>	<p>安心と安定のある学級経営の充実を図る。 いじめを許さないこと、ちろん、見過ごさない、タイムリーな指導を行う。</p>	<p>安心と安定のある学級経営の充実を図る。 いじめを許さないこと、ちろん、見過ごさない、タイムリーな指導を行う。</p>	<p>○大きなトラブルや事象の発生がなく、落ち着いた生活を送ることができた。どの学級も担任と子ども達との良好な関係を築くことができた。 ○学校生活の中で、とげとげしい言葉遣いが聞かれず、お互いを認め合える人間関係を築くことができた。 △廊下歩行やあいさつの取組、トイレのスリッパ揃え等、概ねできてはいるが、やり切れたという実感は薄い。 △引き続き、いじめや暴力がない学校を維持できるように一人一人を丁寧にみて、細かなところにも目を配ることができるよう心がける。</p>		

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基礎として

健康（体 育）・安全	元気で規則正しい生活ができ、健康で安全な生活を送ることができ、児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との日常的な連携を大切にし、基本的な生活習慣の確立や家庭での学習習慣の定着に向け、共に学び合う機会や情報の提供に努める。</li> <li>・基本的な生活習慣の確立に向けた取組を、家庭と連携しながら進める。</li> <li>・児童の欠席があった場合、理由の確認と担任からの働きかけを確実に、連続欠席とならないようにする。全児童の登校の日数が多くなるよう、いろいろな機会を通じて児童にも保護者にも呼び掛ける。</li> <li>・登下校の安全に対して地域ボランティアの方々や連携した取組を進める。（毎月の登校指導等）</li> </ul>	<p>○年間を通して欠席や怪我をする児童は少なかつた</p> <p>△下校後、保護者が引率して受診するというケースがあった。事象の把握と丁寧な保護者連絡が必要である。</p> <p>△登下校時の歩き方について、交通安全に注意しながら一列になって歩くことを指導していく。</p> <p>△下校後や休日の自転車の乗り方、ヘルメットの着用について、実態把握をもとにした指導が必要である。</p> <p>△基本的生活習慣の確立に向け、引き続きゲームやインターネットの利用状況の実態把握から不規則な生活が続かないよう、自己でコントロールできる力を身につけさせていきたい。</p>
開かれた 学校 づくり	学校の情報を積極的に発信し、教育活動の向上と信頼される学校づくりにつなげる。本年度で閉校することを認識し、来年度の新しい学校へのスムーズな移行を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動の積極的な公開を推進し、学校・家庭・地域社会の相互理解による開かれた学校づくりの一層の推進を図る。（学校・学級だよりの定期的な発行、授業参観等の機会の充実、ホームページの定期的な更新等）</li> <li>・学校評議員制度、学校関係者評価等を有効に活用し学校改善を図る。</li> <li>・地域人材や学校支援ボランティアを積極的に活用することで、学校外とのつながりを広げ、教育活動を豊かなものにしていく。</li> <li>・再配置をふまえ、児童が活動している様子を地域に発信するとともに、参観等呼びかけ。（学習発表会、授業参観、なわとび大会等）</li> </ul>	<p>○学級通信、学校だよりの発行、ホームページの更新により、学校全体の動きについて地域や保護者に発信することができた。</p> <p>○地域の方との連携による読み聞かせや地域学習を通して学校に足を運んでいただけの機会を設けることができ、教育活動を豊かなものにする事ができた。</p> <p>○閉校を意識し、学校行事への参観呼びかけを地域全体に行い、多くの参観者があった。</p> <p>△今後も子ども達の様子、教職員の様子、学校の様子について知っていただく機会となるよう参観の機会を有効に活用して信頼される学校づくりを目指していきたい。</p>
特別支 援 教育	配慮を要する児童を中心に全ての児童に対して合理的な配慮に心がけ、適切な支援ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級在籍児童にとどまらず、各学級に在籍する配慮を必要とする児童への支援の在り方について研修を深める。</li> <li>・ユニバーサルデザインを取り入れた学級経営に取り組む。</li> </ul>	<p>○1時間の流れを授業の初めに示すなどユニバーサルデザインを踏まえて指導が定着してきている。</p> <p>○配慮を要する児童に対しての基礎資料づくり（アセスメント票、個別の指導計画、教育支援計画等）を次年度を見通して整備することができた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度で閉校することにより、学校として次年度への向けての改善の方向性はないが、豊栄小学校で培ってきた良さを新しい学校で継続できるようにしていきたい。とりわけ、気持ちのよいあいさつ、穏やかな人間関係、素直に聞く姿勢については継続できるようにしていきたい。</li> <li>・集団が大きくなることで、自分の考えを積極的に発信する力を中心にコミュニケーション力の向上については、学習場面を中心にあらゆる学</li> </ul>		

## 平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立間人小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>教育目標 (丹後学園共通) 「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」 ＜目指す学校像＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 よく考え学ぶ学校</li> <li>2 友だちと仲良くする学校</li> <li>3 最後まで粘り強く努力する学校</li> <li>4 家庭・地域のつながりを生かした学校</li> </ol>	<p>基礎基本を定着させる学習を、全校チャレンジとして取り組むことができた。 ○異年齢活動をおおとして、高学年はリーダーとしての意識が高まり、低学年へ配慮ができるようになった。 △学力向上を目指して、少人数指導や個別指導に取り組んだが、学習の定着に課題が残った。 △集団生活での心得や思いやりの育成は、低学年から徹底する必要がある。</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業研究を中心に、ねらいが明確でわかりやすい(主体的・対話的で深い学びのある)授業を進める。</li> <li>2 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。</li> <li>3 困難なことにもねばり強く挑戦していきこうとする態度を育てる。</li> <li>4 P T A・地域関係機関、保育所・中学校等との取組により連携を強化する。(小中一貫教育を含む)</li> </ol>		
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	
<p>教育課程 学習指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の指導構想をもとに、単元を通してどんな力をつけたいのか、何をどこまで、できるようにするのかを明らかにする。</li> <li>・「学び合い」を通して、児童にどんな考えを出させ、「わかる」「できる」を実感させる発問づくり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進部が中心となって算数を研究の柱とし、ねらいが明確で児童がわかりやすい(主体的・対話的で深い学びの実現に向けた具体的な手立てがある)授業を研究授業や積極的な授業公開によって学び合う。</li> <li>・丹後学園の研究主題である「子どものコミュニケーション能力を育成する」と併せて、本校の授業における「学び合い」の充実を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新学習指導要領の趣旨を踏まえ「主体的・対話的で深い学び」のイメージを出し合い、共有化を図り、丹後学園の話し合い活動の系統性を意識して授業実践を進めることができた。</li> <li>○図を活用したり、単元を通して算数的活動を入れたり、学習の跡の掲示物を活用したりすることで、児童の思考過程に即した授業展開を意識することができた。</li> </ul>	
<p>生徒指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の3機能を踏まえた、就学前から中学校まで一貫した生徒指導を進める。</li> <li>・いじめ、不登校の未然防止及び解消にむけた教育相談活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後学園の生活のきまを守り、教師が児童の良さをまいた児童同士がお互いの良さを学級活動や多様な異年齢集団での活動の中で、計画的に伝えることで自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。</li> <li>・生徒指導の3機能を生かした指導のもとに、教育相談部を中心に面談の実施を行うとともに情報共有し、組織的な対応を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○異年齢の活動として取り組んでいる清掃活動において、掃除で輝いた「掃除スパースター」の朝会での発表や、頑張っている児童をホワイトボードで毎日掲示をして、児童の清掃活動への意識を変えることができた。</li> <li>○定期的な個人面談やいじめアンケートによる面談等を担任と担任外の複数体制で取り組み丁寧に対応することで、不登校児童の出現を抑えることができています。</li> </ul>	

健康（体 育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導を行い、学校を休まない強い体をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全年体育の時間にサーキットトレニングを継続して行う。</li> <li>・日常の健康観察、起床時間、朝食、就寝時間等の点検などの取組を行う。</li> <li>・睡眠の大切さについて、学校だよりなどで啓発していく。</li> </ul>	<p>○サーキットトレニングをすることで、様々な基本的な動きを経験し、動きを質的に高めていくことを継続して取り組むことができた。</p> <p>△よりよい生活習慣を身につける意識づけにはまだ至っていない。</p>
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの安全（生活・交通・災害）</li> <li>※安心安全な学校生活ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援ボランティアとの連携により安全な登校につなげる。</li> <li>・登下校のみならず、校外のきまわりを守り交通安全を含め安全指導の徹底を図る。</li> <li>・校内の危険箇所点検を行い、適宜、修繕などをすることとで教育環境を整える。</li> </ul>	<p>○学校支援ボランティアとの連携により登校については一列で安全な登校ができた。</p> <p>○通学路に危険な空き家があったが、地域の方々の努力で取り壊していただき安全を確保することができた。</p> <p>△下校については、来年度は一斉下校を行い改善していく予定である。</p>
開かれた 学校づく り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧で分かりやすい情報発信を行う。</li> <li>・PTA・地域の関係諸機関等と連携した取組を強化する。</li> <li>・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子を積極的に発信する。</li> <li>・PTAをはじめ関係諸機関等との連絡を密に取り、協力を得る。</li> <li>・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的活用を図り、教育活動の活性化と充実を図る。</li> <li>・読み聞かせボランティアにより、読書への興味を高め本好きな児童を増やす。</li> </ul>	<p>○丹後地域公民館と協力して、間人小学校を会場として高齢者大学や丹後町少年少女意見発表会の開催に協力することで、保護者・地域に広く子どもの活動を発信することができた。</p> <p>○1/2成人式では、地域のボランティアの方々の協力を得て、全員が丹後ちりめんの着物を着て保護者の方への感謝の気持ちと決意を発表することができた。</p>
次年度に向けた 改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の理念である地域に開かれた特色ある学校を目指し、児童・保護者・地域の人達にとっても来年度できる丹後小学校ができてよかったと思えるように、児童同士のつながりを大切にしたり行事や取組を準備していきたい。</li> <li>・少人数である豊栄小学校の児童に配慮をしながら、二つの学校がお互いのよさを生かしていく。</li> <li>・不登校問題の解決を目指す。</li> </ul>		

平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立宇川小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>「夢と希望と創造性あふれる豊かな心をもち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来を展望し、未来を拓くために充実した学校生活を送る学校【児童】</li> <li>・目指す子ども像を基に、全教職員が連携を図り、責任を持つ学校【教職員】</li> <li>・保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】</li> </ul>		<p>前年度の成果と課題</p> <p>○研究活動により教育活動全体での話し合い活動が充実し児童の伝え合おうとする意識は高まってきた。また家庭の協力により、家庭学習の習慣化が図られてきた。</p> <p>△学力向上を図る取組は充実したが、学力の定着と伸長は課題である。</p> <p>○生活目標を立て課題解決の取組と振り返りで、安定した学校生活を送ることができた。</p> <p>△地域と連携した学習を全ての学年で実施し、充実させることが課題である。</p>		<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>(1) 目指す児童像の実現にむけて、知・徳・体の3視点に対応する組織が機能を発揮して教育活動への具体化を図る。</p> <p>(2) 小中一貫教育と本校の研究を連動し、児童のコミュニケーション能力や主体性の育成、授業改善による学力向上を図る。</p> <p>(3) へき地・小規模校の特性を踏まえ、地域との連携を強め、宇川の地を学び、将来を考える教育活動を充実させる。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	<p>1 分かる授業、主体的に伝え合い、学び合う授業を研究と絡め、学力向上を図る。</p> <p>2 個に応じた指導や家庭学習の習慣化を進め、基礎・基本の定着を図る。</p>	<p>1 ねらいを明確にA層C層の児童へ具体的な手立てを持った授業を行う。全学級で研究授業を行い、児童の主体性や伝え合う力の研究を進め、授業改善を行う。</p> <p>2 児童の学力課題を分析し、学力カルテを基に個に応じた回復指導を実施する。またドリルタイムや家庭学習等、継続と強化期間の設定、全校一斉の取組を展開する。</p>	<p>○研究を通して教師の指導や意識も高まり、授業での児童の発表や話し合い活動も活発になった。児童アンケートで92%が「授業が分かる」と答えている。</p> <p>△C層への一層の手立てや全員が分かる授業、思考力・表現力を高める授業を更に目指す。</p> <p>△学力分析と個別の回復指導方針を立て、全校的な補習や取組を実施したが学力向上は課題である。家庭学習では、保護者アンケートで「自分から取り組む」と答えた回答は8割なかった。家庭と連携し、一層学習慣化させ、習熟・定着を図る必要がある。</p>		
生徒指導	<p>1 児童自らが課題解決する実践力を身に付け、達成感や自己肯定感を高める。</p> <p>2 人権意識・規範意識の高揚を図り、いじめのない安定した学校生活を送らせる。</p>	<p>1 目標設定と具体化を児童が考え実践し、達成させる指導を行う。その中で振り返りや互いの良さを認め合い伝え合う場を設定する。</p> <p>2 道徳の時間や人権月間を中心に思いやりや人権意識を高める取組、日常的な指導と併せていじめアンケートを実施し、児童の実態を把握しながら、年間を通じて計画的な指導を行う。</p> <p>3 生徒指導部と特別活動部が連携した月目標を設定し、児童の規範意識・実践力を高める。</p>	<p>○生活目標、学級目標を決め、課題解決の実践と振り返り、互いに評価し合うことや人権月間だけでなく日常的に思いやりや心の育てることで、児童アンケート「友達の良いところを見つけている」「仲良く」「協力」「言葉遣い」等、高評価の結果だった。</p> <p>△特定の児童の自己肯定感は依然低く、自分の思いを伝えることができない児童も多い。</p> <p>○いじめアンケートの分析と指導、非行防止教室等、早期発見と未然防止による指導に努め、概ね安定した学校生活だった。更に規範意識を高めていきたい。</p>		

健康（体 育）・安全	<p>1 体力の向上と健康な生活に向けた実践力を育成する。</p> <p>2 児童に安全な生活や命を守るための知識や判断力、行動力を育成する。</p> <p>3 粘り強く挑戦する態度を養う。</p>	<p>1 全校の体力づくりや行事・体育の授業・異年齢活動を連動させた取組、家庭と連携した「元気貯金」等の取組を計画的に行い、体力向上と基本的な生活習慣を確立させる。</p> <p>2 安全に関わる行事や学級指導、外部講師による学習等安全に関する意識と実践力を高める指導をする。</p> <p>3 粘り強く挑戦し、継続するための手立てや指導を体育・道徳・学級指導等で行う。</p>	<p>○年間通して全校の朝マラソン、縄跳び、アクティビタイム等、児童の創意工夫と意欲的な取組ができ体力向上や対外的な陸上競技でのよい成績に繋がった。ただ2極化も見られるのは課題である。</p> <p>△年数回の「元気貯金」や課題である「早寝早起き」に特化した生活点検を実施したが、なかなか改善が見られない児童もあり、家庭の協力が課題である。</p> <p>△避難訓練、交通安全指導等、外部講師も交え、多くの機会に安全指導したが、日常の行動の中では危険な行動もある。更に危険予知、実践化を図りたい。</p>
特別支援 教育	<p>1 教育的ニーズや個の特性に応じた指導・支援を計画的・組織的に行う。</p> <p>2 障害児者理解教育を進める。</p>	<p>1 サポート委員会（特別支援教育部・教育相談）を中心に個別の支援計画・指導計画の下、保護者や関係機関とも連携し、定期的な懇談を持ちながら指導を進める。</p> <p>2 特別支援学級と交流学級との学習や交流の機会を増やす。また地域の障害のある児童・障害者との交流の場を設定する。</p>	<p>○個別の指導計画に基づき指導と成果・課題をサポート委員会で評価し、手立てを検討して進めた。</p> <p>○関係諸機関との連携や助言を得ることができ、十分ではないが校内の支援体制の充実も図った。</p> <p>△保護者との面談をもち連携を図ったが、就学指導に向けてはより丁寧に進める必要がある。</p> <p>△交流学級と合同での授業は多くできたが、登校の少ない児童と全校の交流は更に進めていきたい。</p>
特色ある 学校 づくり	<p>1 へき地・小規模校及び地域の特性を生かし、児童の活躍と主体的な学びがある教育活動を進める。</p> <p>2 積極的な情報発信や学校公開を進める。</p>	<p>1 伝え合うことを中心課題に据え、全校や異年齢の中や学園の園児・児童・生徒、地域の方等、多様な場で様々な人と関わり、コミュニケーションを図る教育活動を全ての学年で行う。</p> <p>2 生活科や総合的な学習の時間等で、家庭や地域と連携し、地域素材を生かした探究学習を充実する。</p> <p>3 他のへき地・小規模校教育研究会と共に研究を進め、全国へき研分科会では、本校の研究成果を広く発信する。</p>	<p>○コミュニケーションタイムや新たな出前スピーチ、話し合い活動の定着と多くの人と関わる活動の充実で、児童は誰とでも物おしせず話す力が高まった。</p> <p>△話を聞く態度や相手に応じてその場で考えて話す力、自分の気持ちを素直に表現する力は課題である。</p> <p>○地域の人の話やインタビュー、体験活動を通して地域学習を深め、地域の良さや課題解決について考え、学習発表会や様々な方法で発信できた。</p> <p>○全へき研では、児童の主体性や伝える力を高める本校の取組や研究を発表する場とともに、感想や意見を聞き、本校職員自信や学びにも繋がった。</p>
次年度に向け た改善の方向 性	<p>・今年度力を付けてきたコミュニケーション力を土台に誰とでも豊かに関わる活動や児童主体の活動を充実させ、自他を大切にすることを自己肯定感を更に高める教育活動を行う。また、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力を身に付ける授業改善、家庭と連携した家庭学習、個に応じた指導等、様々な取組を計画的に行い、学力の向上を目指す。</p> <p>・安全意識や規範意識の向上、体力づくり等、粘り強く最後まで取り組み、実践できる指導を充実させる。</p> <p>・小中一貫教育との連動、地域との連携した取組を充実させ、宇川への愛着の心を育む教育を推進する。</p>		

平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立吉野小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を基に主体的・対話的で深い学びの授業改善を通し、学力向上を図る。</p> <p>2 小中一貫教育モデルカリキュラムを活用し地域の特色を生かした教育課程の編成を行う。</p> <p>3 保護者・地域、関係機関との連携を深め、保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>○校内等の研修や学園の合同授業研等を通し、授業改善の意識が高まってきた。特に重点教科の国語科を中心に主体的・対話的な学びの授業づくりが進みつつある。</p> <p>○学習や生徒指導等を中心に全ての教育活動の中で、組織的・協働的な動きづくりができた。</p> <p>△主体的・対話的で深い学びのための授業改善を推進する。</p> <p>△保護者、地域、その他の関係機関との連携を更に深め、信頼される学校及び特色ある学校づくりの推進を図る。</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を進め、基礎・基本の確実な習得と主体的・対話的で深い学びの授業改善を図る。</p> <p>2 様々な活動を通し、豊かな人間性をはぐくむ「心の教育」を推進する。</p> <p>3 家庭・地域、関係機関との連携を深め、信頼される学校、特色ある学校づくりを通し、「生きる力」の育成に努める。</p> <p>4 就学前から中学校卒業までを見通した弥栄学園小中一貫教育の推進を図る。</p>	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <p>○生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を学園の取組とも連動させながら実践、推進することができた。</p> <p>○重点教科の国語科を中心に「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに向けた研修を充実させながら、指導力向上及び授業改善につなげ、全学年で実践することができた。</p> <p>○学園の取組とも連動させながら、校内の研究や取組を推進し、授業改善につなげることができた。</p> <p>○学校支援ボランティア等を活用した学習支援を組織的、継続的に実施したことにより、中間層や学力課題の大きい児童の基礎的な学力の底上げにつながった。</p> <p>△意欲面や学習中の様子では、一人一人の1年間の成長や伸びが見られたが、評価テストの結果にまだまだ細かい指導演と家庭学習、ドリル学習を充実させ、全体の学力の向上を図る必要がある。</p> <p>△「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を更に進め、学力向上につなげる。</p> <p>△学園の取組と連動させた校内の取組を更に充実させる。</p>		
<p>評価項目</p> <p>教育課程 学習指導</p>	<p>重点目標</p> <p>1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりを推進する。</p> <p>2 主体的・対話的で深い学びの授業づくりを実践する。</p>	<p>具体的方策</p> <p>1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を一体のものとして指導を進める。</p> <p>(1) 個々の児童や学級の学力課題を明らかにし、ユニバーサルデザイン授業を進め、「わかる」「できる」授業づくりときめ細かな指導を継続的に行う。</p> <p>(2) 指導と評価の一体化を意識した授業づくりを進める。</p> <p>2 主体的・対話的で深い学びの授業改善のために、教員の授業実践力、指導力向上に向けた取組を進める。</p> <p>(1) 小中一貫教育モデルカリキュラムを活用し各教科等の指導計画を整備し、主体的・対話的で深い学びのための授業改善を推進する。</p> <p>(2) 重点教科である国語科の授業研究及び弥栄学園の合同授業研究会、出前講座の活用や様々な研修を通し、教師の指導力、授業実践力の向上を図り、児童の学力の充実、向上につなげる。</p> <p>(3) 家庭学習においても、弥栄学園の取組と連動させ、家庭学習頑張り週間等の取組を推進する。本校の実態に応じた自主的・自発的な家庭学習の取組を推進する。</p>	<p>○生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を学園の取組とも連動させながら実践、推進することができた。</p> <p>○重点教科の国語科を中心に「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに向けた研修を充実させながら、指導力向上及び授業改善につなげ、全学年で実践することができた。</p> <p>○学園の取組とも連動させながら、校内の研究や取組を推進し、授業改善につなげることができた。</p> <p>○学校支援ボランティア等を活用した学習支援を組織的、継続的に実施したことにより、中間層や学力課題の大きい児童の基礎的な学力の底上げにつながった。</p> <p>△意欲面や学習中の様子では、一人一人の1年間の成長や伸びが見られたが、評価テストの結果にまだまだ細かい指導演と家庭学習、ドリル学習を充実させ、全体の学力の向上を図る必要がある。</p> <p>△「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を更に進め、学力向上につなげる。</p> <p>△学園の取組と連動させた校内の取組を更に充実させる。</p>		
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基礎として</p>					

生徒指導	<p>1 生徒指導の3機能を生かした学級経営を行う。</p> <p>2 人権意識や規範意識の高揚を図り、良好な人間関係づくりを行う。</p> <p>3 いじめや不登校の未然防止に努める。</p>	<p>1 生徒指導の3機能を生かした学級経営実践を行い、自尊感情の醸成を目指す。</p> <p>2 望ましい集団活動や多様な体験活動を通して、好ましい人間関係やコミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>3 非行防止教室、法やルールに関する教育、情報モラル等の指導を通して、規範意識の高揚を図る。</p> <p>4 常に児童の内面理解に努め、家庭との連携を密にする。児童、保護者との信頼関係を構築し、取組や対応等を丁寧にもつなげる。</p>	<p>○生徒指導の3機能を生かした学級経営や異年齢集団活動を通して、高学年のリーダー性の育成と良好な人間関係づくりを進めることができ、各学級や学校全体の安定につながった。</p> <p>○非行防止教室や法やルールに関する教育、様々な事象の教材化、家庭との連携等を通して、規範意識の高揚やいじめ等の未然防止、不登校0につながっている。</p> <p>△更に生徒指導の3機能を生かした学級経営を進め、児童一人一人の内面理解や状況把握に努め、家庭との連携を強化しながら、保護者、児童との信頼関係を深めていく。</p>
健康（体育）・安全	<p>1 食育、健康な心と体づくりの取組を進める。</p> <p>2 学校事故の未然防止と登下校の安全を確保する。</p>	<p>1 食育の推進とともに、年間を通じた朝の体力づくり（マラソン、縄跳び）と毎学期の生活点検を通じた生活習慣づくりを進める。</p> <p>2 危機管理意識を高め、事故等の未然防止に努める。</p> <p>3 校内安全点検を実施し安全な施設管理を行うとともに、登下校の安全指導を徹底しPTAや地域のボランティア等と連携した取組を進める。</p>	<p>○食育を含めた給食指導が、計画的に実施できた。</p> <p>○年間を通じた体力づくりの取組を組織的に進め、基礎的な体力が身に付いた。</p> <p>○家庭と連携して毎学期生活点検を実施することによって、学期始めの生活習慣づくりにつながった。</p> <p>○ボランティアの方々と連携して安全な登下校ができ、事故0につながっている。</p> <p>△安全や健康を守る意識を高める。</p>
特別支援教育	<p>特別な教育支援が必要な児童の個性や能力の伸長を図るため、保護者や関係機関との連携を図り、個別の課題に応じた支援や指導方法の改善、指導の充実を図る。</p>	<p>1 個別の指導計画・支援計画等を整備し、本人や保護者のニーズに合わせた教育支援に向けた懇談を丁寧に継続的に図る。また、個々の合理的配慮を明確にし、個別に合わせた指導の推進及び充実と関係機関との連携を図る。</p> <p>2 障害のある人を正しく理解するための理解教育を計画的に進める。</p>	<p>○家庭と連携し、障害のある児童や保護者のニーズに合わせた支援、取組が推進できた。</p> <p>○懇談を定期的に行い、合理的配慮を明確にした個別の指導や特性等に合わせた指導指導、教育支援を進めることができた。</p> <p>△さらに実態に応じたきめ細かな指導の充実と家庭との連携を丁寧に、組織的、継続的に図る。</p>
特色ある学校づくり	<p>家庭、地域との連携を深め、伝統や校風を継承しながら、地域の特色を生かした学校づくりを推進する。</p>	<p>1 受け継がれてきた伝統や校風を継承しながら、本校の特色である異年齢集団活動を更に充実させた取組を推進する。</p> <p>2 保護者や地域の人材等を積極的に活用した教育活動の推進と体験活動の充実を図る。</p>	<p>○伝統や校風を大切にしたい取組を進め、特色ある学校づくりにつながることができた。</p> <p>○学習や体験活動を充実させるために、保護者や地域の人材等を活用することができた。</p> <p>△地域の人材を活用し、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりにつなげる。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>1 校内研修を充実させ、指導力を高め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進と学力の向上を図る。</p> <p>2 教育環境の充実を図るとともに生徒指導の3機能を生かした学級経営と授業づくりを推進し、児童一人一人の内面理解に努め、望ましい集団活動を通して、豊かでたくましく教育の充実を図る。</p> <p>3 弥栄学園小中一貫教育の方針、年間計画に基づいた学園経営を行い、園小、小小、小中の一貫した取組の実践と評価を重ね、円滑な接続を図る。</p> <p>4 家庭・地域との連携を深めて信頼関係を構築し、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>1 校内研修を充実させ、指導力を高め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進と学力の向上を図る。</p> <p>2 教育環境の充実を図るとともに生徒指導の3機能を生かした学級経営と授業づくりを推進し、児童一人一人の内面理解に努め、望ましい集団活動を通して、豊かでたくましく教育の充実を図る。</p> <p>3 弥栄学園小中一貫教育の方針、年間計画に基づいた学園経営を行い、園小、小小、小中の一貫した取組の実践と評価を重ね、円滑な接続を図る。</p> <p>4 家庭・地域との連携を深めて信頼関係を構築し、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>○伝統や校風を大切にしたい取組を進め、特色ある学校づくりにつながることができた。</p> <p>○学習や体験活動を充実させるために、保護者や地域の人材等を活用することができた。</p> <p>△地域の人材を活用し、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりにつなげる。</p>

## 平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立弥栄小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く児童生徒の育成」 ・知識と技を磨き、活用する子 ・自他の良さを知り、共に伸びる子 ・心身をきたえ、何事もやりぬく子		学習規律が定着し、落ち着いた学習環境が整った。 〇弥栄学園としての取組・交流が活発に行われ、小1プロブレム・中1ギヤップの解消に成果を上げた。 △学力充実加配の活用等進めたが、学力定着には課題が見られる。 △自尊感情がやや低く、学習意欲や積極性に課題がある。		本年度学校経営の重点(短期経営目標) 1 学級経営を基盤とした授業づくり 2 新学習指導要領の趣旨に沿った授業改善 3 人権教育・道徳教育の充実 4 小中一貫教育の推進 5 信頼される学校づくり	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	1 学力実態と課題に応じて個に応じた指導の充実を努め、確かな学力の定着を図る。 2 新学習指導要領の趣旨に沿った教育課程経営を行い、主体的・対話的で深い学びを重視した授業改善を進める。 3 学園課題・学校課題克服に向けた小中一貫教育を推進する。	1 学力向上プランに基づき、基礎基本の徹底・個に応じた指導(TT・少人数授業)・家庭学習充実等の取組を行う。 2 新学習指導要領実施に向けての研修、カリキュラム・マネジメントを進める。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた校内・学園研究授業を推進する。 3 小中一貫教育の取組や交流が学園課題・学校課題克服に向けた効果的なものとなるよう推進する。	〇主体的・対話的で深い学びのある学習となるよう国語科の研究を進め、授業力が高まった。(学園での授業研究、研修) 〇複教科制での教科指導を多く取り入れ、個に応じた指導を進めることで落ち着いて学習に向かうことができるようになった。 〇△学期に1回、弥栄学園で家庭学習ががんばり週間を設け、日常的に自主学習ができる力を育んだ。習慣の定着には課題がある。 △算数の複数指導や習熟度別指導、昼ドリル、補習を行い、基礎学力の定着を図っているが課題が見られる。		
生徒指導	1 望ましい集団活動を通して、児童自らの課題を解決する意欲と実践力を高める。 2 約束やきまりを守って生活できる力を付ける。 3 組織的にいじめの未然防止、早期発見・早期対応を進める。	1 よりよい学級・学校生活づくりを進め、諸問題を解決しようとする学級活動・話し合い活動を充実させる。生徒指導の三機能が生きた学級経営を進める。 2 学習規律の確立と意欲的に取り組める学習環境づくり。 非行防止教室の実施。学園連携・取組の充実。 3 児童の変化や危険信号を見逃さないよう日頃からの児童の見守り、信頼関係の構築。いじめについて理解を深める取組の推進。児童の主体的な活動の推進。	〇学校行事・教育活動を通して児童が異年齢・学級で繋がりが、意欲的に学校生活を送ることができている。 〇児童会から出される月目標の実現に向けて学級で話し合い、取り組み、振り返りを通してよりよい学校生活の実現に向けて努力しようという姿勢が育っている。 〇いじめの未然防止や不登校傾向等、課題となる状況に対して教職員がチームとなって取り組み、早期発見・改善に導くことができた。 △自らの課題に気づき、解決していこうという意欲や判断力には課題が見られる。		
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として					

健康（体育）・安全	<p>1 体を動かすことを楽しめ、遊びや運動の仕方を工夫する力を付ける。</p> <p>2 生活安全・交通安全・災害安全の指導を推進し、安全な生活を営む判断力と実践力を養う。</p> <p>3 情報モラル教育の推進</p>	<p>1 児童の体力・運動能力実態を把握し、体育指導・体力向上の取組を充実させる。</p> <p>2 児童自ら災害や事件・事故等から、安全を守るための能力を身に付ける安全教育を保護者・地域と連携して行う。（地域安全ネットワークとの連携した見守り・交通指導。交通安全教室）</p> <p>3 低学年から発達段階に応じた情報モラルの指導を行い、情報機器の使用や管理に付いて家庭への啓発を行う。</p>	<p>○外遊びを奨励するとともに継続した体力づくりの取組を進め、駅伝競走大会でも好成績を収めた。</p> <p>○交通安全教育をPTA・地域と連携して行い、交通安全に対する意識を高めることができた。</p> <p>○△ゲームやスマホ等ネット環境の状況や危険についてPTAと連携した取組を進め、意識啓発ができたが、実態に応じた指導が必要である。</p> <p>△年間を通して児童の怪我が多く、安全教育を一層進める必要がある。</p>
開かれた学校づくり	<p>1 学校からの発信の充実</p> <p>2 地域学習、丹後学を通して、児童が人とつながり、ふるさとを愛する心や感謝の心を育む。</p> <p>3 地域人材の活用</p>	<p>1 学校や学園の取組・様子を積極的に発信し、理解と協力を得る。（学校便り全戸配布・学園便り・ホームページ）</p> <p>2 丹後学をはじめ、広い校区の地域教材を積極的に取り入れ、地域から学ぶ。</p> <p>3 学校支援ボランティアを活用し、学習効果をあげるとともに地域とのつながりを深める。</p>	<p>○ホームページでタイムリーに発信するとともに、学校だよりや一貫教育だよりで学園や学校の様子を発信することができた。</p> <p>○学校支援ボランティアや地域の方に協力していただき、地域の方とふれあいがたらくさん地域について学ぶことができた。</p> <p>○学園・PTA・地域と連携したあいさつ運動で児童と地域とのつながりがより広がった。</p>
研修（教職員の資質向上）	<p>1 教職員一人ひとりが教育目標実現に向け、具体的な目標を持ち、主体的に教育活動の質を向上させる。</p> <p>2 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業力・指導力を向上させる。</p>	<p>1 教職員人事評価制度や学校評価制度を活用し、教職員の主体的な実践を推進する。</p> <p>2 計画的・効果的な校内研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教科 道徳」指導方法・評価研究</li> <li>・外国語～教師の英語力の向上、専科授業から学ぶ</li> <li>・国語科（重点研究）～単元構想・授業デザイン</li> </ul> <p>指導と評価の一体化</p>	<p>○教職員は自ら目標を設定し、授業力・指導力向上に努力をすることができた。また力量向上に教務部も指導支援を行い成果をあげた。</p> <p>○△計画的に校内研修を実施し、新学習指導要領の理解や指導力向上の取組を続けている。今後より実践的な研修を実施していく必要がある。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>1 楽しく学び・わかる授業づくり、学力向上の取組をさらに進め、質の高い学力を身に付けさせたい。</p> <p>2 自尊感情を高める取組を通して、児童に主体性・積極性を身に付けさせ、生き生きと学ぶ校風をつくりたい。</p> <p>3 自分の身は自分で守れるよう、しっかり考えた行動をとる等、危険予知能力を身に付けさせたい。</p> <p>4 教職員一同が、協働体制で教育活動ができていけると実感できる、組織体制を強化する。</p>		



健康（体 育）・安全	<p>1 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせるとともに、様々な取組を通じて我慢強く活動する心を育てる。</p> <p>2 安全な生活を営むための対応力を育成する。</p>	<p>1 日常生活で当たり前のことが当たり前にできる子どもに育てるために基本的な生活習慣や日常の確立を指して粘り強い声かけと保護者連携を進める。</p> <p>2 交通ルールの順守や不審者への対応、日々の安全な生活等を進めるために、事例を教材化し情報を正しく判断できるようにする。</p>	<p>○学校内での基本的な生活習慣は時間を守ることや共に活動することなどよく進めることができた。家庭でもがらんばり週間等の取組を通して、家族一緒に前向きに取り組んでいただいている家庭が多かった。</p> <p>○1年間地域の見守り活動や家庭での指導のおかげで登下校中や自転車による交通事故はなかった。</p>
研修（資質 向上の取 組）	<p>1 新学習指導要領への対応としての「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と本校重点課題である「ことばの力の育成（話し合い活動の充実）」を関連付け、解決につながる校内研究・研修の充実を図る。</p>	<p>1 新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」が実現する授業改善に向けて、具体的な子どもの姿とそれに向かう指導方法の研修を進める。</p> <p>2 「話し合い活動を通してことばの力の育成と主体的で対話的な学び」について実践しながら研究を進める。</p>	<p>○久美浜学園の取組と連動させ、中3卒業時の姿を明確にし、そこに向けた指導のあり方を協議し学び合うことができた。そのことを目指しながら、校内でも「話し合い活動」をいかに授業の中で進め、豊かな考えや表現につなげていくかの研究を進めることができた。</p> <p>○「話し合い活動」の指導系統表を作成することを通して、授業や指導のあり方を協議し互いに学び合うことができた。今後更に、深い学びにつながる授業展開を模索していく必要がある。</p> <p>○地域・保護者の協力によって実現した下校時間の変更により、教職員の準備・研修の時間確保が少なくなった。</p>
特色ある 学校 づくり	<p>1 保幼小中10年間を見通し、中学校卒業時の生徒のあり姿を明確にする。</p> <p>2 地域に学び、地域とともに歩む学校にする。</p>	<p>1 久美浜学園3年次として、昨年のシステムや方向性を継続し内容充実を図る。特に、「理解と対話」のキーワードのもと、学園教職員で常に交流しながら、「中学校卒業時の生徒のあり姿」を検討し、本校の教育活動において常に意識していく。</p> <p>2 教科や総合的な学習の時間等において、様々な地域の資源から学ぶ。また、様々な機会をとらえ地域の方々の交流や学びを大切にする。</p>	<p>○昨年度の取組をベースに「理解と対話」を深めることを最大の重点として取り組んだ。そのことにより、6年生での姿を目指す各学年での実践が進められ、そのもととなる6年生の姿を中学校の姿と関連づけて考えることができてきた。</p> <p>△教科や総合的な学習の時間において地域の資源からたくさんの方々と学ぶことができた。一方で、たくさんの方々の活動や取組の中で、準備や展開に係る時間確保が難しく、今後行事の精選と合わせて、地域から学ぶ視点を大事にしていく。</p>
次年度に向け た改善の方向 性	<p>1 久美浜学園全体として、10年間を見通した教育活動を更に進めるとともに、小中間の様々な教育課程上のギャップについて、具体的な取組を通して一歩ずつ改善していく。</p> <p>2 本校の重点課題である学力向上に向けて、現在の重点研究や学力向上対策の取組を継続するとともに、その実現に向けて①肯定的な評価を基にした豊かで支え合う学級づくり、②より力を高めるための授業研究、③基礎基本の徹底と「話し合い活動」を通じた子どもたちの主体的な学び合いを進めていく。</p> <p>3 落ち着いた子どもたちの様子や学校の取組全体の関連付け等を通して、教職員の準備や研修の時間確保を更に進め、そのことを通じて授業実践や学級経営力の向上を進める。</p>		

# 平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立高龍小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>意欲的に生活・学習に取り組む子どもの育成</p> <p>— 子どもの実態や系統性を踏まえた指導 —</p> <p>1 基礎基本の徹底</p> <p>2 言語活動の充実</p> <p>3 家庭学習時間の確保</p>		<p>○ 話し合い活動に意欲的に取り組むことができた。</p> <p>△ 「わかる授業」「できる授業」を通して国算の基礎・基本の力を身に付ける取組を進める必要がある。</p> <p>△ 児童の実態を把握し、必要な支援を行い、一人一人の自己肯定感を高める必要がある。</p>		<p>「自分なりの考えを持つことができる児童の育成」</p> <p>1 自分の考えを表現することができる。</p> <p>2 自分や友だちのよいところを見つけてあげる。</p> <p>3 いろいろなことに挑戦することができる。</p>	
<p>重点目標</p> <p>1 ねらいが明確で「わかる」「できる」授業を進める。</p> <p>2 全校体制で個に応じた指導・学力補充体制を確立し、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>3 身に付けた知識・技能を用いて活用する力を育成する授業を進める。</p>		<p>具体的方策</p> <p>1 研究推進部を中心に、ねらいが明確で「わかる授業」「できる授業」の算数科の研究授業・公開授業を行い、学び合う。</p> <p>2 学力補充・家庭学習等により、授業だけでなく、家庭と連携し、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。</p> <p>3 主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行う。</p>		<p>成果と課題 (自己評価)</p> <p>○ 一人年1回の授業公開・研究授業に取り組み、児童が意欲的に参加できる導入を工夫し、児童が主体的・対話的に学ぶ授業を行うことができた。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びのイメージを京都府総合教育センター・市教委の出席授業、丹後局実践開発プロジェクト等の研修を通してイメージを持つことができた。</p> <p>○ 保護者アンケートで約93%が、児童にとって「わかる」「できる」授業を進めているとの回答が得られた。</p> <p>○ 意欲的に学習する場として、本年度初めて漢字検定58名(40%)が挑戦することができた。</p>	
<p>生徒指導</p> <p>1 よさを認め合い、伝え合える活動を積極的に取り入れる。</p> <p>2 発達段階に応じた「思いやり」の心を育成する指導を進める。</p>		<p>1 教師が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。また、いじめについて、未然防止に重点を置き、規範意識の醸成を図る。</p> <p>2 「特別な教科 道徳」を中心に、道徳教育・人権教育を推進する。特に「主として人とのかかわりに関すること【親切、思いやり】」を重視する。</p>		<p>○ 生徒指導部・特別活動部が連携して積極的な生徒指導を行うことで、運動会・チーム遊び・大縄跳び大会等で、児童が相互によさを評価したり、全校集会等で評価したりすることができた。</p> <p>○ 学校便り・学級通信を通して、取組の様子やねらいを説明しながら、児童のよさを積極的に紹介することができた。</p> <p>○ 11月の人権月間に、「道徳」の授業を中心に人権教育に関わる授業公開を行い、児童に親切・思いやりについて考えさせることができた。</p> <p>△ 規範意識が高いとは言えない状況もみられた。心を育てながら、規範意識を醸成していきたい。</p> <p>△ 全ての児童が肯定感を持つよう、今後も取組を進めていきたい。</p>	
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>					

健康 ( 体 育)・安全	1 全校的な体力にかかわる取組の充実により、体力向上を図ったり、基本的な生活習慣を身に付けさせたりして、学校を休まない強い体を作る。 2 困難なことにも粘り強く挑戦していることと態度を育成する。	1 体力(特に持久力)向上を図ったり、P T Aと連携して基本的な生活習慣の確立を目指したりして、休まず学校に登校できる意欲を高める。 2 個々の目指す目標を発達段階に応じて明確にし、特に「特別な教科 道徳」を中心に「主として自分自身に関する事【希望、努力と強い意志】」について指導し、粘り強く挑戦させる。	○体力づくりに取り組み、小学校駅伝競走大会では、五位の結果を得ることができた。 ○基本的な生活習慣の取組と合わせて、メディアコントロールについても関連して指導することができた。 △生活習慣が身に付いていない児童に対して、今後とも家庭と連携して取組を進めていきたい。
特別支援教育	1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。	1 支援部会を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援・手立てを明確にしながら、担任と連携した指導を進める。 2 保護者との懇談を実施し、個々への合理的配慮を明確にするとともに個別の指導計画・個別の教育支援計画を日々活用し、指導方法の工夫改善を図る。	○教育支援部会に、一人一人のニーズに応じた指導方法を検討し、保護者とともに、個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成することができた。また、S C・S W・巡回教育相談を活用し、児童の指導に生かすことができた。 ○年間を通して保護者と懇談することができ、保護者の願いを取り入れた個別の指導計画・教育支援計画を作成したり、見直したりすることができた。
開かれた学校づくり	1 丁寧で分かりやすい双方の情報発信と積極的な学校公開を進める。 2 P T A・地域の関係機関等との取組により連携を強化する。	1 学校だけでなく学級・学年通信、ホームページ等で、学校の様子を分かりやすく発信したり、保護者の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。 2 P T Aとの積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。	○6月に学校公開日を設定し、保護者、地域住民に広報することができた。また、授業参観・学校行事のアンケート結果のまとめを発行し、学校の方針の理解・保護者との連携が一層進んだ。 ○ホームページの来訪者が一日 200～250 あり、1月9日現在 162,090 のカウンタとなっている。 ○稲作・そろばん・読み聞かせ・書初め・スキー等の学習支援ボランティア、ゲストティーチャーを活用し、地域と一体となった学習を行うことができ
次年度に向けた改善の方向性	久美浜の教育目標・目指す子ども像を基に学校経営を行ってきた。今後、より児童の見える取組を行う。 1 個に応じた指導と一斉指導の充実を図り、規範意識を醸成し、誰もが安心して学習に参加できる環境を創り上げる。 2 算数科の授業研究・公開授業等を行い、互いに授業を見合いながら、児童が主体的・対話的で深い学びがで	る」 「できる」 授業研究を進める。 3 ドリルタイムの充実、放課後補習・学期末・学年末補習等に取り組み、基礎・基本の力を身に付ける。 4 学力上位層の児童のやる気を引き出す漢字検定に取り組み、指導の充実を図る。 5 児童に自分なりの考えを持って表現できる力を身に付けさせるとともに、教科の基礎・基本を身に付けさせ、見える学力の充実を図る。また、読書の量と質を高め、児童の語彙力を高める。 6 活用する力の育成、学習意欲の向上を図るための取組を行い、学力の安定を図る。 7 学校評価から教育実践を取り組むことができるよう、評価の視点・方法を明らかにする。	た。 ○6月に学校公開日を設定し、保護者、地域住民に広報することができた。また、授業参観・学校行事のアンケート結果のまとめを発行し、学校の方針の理解・保護者との連携が一層進んだ。 ○ホームページの来訪者が一日 200～250 あり、1月9日現在 162,090 のカウンタとなっている。 ○稲作・そろばん・読み聞かせ・書初め・スキー等の学習支援ボランティア、ゲストティーチャーを活用し、地域と一体となった学習を行うことができ

# 平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立かぶと山小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
久美浜学園教育目標 ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成	学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)	(1) 居心地のよい学校 安心と安定のある学級経営の充実 望ましい人間関係を築く力の育成	(1) 居心地のよい学校 安心と安定のある学級経営の充実 望ましい人間関係を築く力の育成
めざす児童像 (知)意欲的に質の高い学力を身につけようとする子 (徳)自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 (体)心身を鍛え、粘り強く最後まで協力して取り組む子	重点目標	具 体 的 方 策	(2) 学力向上を図る学校 基礎基本の定着、思考・表現・判断力を充実させる学習活動の推進	(2) 学力向上を図る学校 基礎基本の定着、思考・表現・判断力を充実させる学習活動の推進	(2) 学力向上を図る学校 基礎基本の定着、思考・表現・判断力を充実させる学習活動の推進
評価項目	重点目標	具 体 的 方 策	(3) 家庭・地域にひらかれ、信頼ある学校 家庭や地域と協働する学校づくりの推進	(3) 家庭・地域にひらかれ、信頼ある学校 家庭や地域と協働する学校づくりの推進	(3) 家庭・地域にひらかれ、信頼ある学校 家庭や地域と協働する学校づくりの推進
教育課程 学習指導	重点目標 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識した授業改善を行う。 ○児童一人一人に基礎・基本を定着させ、学び合い活動を深める。	具 体 的 方 策 ・「わかる授業」を展開し、学ぶ意欲を向上させる。 ・言語活動の充実を図るため、話す・聞く・書く・読むを取り入れながら自分の考えを伝える、ペア学習、グループ学習を進める。学び合い活動のよさを実感させる。 ・単元構想をもち、どんな力をつけるのかを意識して授業を行う。 ・学習規律の確立を図る。 ・学習内容の習熟のため、家庭との連携を深め、家庭学習を充実させる。 ・生徒指導の3機能を活かした学級経営の推進により、望ましい人間関係を育成する。 ・友達とのトラブルを解消する取組を通して、自己と他者の折り合いのつけ方を学ばせる。 ・日々の肯定的評価を積み重ね、お互いの良さを張り認め合える集団づくりを進める。 ・児童理解に努め、個に応じた指導を行う。個と集団との関わりの中で、認め合い、成長できるようにする。 ・ルールやまよりの意味を理解させ、ルールを守ることを大切にす。	成果と課題 (自己評価) ○授業研を全学級実施し、事前研事後研の充実により、主体的・対話的で深い学びについてどのように授業を構想するかを確認することができた。 ○児童同士の交流、教師との対話により理解を深められるように、何を理解させるのかを明らかにして指導した。 △学習規律の面では、低学年の規律について不十分などところがある。最後までやりきらせることに課題が残った。	成果と課題 (自己評価) ○授業研を全学級実施し、事前研事後研の充実により、主体的・対話的で深い学びについてどのように授業を構想するかを確認することができた。 ○児童同士の交流、教師との対話により理解を深められるように、何を理解させるのかを明らかにして指導した。 △学習規律の面では、低学年の規律について不十分などところがある。最後までやりきらせることに課題が残った。	成果と課題 (自己評価) ○授業研を全学級実施し、事前研事後研の充実により、主体的・対話的で深い学びについてどのように授業を構想するかを確認することができた。 ○児童同士の交流、教師との対話により理解を深められるように、何を理解させるのかを明らかにして指導した。 △学習規律の面では、低学年の規律について不十分などところがある。最後までやりきらせることに課題が残った。
生徒指導	重点目標 ○安心と安定感のある学級経営の充実を図る。 ○規範意識を高め、基本的生活習慣を確立する。	具 体 的 方 策 ・生徒指導の3機能を活かした学級経営の推進により、望ましい人間関係を育成する。 ・友達とのトラブルを解消する取組を通して、自己と他者の折り合いのつけ方を学ばせる。 ・日々の肯定的評価を積み重ね、お互いの良さを張り認め合える集団づくりを進める。 ・児童理解に努め、個に応じた指導を行う。個と集団との関わりの中で、認め合い、成長できるようにする。 ・ルールやまよりの意味を理解させ、ルールを守ることを大切にす。	成果と課題 (自己評価) ○肯定的な声掛けに心がけ、お互いの良さを見つめるように進めることができた。 ○学級全員で取り組むことの良さや、勝負だけではない取組過程での値打ちを認めることにより、自分の成長や集団の成長について児童が実感できた。 ○自分の思いを伝え、相手の気持ちも理解しようとする中で折り合いをつける場面が増えてきた。 △ルールやまよりの意味を認めていないマイナスイナスの方向に流れることがあり、守りきらせることができなかった。	成果と課題 (自己評価) ○肯定的な声掛けに心がけ、お互いの良さを見つめるように進めることができた。 ○学級全員で取り組むことの良さや、勝負だけではない取組過程での値打ちを認めることにより、自分の成長や集団の成長について児童が実感できた。 ○自分の思いを伝え、相手の気持ちも理解しようとする中で折り合いをつける場面が増えてきた。 △ルールやまよりの意味を認めていないマイナスイナスの方向に流れることがあり、守りきらせることができなかった。	成果と課題 (自己評価) ○肯定的な声掛けに心がけ、お互いの良さを見つめるように進めることができた。 ○学級全員で取り組むことの良さや、勝負だけではない取組過程での値打ちを認めることにより、自分の成長や集団の成長について児童が実感できた。 ○自分の思いを伝え、相手の気持ちも理解しようとする中で折り合いをつける場面が増えてきた。 △ルールやまよりの意味を認めていないマイナスイナスの方向に流れることがあり、守りきらせることができなかった。

健康（体 育）・安全	○規則正しい生活ができ、健康で安全な生活を送ることができる児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の体力づくり（マラソン、縄跳び）を計画的に実施する。</li> <li>・家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の確立に向けた取組を進める。</li> <li>・登下校の安全に対して、安全ボランティアの方々と連携した取組を進める。（付添い登下校、にこにこカーによる見守り、毎月の登校指導等）</li> </ul>	○朝マラソン、朝縄跳びを実施し、取組期間中は一生懸命取り組むことができた。 ○長期休業明けに生活リズムを整える取組を行い、体調不良による欠席が少なくなった。 △登下校の安全については、ボランティアの方々と連携してきたが、安全という点では、歩き方など課題として残った。
特別支援 教育	○配慮を要する児童を中心に、すべての児童に対して合理的な配慮を心がけ、適切な支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級在籍児童にとどまらず、各通常学級に在籍する配慮を必要とする児童への支援の在り方について研修を深める。</li> <li>・スクールカウンセラーや市臨床心理士と連携し、配慮を要する児童への適切・有効な支援の仕方を探る。また、必要に応じて保護者への啓発を進めていく。</li> <li>・個に応じた指導について、保護者と方向性を確認しながら個別の教育支援計画を作成し、指導に活かす。</li> </ul>	○配慮を要する児童の交流を丁寧に行い、教職員間で児童理解を進めることができた。 ○スクールカウンセラー、学び生活アドバイザー、市の臨床心理士と連携し、児童理解や対応について助言を受け適切な支援が行えた。 ○「丹後の連携はぐくみ校」の事業で、京都教育大学の相澤教授の講義を受け、障害特性の理解、支援の仕方の理解につながった。 △児童の教育支援計画、指導計画を作成することはできたが、計画の通りの実践ではない部分もあった。来年度に向けて整理する。
開かれた 学校づく り	○学校や児童の様子等を積極的に発信し、教育活動の向上と信頼される学校づくりにつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観や行事への参加、家庭訪問や電話連絡等、保護者との連携を密にする。</li> <li>・学校・学級だよりやホームページを活用し、学校や児童の様子等、積極的に情報発信し理解を得る。</li> <li>・年度初めに本年度の経営方針等を示し、年度末にそれについての評価を得るというサイクルで進める。学校評価や保護者アンケートを活用し、改善に活かす。</li> <li>・地域人材や学校支援ボランティアを活用してつながりを広げる。</li> </ul>	○授業参観は毎回多くの参観者があり、行事への参観・協力もPTAと協力して行うことができた。 ○行事や取組の様子を学校便りや学級だより、ホームページにより発信することができた。 △教育活動に対する保護者アンケートの結果を分析し、学校改善につなげていく。 △取組に対する学校としてのねらいや考え方が的確に保護者に伝わっていないことが分かった。保護者に理解してもらえらるような伝え方を工夫していく。
次年度に向け た改善の方向 性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学力向上に向けた研究活動の活性化、「深い学び」につながる授業改善を行う。</li> <li>・安定した学級経営の実現に向け、生徒指導の三機能を踏まえた指導を継続する。</li> <li>・特別活動を中心として児童の豊かな人間関係づくりと日々の授業づくりを関連させる。</li> <li>・個に応じた児童への支援の在り方を進めていくため、実態の把握と指導の方向性を明確にする。</li> </ul>		



生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態を早期に把握し不登校の解消と未然防止を図る。</li> <li>・生徒の内面に迫る指導を行い問題事象の減少を図る。</li> <li>・生徒の主体的な取組を進め自己肯定感を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校の解消と未然防止に向け、教育相談部会やケース会議で、SCやSSWを活用しながら、具体的な方針を立て実践する。</li> <li>・問題事象の未然防止、規範意識の醸成のため、生徒とのふれあいの時間を確保し、毎週の生徒指導部会及び学年会で情報交流し全教職員で指導する。</li> <li>・全校集会・学年集会の実施や、生徒会活動において、生徒の主体的な活動を組織していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の規範意識が向上し、学校全体が落ち着いた状況にある。</li> <li>○SSW(スクールソーシャルワーカー：社会福祉士)の配置を受け、福祉の専門家からの見立てができた。カウンセリングで直接生徒に関わり、不登校の未然防止につながったケースもある。</li> <li>△不登校に対応する組織体制は確立したが、結果として2学期から、特に2年生で新規不登校があった。今年度以上にSSWを活用すること、関係機関とのさらなる連携が必要である。</li> </ul>
健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全意識の向上を図り、交通事故や学校事故の減少を図る。</li> <li>・保健教育を系統的に進める。</li> <li>・部活動の充実と体力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全指導を徹底する。(交通教室、PTAとの連携)</li> <li>・保健学習、保健指導を計画的に進める。また、道徳・総合的な学習・特別活動との関連を図る。</li> <li>・避難訓練(地震・火災・不審者侵入)を実施し安全意識を高める。</li> <li>・積極的に部活動に取り組みさせるための指導を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交通事故が減少傾向である。(1月末9件→7件)</li> <li>○計画通り3回の避難訓練を実施し、安全意識を高めることができた。</li> <li>○部活動の各種大会において好成績を収め、生徒に成就感を持たせることができた。駅伝大会・丹波ロ陸上大会でも、府大会、近畿大会、全国大会へと出場することができた。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会モデル学園の研究指定を機に、地域や保護者との双方向の情報交換を活発に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ、学校便り、学級便り等を用い、積極的に生徒の良い面を地域に発信する。</li> <li>・教育支援協議会、学校評議員会等、様々な機会を通じて、地域の方の学校教育への関心を高める。</li> <li>・ボランティア活動を通して地域貢献の意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○峰山学園ホットニュース(地域版)を全戸回覧し、小中一貫教育の周知を図った。</li> <li>○フェスタ飛天のボランティアに約140名の生徒が参加し、地域貢献できた。</li> <li>△学園評価の評価項目を検討し、客観的評価を目指す。</li> </ul>
キャリア教育・進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育を計画的に推進する。</li> <li>・積極的に自分の進路を切り開く生徒を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な体験活動を通して、望ましい職業観・勤労観を養う。</li> <li>・年間計画に基づいた系統的な進路指導を進める。</li> <li>・二者、三者面談を丁寧に持ち希望進路実現を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の方の協力を得て、職場体験や企業の方の講話を計画的に実施でき、生徒の生き方を考えさせる機会となった。立志式を丹後学のまともにも位置付けた。</li> <li>△高校進学後3名の生徒が進路変更となり、中学校における進路指導の課題として受け止め、より丁寧に三者面談等を行った。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「主体的、対話的で深い学び」を目指し、特に主体的に学ばせるため、毎時間の導入での課題設定の仕方を研究していく。</li> <li>② 不登校の解消と未然防止を学校の重点課題と捉え、組織的な取組を継続させる。</li> <li>③「学園運営協議会(コミュニティー)」への移行を念頭に、「地域とともにある学校」づくりを進めていく。</li> <li>④「教職員の働き方改革」を常に意識し、様々な場面で業務改善を進めていく。</li> </ol>		

各学園の重点等を基盤として

# 平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
1	夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成	○教育活動全体を通して話し合い活動や討論活動を積極的に導入し、言語活動の充実に努めることができた。 ○人権教育をはじめ道徳教育や特別支援教育に重点を置いた校内研修を充実させることができた。 ○授業の生徒評価は、「わかりやすい」が27年度86%、28年度85%、29年度88%と継続して高い。また、総合的に見て「よい学校だ」と思うについても、27年度83%、28年度88%、29年度84%と高い数値で安定している。 △学力の定着・向上に向け、授業と連動させた家庭学習の取組や少人数授業を生かした授業改善の取組を推進していく。	本年度高い学力の育成 ・学びの基礎力の徹底と言語の力、討論活動の充実 進路指導の充実 ・三年間を見通した進路学習とキャリア教育の充実 生徒指導の充実と不登校生徒の未然防止、早期解決 ・規範意識の醸成と生徒指導の三機能の充実 心の教育の充実 ・自尊感情、人権尊重を培う教育の推進 指導力の向上 ・効果的な教育活動を目指した分掌間の連携強化 小中一貫教育の効率的な研究と実践		
2	学習意欲を高める授業の充実と家庭学習の定着				
3	健康な体と豊かな心の教育の充実				
4	信頼される学校づくり				
5	教職員の資質能力の向上				
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中の連続期(Ⅱ期)の指導方法の研究を通じた授業改善</li> <li>・客観的データを活用した課題分析と授業改善</li> <li>・「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を育成する授業づくり</li> <li>・丹後学の研究と推進</li> <li>・家庭学習の習慣化に向けた取組の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の教員による協同の授業研究と合同研修会を実施し、授業改善につなげる。</li> <li>・生徒指導の三機能を生かした授業づくりと学びの基礎力を徹底する。</li> <li>・各診断テストや学習状況を把握、分析し課題改善に向けた授業づくりと補充学習を充実させる。</li> <li>・授業スタイルを学園で共有し、授業づくりにつなげる。</li> <li>・全教科を通して「言語活用」カリキュラムを生かし、学びを深める授業づくりを行う。</li> <li>・「言語活用」カリキュラムを活用し、思考力、判断力、表現力を育成する。</li> <li>・地域社会の人々と連携し、自己の生き方、在り方について深く考えさせる。</li> <li>・1日1ページ学習と週末課題を提示する。</li> <li>・家庭学習頑張り週間を設定し、自主的に学習が進められるように家庭との連携を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小中合同授業研では、授業づくりを「主体的・対話的で深い学び」「生徒指導の三機能を生かした授業改善」「言語活用カリキュラムを生かした授業」に視点をあて、発達段階に応じた研究を進めることができた。</li> <li>○データによる課題分析を授業改善や補充学習に生かすことで、基礎学力の定着と経年変化に伸びが見られた。</li> <li>○学園で取り組んでいる「言語活用」カリキュラムの活用が思考力・判断力・表現力を育成し、深い学びへと繋がってきている。</li> <li>○地域の人材を活用することで総合的な学習の時間における丹後学が充実した。</li> <li>○授業における生徒評価は、「わかりやすい」28年度85%、29年度89%、30年度88%と継続的に安定している。</li> <li>△各学年、基礎学力に課題を要する生徒が約10%強、見受けられることから、家庭環境や発達上の課題等、様々な視点から生徒の困難性を捉え、より効果的な学習計画や支援を進めて行く必要がある。</li> </ul>		
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基礎として</p>					

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中の合同生徒指導部の開催</li> <li>・組織的な生徒指導体制の確立と規範意識の向上</li> <li>・学級経営の充実と好ましい人間関係の育成</li> <li>・不登校生徒の未然防止と早期対応、早期解決</li> <li>・定例の生徒指導部会で、いじめの状況把握と未然防止の徹底、人権感覚の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中合同部会により、各校の実践報告から学び合う。</li> <li>・毎週金曜日に生徒指導部会を開催するとともに、日々の情報共有を徹底する。</li> <li>・学校環境適応尺度診断(ASSSS)、生徒アンケートを活用し、相談活動を進める。</li> <li>・生徒指導部と合同で教育相談部会を開催し、特別支援教育部との連携を強化する。</li> <li>・いじめを見逃さず重大事案をまねかない組織的な指導体制の確立を図り、人権感覚と生徒との信頼関係の構築を図る。全校で、いじめゼロ宣言の取組を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小中合同の生徒指導・人権教育部会を通して児童生徒の主体的な活動や保護者対応について、また、校内人権意見発表会や講演会、人権標語の取組を実施し、豊かな心を育成した。</li> <li>○生徒の自己有用感を培う取組を通して、生徒同士が「協力し合えた」H28 94%、H29 96%、H30 96%と高く評価している。</li> <li>○いじめ防止対策会議を定期開催し生徒の状況を把握し個別指導と集団指導に生かした。</li> <li>△不登校生徒への組織的な対応と取組により、新規生徒の出現に一定歯止めがかかっているが、長期間に及ぶ生徒や保護者対応に努める。</li> </ul>
健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全教育の充実</li> <li>・火災、津波、地震への知識の習得と避難訓練の実施</li> <li>・健康教育の充実</li> <li>・部活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練や交通マナーなど登下校の安全を含め、安心安全な学校生活の在り方について指導し、生徒自らの安全意識を高める。(大宮こども園との合同避難訓練を実施)</li> <li>・薬物、飲酒、喫煙の害について指導する。</li> <li>・異年齢集団で共通の興味関心や目的意識を持ち活動することの楽しさや喜びを体得させるため日々の部活動指導を大切にす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園児との合同避難訓練を6年間継続し、安全意識の高揚や豊かな心の育成に努めた。</li> <li>○性に関する学習をはじめ健康被害について講師を招聘し、健全な生き方を考えさせた。</li> <li>○部活動では、「目標に向かって協力し楽しく活動できた」生徒が、H28 83%、H29 80%、H30 86%であり充実感に高まりが見られた。</li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的意識を高める指導の充実と希望進路の実現</li> <li>・学力の定着と向上</li> <li>・三年間を見通した系統的、計画的な指導の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験学習や地域の人材を生かした講話学習を実施し、生き方や在り方を考えさせる。</li> <li>・進路情報の収集と進路資料の活用を行う。</li> <li>・放課後の各種学習会の設定と家庭学習の定着を図る。</li> <li>・計画的に二者面談、三者面談を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の将来や特性を見つめて外部講師を招聘し望ましい職業観や勤労観について考えさせるとともに3年生では夢未来式を実施した。</li> <li>○学習指導部と連携を図り、自らの進路を主体的に考えさせることができた。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な取組の強化</li> <li>・個々の生徒の実態と教育的ニーズを把握した指導展開</li> <li>・特別支援教育についての理解と認識の深化</li> <li>・保護者及び関係機関との連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネーターを核とし、学年団や各担任サポーター等との連携を強化する。</li> <li>・個別の指導計画や教育支援計画を定期的に加筆する。</li> <li>・定期的な教科部会とアセスメントを活用し、共通理解を図るとともに、個に応じた指導にあたる。</li> <li>・合理的配慮に関する教育内容を確立する。</li> <li>・保護者との共通理解を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コーディネーターを中心に組織的な取組が展開でき、特別支援教育の基盤作りができた。</li> <li>○発達障害の研修を通して、個に応じた適切な指導や支援の在り方について理解が深まった。</li> <li>△小中一貫教育を通して情報の共有化と将来を見通した方策を共通理解していく必要があるととともに、関係機関との連携を密にしていく。(自立活動の充実)</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小中一貫教育の手法を校内分掌とし込み、組織的な学校運営の推進を図る。</li> <li>2 教育活動全体を通して、言語活動の充実を図り、質の高い学力の育成に向けての研修を授業改善に生かす。</li> <li>3 不登校生徒の未然防止と早期解決に向け、学校・家庭・関係機関との連携を強化し、組織的な支援体制の構築を図る。</li> <li>4 生徒や保護者との深い信頼関係の構築に向けて、生徒と触れ合う時間の確保と組織的な生徒指導の充実・構築を図る。</li> </ol>		

## 平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立網野中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進	<p>1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。</p> <p>2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。</p> <p>3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。</p> <p>4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。</p>	<p>○授業規律が確立でき、落ち着いた雰囲気の中で授業を進めることができた。</p> <p>○網野学園「これだけは」(授業編)で大切にしている「考えを交流する」場面でのアピア学習・グループ学習を意識した授業が増えた。</p> <p>○生徒の自主性を伸ばすため、生徒会活動を中心に、ボランティア等で意欲を喚起し成果が見られた。</p> <p>△家庭学習充実の取組を行い意欲喚起を図ったが、取組期間中は成果が出たが、日常的な家庭学習が課題である。</p> <p>△不登校の未然防止や改善の取組を進めてきたが、家庭の状況の困難さ等もあり、大きく解消できたと云えない。</p>	<p>本年度重点指導合言葉を「より本気で本物の追求!」とし、全教育活動を1ランクアップ目指して推進する。</p> <p>1 確かな学力の向上</p> <p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の授業を追求する。</p> <p>(2)生徒の考えを言語化させ、書かせたり、発表させたりする場面に計画的に授業に取り入れる。</p> <p>(3)学習法の指導を行い、生徒が学びを自分で進められる力をつけていく。</p> <p>2 豊かな人間性・社会性の育成 (道徳授業の重視)</p> <p>3 体力・耐性の育成</p> <p>(1)部活動・体育の授業を通して育成する。</p>	<p>本年度重点指導合言葉を「より本気で本物の追求!」とし、全教育活動を1ランクアップ目指して推進する。</p> <p>1 確かな学力の向上</p> <p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の授業を追求する。</p> <p>(2)生徒の考えを言語化させ、書かせたり、発表させたりする場面に計画的に授業に取り入れる。</p> <p>(3)学習法の指導を行い、生徒が学びを自分で進められる力をつけていく。</p> <p>2 豊かな人間性・社会性の育成 (道徳授業の重視)</p> <p>3 体力・耐性の育成</p> <p>(1)部活動・体育の授業を通して育成する。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	<p>・「主体的・対話的で深い学び」となる授業づくりを研究し、実践していく。</p> <p>・基礎基本の徹底及び活用する力をつける授業改善を行う。</p> <p>・家庭学習の方法を指導し、家庭の協力を得て、習慣化できる取組を実施する。</p>	<p>・校内研究会を実施し、どのような授業を行うことが「主体的・対話的で深い学び」となるのか、研修していく。</p> <p>・研修したことを実践し、実践の交流を進める。</p> <p>・活用する力は、基礎基本が大切であることを生徒にも自覚させ、日々の学習に、基礎と活用の両方を取り入れる。</p> <p>・基礎基本を徹底するための繰り返し学習を重視する。</p> <p>・家庭での学習方法を研究し指導を行い、生徒が意欲を持って家庭学習に取り組めるように実践する。</p> <p>・PTAの協力を得て、家庭学習の充実を図る。</p>	<p>○授業づくり・授業改善のための校内研究会を2カ月に1度開催し、事後研究会で研究・協議を行った。</p> <p>○京都府中学校教育研究会「教学研究大会」が本校で開催されることをチャンスと捉え、学習環境づくり・授業づくりの研修を大きく進めた。</p> <p>○ドリル学習を計画的に進め、確認テストを合格するまで実施することで、基本的な内容の定着が図れた。</p> <p>△「家庭学習がんばり週間」(定期テスト前)は、一定の時間取り組めるが、日常的には、課題が残った。</p>		
生徒指導	<p>・生徒と教師の信頼関係の構築を図る。(指導の基本)</p> <p>・自己肯定感を醸成する。</p> <p>・不登校の未然防止及び解決を目指す。</p> <p>・いじめなどの人権侵害を未然に防止する。</p>	<p>・生徒が安心して、何でも相談できる教師との関係を大切にす。(業間指導の充実や相談タイムの活用など)</p> <p>・自信を持たせる指導、達成感を感じさせる指導を行う。</p> <p>・本校の重要課題と位置付け、不登校問題に管理職が先頭に立ち、教育相談部と生徒指導部・学年部を連携させた取組で改善を目指す。</p> <p>・日常的な観察を重視し、サインを見逃さない指導実践。</p>	<p>○日常的に生徒の実態把握を行い、生徒との信頼関係を築くため、業間指導に全員で取り組みむことができた。</p> <p>○「挑戦すること」が自分の力を伸ばすことにつながることを様々な場面で語ることで、生徒の意欲向上につながった。大きな成果・結果も出た。(大会成績等)</p> <p>△不登校の未然防止を心がけていたが、2学期の中盤以降、新規の不登校生徒が増加した。</p>		

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力の向上を図る。</li> <li>・安全に対する意識の高揚と危機回避の力の育成を図る。</li> <li>・健康教育を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動及び体育の授業で、昨年度の体力テスト結果の分析に基づいた指導を重視して行い、バランスの取れた体力の向上を図る。</li> <li>・自分の命を守るための「危機回避」の意識と力を訓練及び指導を通して育成していく。</li> <li>・計画的な健康教育を通して、健全な成長のための生活について考えさせ、実践させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育及び部活動で体力づくりを意識した指導を行い、筋力や持久力の伸びが見られた。（課題であった柔軟性も伸びつつある。）</li> <li>○避難訓練や非行防止教室などで、危機から身を守ることにについて指導した結果、交通事故等、ほとんどなく過ごすことができた。</li> <li>△健康教育・病氣予防について指導してきたが、インフルエンザの流行を防止することができなかった。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領にそった特別支援教育を実践する。</li> <li>・個々の発達課題を正確に把握し、指導計画に沿った指導を充実させる。</li> <li>・障害に対する理解教育を行い、いじめや人権侵害の未然防止及び「心の教育」を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「個別の指導計画」及び「教育支援計画」の作成が義務となつたことを機会に、計画をしっかりと立てて、保護者にも十分理解されるものとしていく。</li> <li>・発達課題についての教員研修を行い、教員が特性や障害に応じた適切な指導が実践できるよう取り組んでいく。</li> <li>・生徒が障害に対する理解を深め、2020年のパラリンピックなどを教材として、「人として障害を乗り越えて生きる」素晴らしさを感じさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「個別の指導計画」及び「教育支援計画」を作成し、個の課題に応じた指導を展開することができた。</li> <li>○障害のある生徒の特性を教職員で共通理解し、生徒の特性に十分配慮した指導を実施することで、学習意欲を大きく伸ばすことができた。</li> <li>○障害に対する理解教育を実施してきたことにより、特別支援学級の生徒や通級指導を受ける生徒に温かく接することができた。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼され、応援していただける学校づくりを推進する。</li> <li>・保護者や教育応援会（支援協議会）のみならず、地域の様々な方々へ、公開・発信を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧に本校の学校教育について説明を行い、「学校経営方針」をご理解いただけるよう取り組む。</li> <li>・学校だよりやホームページ等様々な発信方法で、本校教育を知っていただくよう取り組む。</li> <li>・学校を地域も含め行事（合唱祭・体育祭・授業公開）等で公開して、生徒の頑張りや教師の取組を理解していただくよう努力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学校だより」やPTA総会等で「学校経営方針」について丁寧に説明することで、本年度の方向性について、理解をいただくことができた。</li> <li>○学校評価アンケートで、学校が積極的に情報発信していること9割以上の方に評価していただいた。</li> <li>○行事ごとに多くの皆様にご参加いただき、高い評価をしていただいた。生徒の頑張りの陰にある教師の指導についての評価もたくさんいただいた。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒への指導方法及び未然防止の取組を進め、「不登校問題」を全教職員の力を合わせて改善する。</li> <li>・新学習指導要領の移行に関わり、学習指導の充実及び移行措置を確実に実施する。</li> <li>・SNSやインターネットの利用についての指導の充実を図り、被害者や加害者にならないための意識の醸成を図る。（講演会を実施する予定）</li> <li>・日常的な家庭学習の定着に向けた指導を充実させ、基礎・基本の学力定着を図る。また、個に応じた家庭学習のあり方を考えさせる。</li> <li>・全ての教育活動を充実させるためにも、「学級経営」を安定させ、生徒が「この学級で友達と一緒に頑張ろう」と思える運営を行う。</li> </ul>		

# 平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立丹後中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
<p>開校5年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。 生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。</p>	<p>・「言語活動の充実」による思考力、判断力、表現力等の育成を図る。 ・数学の指導の研究を重点教科として進める。 ・基礎学力の定着及び活用する力の育成を図る。</p>	<p>・全ての教科に言語活動を取り入れるようにし、「ことばの力」を育成するための授業形態を工夫改善し実践する。 ・目標と指導と評価の一体化した取組を、「算数・数学」の指導を中心に進め、系統性のある一貫した授業づくりを研究する。 ・ねらいを持ったドリルや家庭学習課題を継続し行う。</p>	<p>○新学習指導要領の実施を控え、改訂のポイントや全面実施までの動き等の理解を深めた。また、幼稚園教育要領・保育所保育指針に記載された幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について研修も学園として行い理解を深めた。 ○年3回の小中学校授業公開を行い、コミュニケーション能力の育成を目指し「総合」・「英語」「外国語活動」の授業の研究ができた。また、「算数・数学」の系統表の作成等、研究成果を授業づくりに活かすことができた。</p>	<p>丹後中学校開校5年目にあたり、個々の生徒が本物を目指し、生き生きと挑戦する学校にする ～生徒と教職員が一丸となり、「本気で本物に挑戦する」を合言葉に進める～ ○生徒の可能性へ、様々な機会を捉えての挑戦を促す。 ○教育活動(学習・行事・取組等々)のねらいを明確にし、生徒が自覚して行動することで、本物を目指す。</p>	
生徒指導	<p>・丹後学園のめざす子ども像の実現への取組を進める。 ・安心できる仲間関係を築かせる。 ・SNS等の使用について、実態把握による指導を充実させる。</p>	<p>・授業中のみならず業間指導を丁寧に行い、生徒の状況を把握すると同時に、生徒との信頼関係づくりを進める。 ・いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめ調査の結果を基に組織的対応・指導に努める。 ・SNSや乗物等に係る「非行防止教室」を計画的に実施し、自他を大切に、正しく判断し行動する力を育てる。</p>	<p>○生徒指導の三機能(自己決定・自己存在感・共感的な人間関係)を生かす具体の指導について研修を行い、あらゆる教育活動の場で生徒に寄り添い、自己指導能力の育成につなげた。 ○生徒指導部会・教育相談部会を時間内に設定し、週ごとの指導の方向性を明らかにして教職員全員で指導にあたることができた。 ○いじめアンケート等を通して、状況把握とその指導を丁寧に行い、未然防止、早期対応につなげた。</p>		

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を鍛えることで、忍耐力などの心の強さも育てる。また、その力を学習にもつなげる。</li> <li>・安全な生活の仕方について、登下校及び学校生活の両面から指導を行う。</li> <li>・自分や周りの人の命を守る安全教育を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の指導を学校生活の向上につなげ、体育系・文化系部活動がかわらず、「辛いときこそ伸びるとき」を合言葉に、豊かな心の育成を図る。</li> <li>・丹後小中一貫校PTA並びに本校PTAとの連携を強め、あいさつ運動や登下校指導を実施する。</li> <li>・生徒の安全安心な学校生活のために、常に危機意識を持ち指導にあたる。</li> <li>・ねらいをしつかりと持たせた避難訓練を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○豊かな心と強い心を育てるために、どの部活動も生徒の心に響く指導に努めることができた。</li> <li>○大会や試合、発表や作品の作品展等、日々の頑張りを発表する場として、また、礼儀やマナーを学ばせる場として部活動の指導にあたることができた。</li> <li>△さらに、生徒の安全安心な学校生活のために、危機意識を持って指導にあたる。</li> <li>○丹後子ども園との合同避難訓練は今後も継続し、自己肯定感を育む学習につなげる。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者・地域への学校公開や授業公開を計画的に行い、丹後中学校開校5年目の教育を理解していただく機会とする。</li> <li>・学校だよりの地域への回覧とともに、学校ホームページを最大限活用して生徒の様子や学園・学校の教育活動を発信していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入式等の儀式や合唱・学習発表会・部活動公開等、様々な教育活動の場面を多くの方に見ていただく機会を計画する。保護者の方だけでなく、「丹後学園教育応援会」との連携を活発にして、多くの方に見ていただき、ご意見や感想を今後の学校経営に活かす。</li> <li>・地域の取組に積極的に参加し、中学校の状況を伝えると同時に丹後小中一貫教育を広く発信していく。</li> <li>・足を運びやすい地域に開かれた学校づくりに努める。そのためにも、地域学校協働本部等を有効に活用し、支援ボランティアの方々の支援を積極的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校や学園の行事や取組は広く案内をし、学校での生徒の頑張りを見ていただくとともに、励ましていただくような環境づくりに努めることができた。また、「応援会」主催の子育て講演会の開催など、地域の教育力向上につながる連携が充実した。来年度も継続していきたい。</li> <li>○支援をいただくだけではなく、公民館事業や地域の行事や地域で発表する場には積極的に生徒が地域に出て、地域の中で地域の子どもとしてできる場を今後でも作っていく。</li> <li>△学校支援ボランティアの方々の支援を今後も継続して行っていただければ、学校に足を運びやすい学園・学校づくりに努める。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のそれぞれの特性についての理解を教職員間で共有し、特性にあった支援を全教育活動を通じて行う。</li> <li>・関係機関との連携を丁寧に行い、指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画や教育支援計画に沿って、個々の課題に応じた指導・支援を丹後小中一貫教育を通して行う。また、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても適切な支援を実施する。</li> <li>・校内研や研修会などを通して指導の充実を図り、適切な支援により生徒の力の伸長を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の指導計画・教育支援計画に沿って、自立活動の視点を大切にしながら、個々の課題に応じた指導や支援を行うことができた。通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても、関係機関と連携を図りながら、共通理解のもと支援を行うことができた。</li> <li>△さらに、支援の充実のための環境づくりと指導の充実が必要である。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後学園小中一貫教育をさらに推進させ、学校改善の一つの手法として活かしていく。本校の授業改善に活かしていく。</li> <li>・学習と部活動の両輪で、豊かな学力と豊かな心の育成のために生徒指導の三機能を生かした指導力の向上に努める。</li> <li>・地域に開かれた学校づくりをさらに進める。</li> <li>・新学習指導要領にもとづいた教育課程づくりを進める。</li> </ul>		

## 平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立弥栄中学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>習得すべき内容を確実に身につけさせること。 また、人権意識を高め、周囲を思いやる豊かな心の育成をめざし、不安や悩みを解消する力を身につけさせ、希望の進路を実現する。</p>		<p>学習規律は、整然と保たれ、授業の展開ができてきたが、学習内容の理解が不十分であり、到達点までは至らない生徒もいるため自学自習の習慣を身に付けさせる課題がある。学年、学級の活動の活性化を図り、自尊感情の醸成に専念することである。</p>		<p>各学級のリーダーと協力者の育成を目指した教育活動を進める。(教職員で指導方向確認、共通理解) ・異年齢活動の活性化 ・生徒の特性を踏まえた指導の展開</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、学び得たことをもとに活用できる力を身につけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をどのように考え、どのようにまとめるとよいのか等考えの視点や方法をわかりやすく示す。</li> <li>・考えたことを全体の場で発表し、自信をもたせる。(思考過程や課題解決のプロセスの記録や家庭学習の仕方を指導する。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年ともテーマに沿って調べ、考えたことを全体の場で発表し、自信をつけた。(心の文化発表会)</li> <li>○級友同士が教え合いを通して、全員が学習課題に取り組み、目標を達成しようとする。</li> <li>△家庭学習の時間が少なく、既習事項の定着に課題が見られた。自学自習の習慣化を図る必要がある。</li> </ul>		
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体でいじめ、不登校の未然防止、迅速且つ丁寧な対応を行う。</li> <li>・自己決定、自己の存在感、共感的な人間関係を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめアンケートや個別面談を実施し、指導方針をもとに生徒、保護者と不安の解消をめざす。(いじめ対策委員会の定例化)</li> <li>・生徒指導の3機能を生かした授業を実施する。(自分の考えに気づかせ、仲間と協働し、互いの良さを認め合う)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定例の会議を設定し、生徒や学級全体の経営状況を共有し、未然防止と早期対応に努めた。欠席が長期化することが少なかった。</li> <li>△目標が明確に見出せない生徒へのアプローチが必要と思える。生徒、保護者との良好な関係を構築していくことである。(小・中学校の丁寧な連携が必要である。)</li> </ul>		
健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のランニングで体を目覚めさせ、読書で集中力を高める。</li> <li>・偏食を無くし食生活を安定させ、部活動で心と体を鍛える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間厳守した学校生活を行うことにより家庭においても規則正しい生活を行う。</li> <li>・達成可能な目標を到達していくスモールステップとなるよう進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全校生徒が時間厳守し、朝のランニングを行い、健康な体作りにつながった。生徒会活動とタイアップした取り組みにより食育指導が継続できた。</li> <li>△できたことに対して適切な評価を行い、生徒に自己有用感をもたせることや自主的な活動へと発展するよう指導する必要がある。</li> </ul>		

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

危機管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心安全な教育環境を整える。(学校内外)</li> <li>・報告、連絡、相談ができる良好な関係を保つ。</li> <li>・園小中との連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険箇所の点検、防犯、防災等の訓練の実施(交通安全、危機回避、自己判断の定着)</li> <li>・生徒把握に徹すること、教職員のチームワーク、地域や関係機関等のネットワーク、迅速丁寧な対応していくフットワークを重視する。</li> </ul>	<p>○地域からの情報を基に交通安全の大切さを訴え、交通法規を遵守した通学ができた。徹底した下校指導により安全に登下校することを意識させた。</p> <p>○事象に対する早期対応や園や小学校との連携を図り、生徒指導に役立てた。</p> <p>△生徒自身で考え、危機回避する力を身に付けさせることが必要である。(情報機器の活用について)</p>
研修(資質向上の取組)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自立するための基盤づくりにより効果的な指導ができるよう校内研修を行い日々の指導に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の動向を見定め、生徒指導に生かすべき指導方法を学ぶ研修を計画する。(道徳、授業展開・評価、公務員としての服務規律等)</li> </ul>	<p>○校内での道徳の授業研の実施、具体的な評価の記載について研究協議を行った。その他、資質向上に向けて服務規律について、職員会議のなかで研修を実施し、執務に生かすことができた。</p> <p>△意欲につながる具体的な評価(記載する表現等)について研鑽を積んでいくことが大切である。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 弥栄学園の指導の重点を授業研究、自尊感情の醸成とし、年間通して教育活動に専念する。</li> <li>2 教師と生徒の良好な関係を構築し、学力向上をめざし、希望する進路を実現させる。</li> <li>3 学校・園・家庭や地域社会と連携を図り、子どもの自立のために良好な教育環境づくりを行う。</li> </ol>		

# 平成30年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立久美浜中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>○規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことを当たり前にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にすする学校を目指す。</p> <p>○久美浜学園小中一貫教育の利点を最大限に生かし、教職員間の共通理解を丁寧を図りながら系統的に実践を積み上げる。</p> <p>1 生徒の自尊感情を高め、好ましい人間関係を構築する。</p> <p>2 学力の充実・向上方を共有し、全教職員で実践を進める。</p> <p>◇学ぶ意欲の向上、基礎基本の徹底</p> <p>◇「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善、言語活動の充実</p> <p>3 「久美浜学園学校地域連携推進協議会」や「地域学校協働本部」等と連携し、新たな仕組みを機能化させ、地域とともにある学校づくりを目指す。</p>		<p>前年度の成果と課題</p> <p>○生徒と教師が、よりよい学校づくりを目指して協働で取り組み、相互の意識が高まった。</p> <p>○異年齢による教え合い学習を毎学期実施し、生徒の自己有用感が高まった。</p> <p>○生徒指導部会、教育相談部会、企画会議の定例化と情報共有により、組織的に課題解決できるようになった。</p> <p>○総合的な学習の時間において、地域調べ、職業体験学習、福祉体験学習を実施し、地域、保護者評価を得て、地域・保護者連携が進展した。</p> <p>○校内授業研究会を実施し、授業改善や実施意欲の向上につながった。</p> <p>○「情報機器の安全な取り扱い」に特化した授業・講演会を計画的に実施し、トラブルが減少している。</p> <p>△SNS等に多くの時間を費やし、家庭学習の時間確保ができていない生徒の割合が高い。各種テストにおいて全国・府平均を大きく下回っている。</p> <p>△特別な支援を必要とする生徒について、校内教育支援委員会を機能させた組織的な指導ができていない。</p>		<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>&lt;久美浜学園&gt; 指導の重点：学力向上</p> <p>○基礎基本の徹底 ○言語活動の充実</p> <p>○家庭学習時間の確保</p> <p>1 課題や具体的方策の明確化と進捗管理</p> <p>(1) 課題</p> <p>ア 学ぶ意欲、規範意識の醸成</p> <p>イ 学力の充実・向上</p> <p>ウ 不登校の未然防止と解決</p> <p>(2) 指導の重点</p> <p>ア 徹底した実態把握と共通理解、組織的な課題解決</p> <p>イ 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の推進</p> <p>ウ 生徒指導の機能を生かした教育活動の推進</p> <p>2 開かれた学校づくり</p> <p>(1) 地域の特性を生かした総合的な学習の時間の充実</p> <p>(2) 地域や保護者への情報発信と地域学校協働活動の推進</p>	
<p>評価項目</p> <p>教育課程 学習指導</p>		<p>具体的方策</p> <p>◇丹後学の充実：1年地域調べ(京丹後・久美浜)、2年立志式、3年福祉体験(サロン活動、介護体験、提言)</p> <p>◇校内授業研(言語活動の充実、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業)、公開授業(道徳の時間、各教科)の実施</p> <p>◇授業における小グループを活用した言語活動の充実、久美中ドリルの工夫・改善</p> <p>◇中1ふりスタ・中2学力アップ講座の工夫、地域未来塾の充実</p> <p>◇生徒会の取組の充実(教え合い学習)</p>		<p>成果と課題(自己評価)</p> <p>○各学年のテーマを設定して丹後学を実施した。発表形態を工夫し学年・全校で発表した。</p> <p>○校内授業研究会を4回実施し、授業改善の視点及び実践課題の明確化、具体的な実践の共有を図った。</p> <p>○毎週木曜日の放課後学習、長期休業期間中の補充学習、日々のドリル学習で、学力補充の取組を充実した。</p> <p>○異年齢による教え合い学習を毎学期実施し、生徒の自己有用感も高まった。</p> <p>△「家庭学習がたっぷり週間」を学期1回設定した。本年度は生徒のメディアアイコントロール力の向上に努めたが、更に家庭学習の充実に力を入れる。</p>	
本市の小中一貫教育の諸計					

<p>画及び各学園の重点等を基盤として</p>	<p>生徒指導</p>	<p>1 人権教育・道徳教育、法やルールに関する教育の推進と規範意識の醸成 2 いじめの未然防止と解消 3 自己肯定感の高揚、共感的な人間関係の育成 4 不登校（不登校傾向生徒）の解消と未然防止 5 関係諸団体との連携強化</p>	<p>◇生徒とのふれ合い（業間も含む）、話しこみ ◇組織的対応、複数指導等による若手教員の育成 ◇徹底した事前指導：学校行事前、生徒会活動前 ◇「はあとほっとタイム」：学期1回以上 ◇「情報機器の安全な取扱い」の指導 久美浜学園小学生、中学生、P T A ◇主要部会の定例化（生徒指導（いじめ対策）、教育相談、特別活動）、「気づき」「今週の気になる生徒」の発行 ◇関係機関と連携した非行防止教室の実施 ◇麦わら、病院、SSWとの連携</p>	<p>○学校行事及び生徒会活動（合唱祭、体育祭等）、日常の教育活動において生徒との対話を大切に、生徒理解及び指導の充実に努めた。 ○問題事象等、早期発見・早期対応に努め、校務分掌を活用した複数対応により早期に解決を図った。若手教員の指導力の向上につながった。 ○「はあとほっとタイム」を随時給食の時間を活用して実施し、自己肯定感をさらに高めることができた。 ○「情報機器の安全な取扱い」に関する講演会を小4児童、中学生、P T A対象に実施した。保護者の理解も年々深まり、生徒のトラブルも減少している。 △関係機関等と連携を図り、不登校の改善に努めたが、不登校の解消に課題が残る。</p>
<p>健康（体育）・安全</p>	<p>1 部活動の充実と達成感の享受 2 緊急時対応訓練の充実 3 食育指導の充実 4 交通安全指導の徹底と健康教育の充実</p>	<p>◇緊急時対応訓練 6月：火災、11月：不審者、3月：地震 ◇公開授業：食育指導と保健指導との連携 ◇自転車（安全）指導、禁煙教育、生命のがん教育、薬物乱用防止教育、性に関する教育の充実</p>	<p>○部活動に対する生徒の意欲を高め、充実した活動となった。 ○学期に1回、緊急時対応訓練（地震、火災、不審者）を実施し、緊急時への対応の意識を高めた。 ○命に係る指導を保健指導、食育指導、生徒会の取組を通して計画的に実施した。命や安全に関する意識が高まった。 ○校内教育支援委員会を定期的に開催するなど、機能化が図れた。 ○特別な支援を要する生徒の授業中の実態を把握し生徒・保護者に丁寧に対応することで、授業及び学級経営等での配慮・支援に結びつけることができた。 △関係諸機関との連携を強化し、支援の充実を図る。</p>	
<p>特別支援教育</p>	<p>1 校内体制の充実 2 障害のある生徒に対する個に応じた指導の充実</p>	<p>◇コーディネーターによる校内教育支援委員会の機能化 ◇特別支援教室構想に基づく支援 ◇実態把握：アセスメント票、個別の指導計画・支援計画 ◇個別データの蓄積：発達障害のある生徒、有効な手立て ◇担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な懇談 ◇連携強化：保護者、教師間（教科担当等）、関係諸機関（病院等）</p>	<p>○迅速、丁寧な対応により、保護者、地域から一定信頼を得られた。 ○学校だより、学園だより、H Pの更新など、タイムリーな情報発信に努めた。 ○学校地域連携推進協議会を年3回開催し、情報交換、「久美浜を支える人づくり」について協議を行った。 地域・学園の取組に対する理解が深まった。</p>	
<p>開かれた学校づくり</p>	<p>1 信頼される学校づくり 2 双方方向の情報交流を活かした学校改善</p>	<p>◇保護者や地域に対する誠実・迅速・丁寧な対応 ◇たより、H P等による情報発信（学校・久美浜学園） ◇学校地域連携推進協議会の機能化と地域学校協働活動の推進</p>	<p>○迅速、丁寧な対応により、保護者、地域から一定信頼を得られた。 ○学校だより、学園だより、H Pの更新など、タイムリーな情報発信に努めた。 ○学校地域連携推進協議会を年3回開催し、情報交換、「久美浜を支える人づくり」について協議を行った。 地域・学園の取組に対する理解が深まった。</p>	
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>久美浜学園小中一貫教育により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的に実践を積み上げる。 ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善による学力の充実・向上 ②好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上 ③不登校の未然防止と不登校（傾向）生徒の改善</p>			